

亀山市の男女共同参画に関するアンケート調査 報 告 書

令和3年 3月

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	2
第2章 市民アンケート調査結果	3
1. あなたご自身のことについて	3
2. 家庭生活について	6
3. 男女共同参画社会について	21
4. 男女平等について	22
5. 子育てについて	36
6. 健康・介護について	39
7. 就労について	43
8. マタニティ・ハラスメント/パタニティ・ハラスメントについて	57
9. ワーク・ライフ・バランスについて	61
10. ドメスティック・バイオレンスなどについて	65
11. 社会参加について	83
12. 男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて	90
13. 自由回答・その他の回答	95
第3章 企業アンケート調査結果	107
1. 事業者の概要・状況について	107
2. 事業所における育児・介護に関する取り組み等の状況について	113
3. ワーク・ライフ・バランスの推進などについて	117
4. その他の回答	124
参考資料	126
1. 市民アンケート調査票	126
2. 団体アンケート調査票	136

第1章 調査の概要

1. 調査目的

令和3年度に「第4次亀山市男女共同参画基本計画」を策定するにあたって、現在の男女共同参画に関する進捗状況を確認するとともに、市民の男女共同参画に関する意識や生活について意見を伺い、計画策定の基礎資料とするためアンケート調査を実施した。

2. 調査設計

調査の種類	○亀山市の男女共同参画に関する市民アンケート調査 ○亀山市の男女共同参画に関する企業アンケート調査
調査対象地域	市内全域
調査対象者の抽出	【市民】 18歳以上 80歳未満の住民基本台帳登録者（37,000人）から年齢階層、居住地区の配分を考慮し抽出した市民1,200人（約3.2%） 【企業】 市内の事業所（亀山市雇用対策協議会会員事業所、亀山商工会議所会員事業所のうち従業員10人以上の事業所）212事業所
調査方法	調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収
調査期間	令和2年8月3日～令和2年8月25日 ※ただし、回収期限後も回答があったため、9月30日到着分まで有効回答に含めている。

3. 回収結果

対象	配布数	宛先不明等 不到着数	有効配布数	有効回収数	回収率
市民	1,200件	4件	1,196件	484件	40.5%
企業	212件	0件	212件	94件	44.3%

【参考】

◆前回調査(平成28年)の結果

平成28年7月に市民を対象として、郵送配布・回収にてアンケート調査を実施。

対象	配布数	有効回収数	回収率
市民	1,200件	439件	36.6%

4. 報告書の見方

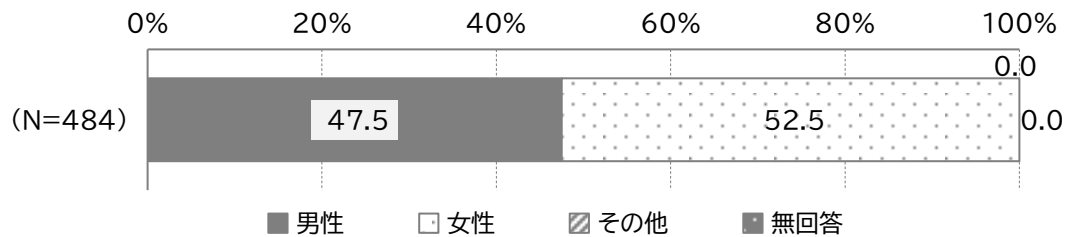
- 集計は、小数点第2位を四捨五入している。そのため、数値の合計が100%にならない場合がある。
- 基数となるべき実数(N)は、設問に対する回答者数を表す。
- 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出している。そのため、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- 市民アンケートの結果にて、「前回調査」との記載がある場合は、前ページ【参考】に示した平成28年実施の調査結果を示しているものである。また、「今回調査」との記載がある場合は、今回(令和2年)実施した調査結果を示しているものである。
- クロス集計の結果として、性別や年齢別で表やグラフを掲載している設問がある。表については、項目ごとに上位1位に濃い網掛け、上位2位に薄い網掛けをしている。ただし、Nが10未満の場合は網掛けをせず、コメントの記載もしていない。グラフについては20歳未満を表示していない。
- クロス集計結果のグラフについては、同じページにて全体の結果のグラフがある場合、凡例省略している箇所がある。

第2章 市民アンケート調査結果

1. あなたご自身のことについて

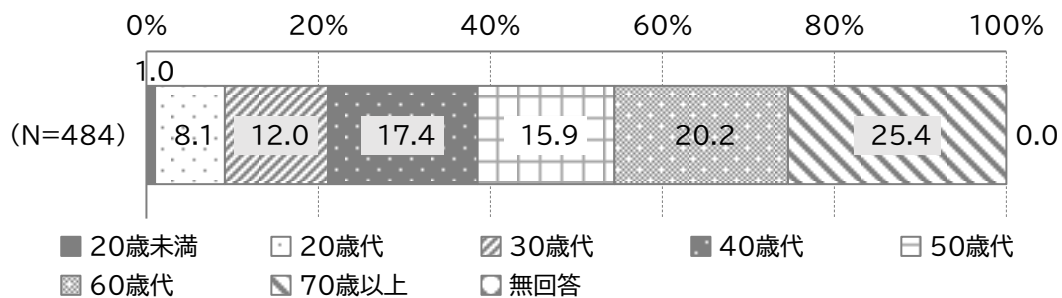
問1 あなたの性別をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。（戸籍上の区分ではなく、性自認（自分が認識している性）によりお答えください。）

「男性」が47.5%、「女性」が52.5%となっている。



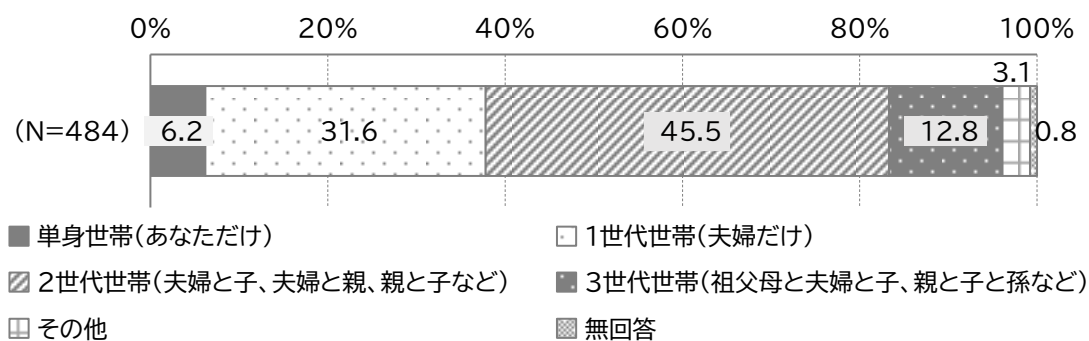
問2 あなたの年齢をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「70歳以上」が25.4%と最も多く、次いで「60歳代」が20.2%、「40歳代」が17.4%となっている。



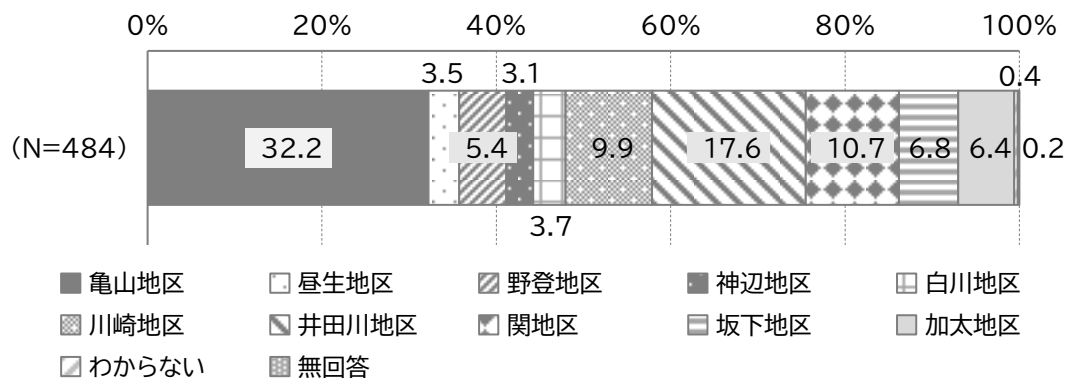
問3 あなたが現在生活しているご家庭の家族構成をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「2世代世帯（夫婦と子、夫婦と親、親と子など）」が45.5%と最も多く、次いで「1世代世帯（夫婦だけ）」が31.6%、「3世代世帯（祖父母と夫婦と子、親と子と孫など）」が12.8%となっている。



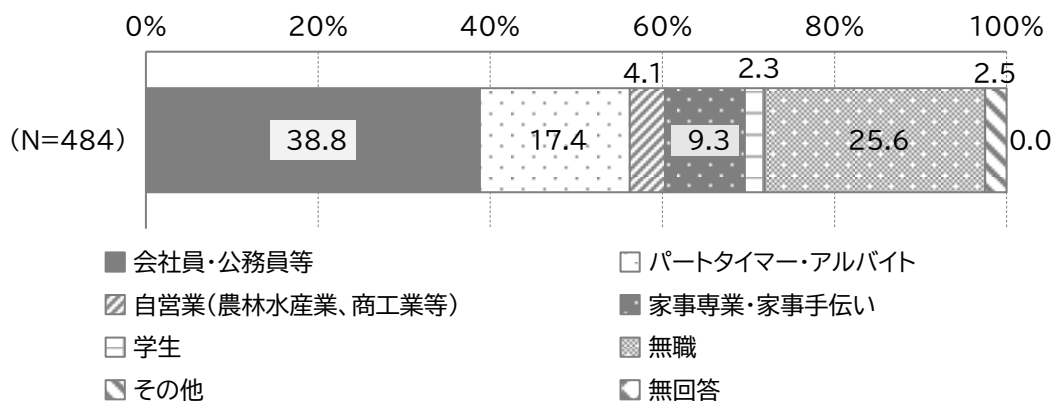
問4 あなたのお住まいの地区をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「亀山地区」が32.2%と最も多く、次いで「井田川地区」が17.6%、「関地区」が10.7%となっている。



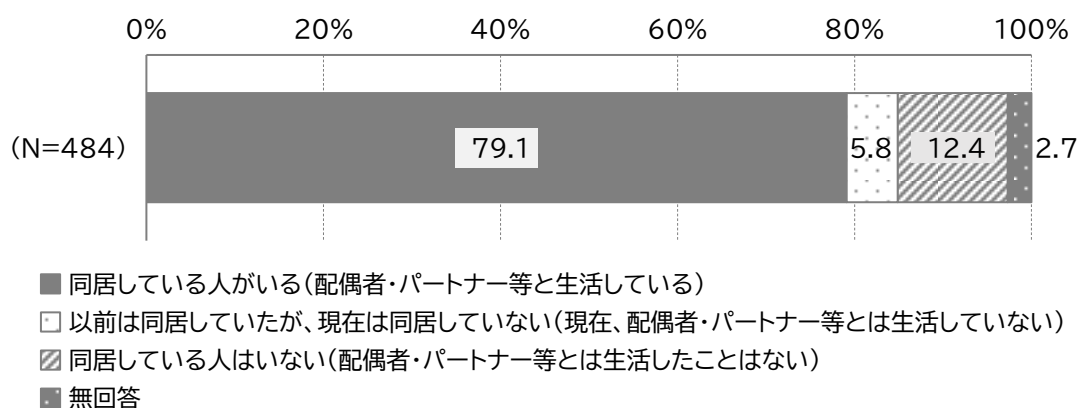
問5 あなたの職業をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「会社員・公務員等」が38.8%と最も多く、次いで「無職」が25.6%、「パートタイマー・アルバイト」が17.4%となっている。



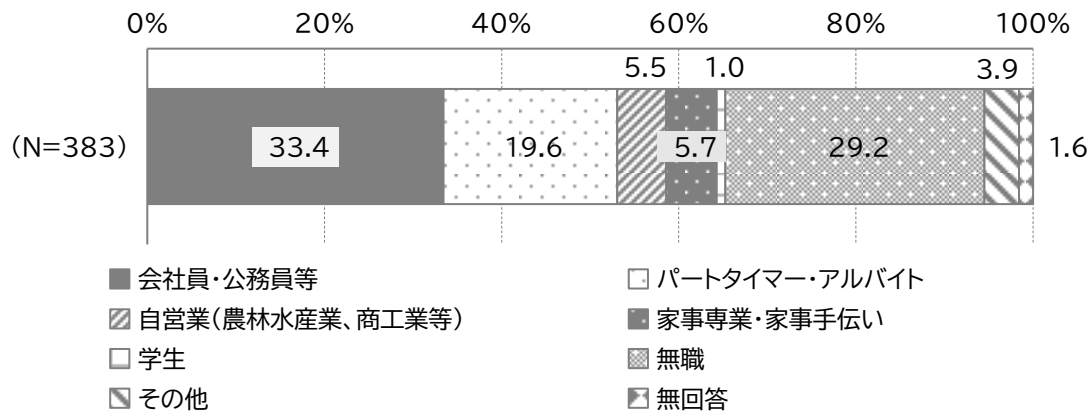
問6 あなたには同居している人がいますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「同居している人がいる(配偶者・パートナー等と生活している)」が79.1%と最も多く、次いで「同居している人はいない(配偶者・パートナー等とは生活したことはない)」が12.4%、「以前は同居していたが、現在は同居していない(現在、配偶者・パートナー等とは生活していない)」が5.8%となっている。



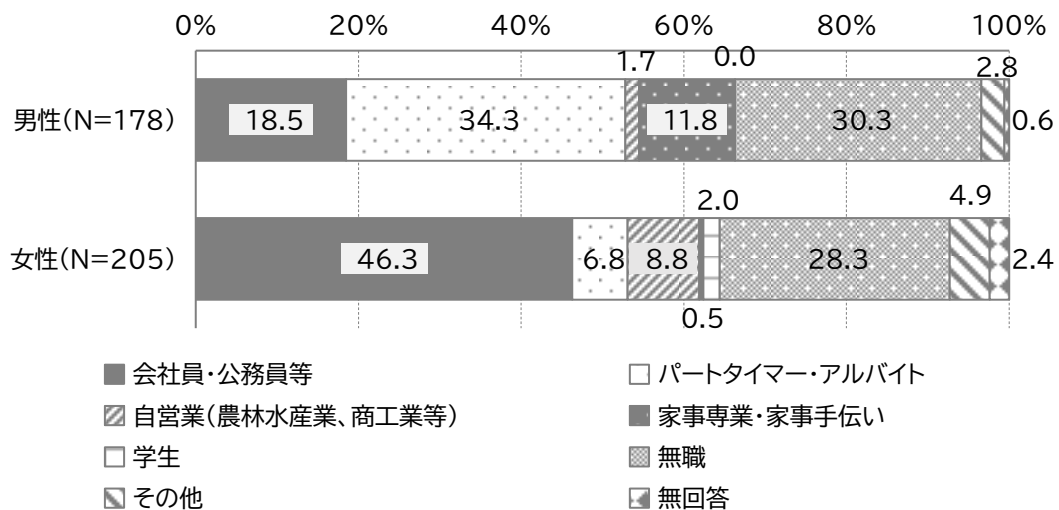
問6-2 問6で「1 同居している人がいる（配偶者・パートナー等と生活している）」と答えた方にお聞きします。あなたの配偶者（パートナー）の職業は何ですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「会社員・公務員等」が33.4%と最も多く、次いで「無職」が29.2%、「パートタイマー・アルバイト」が19.6%となっている。



■性別

配偶者（パートナー）の職業について、男性では「パートタイマー・アルバイト」が34.3%と最も多くなっている。女性では、「会社員・公務員等」が46.3%と最も多くなっている。



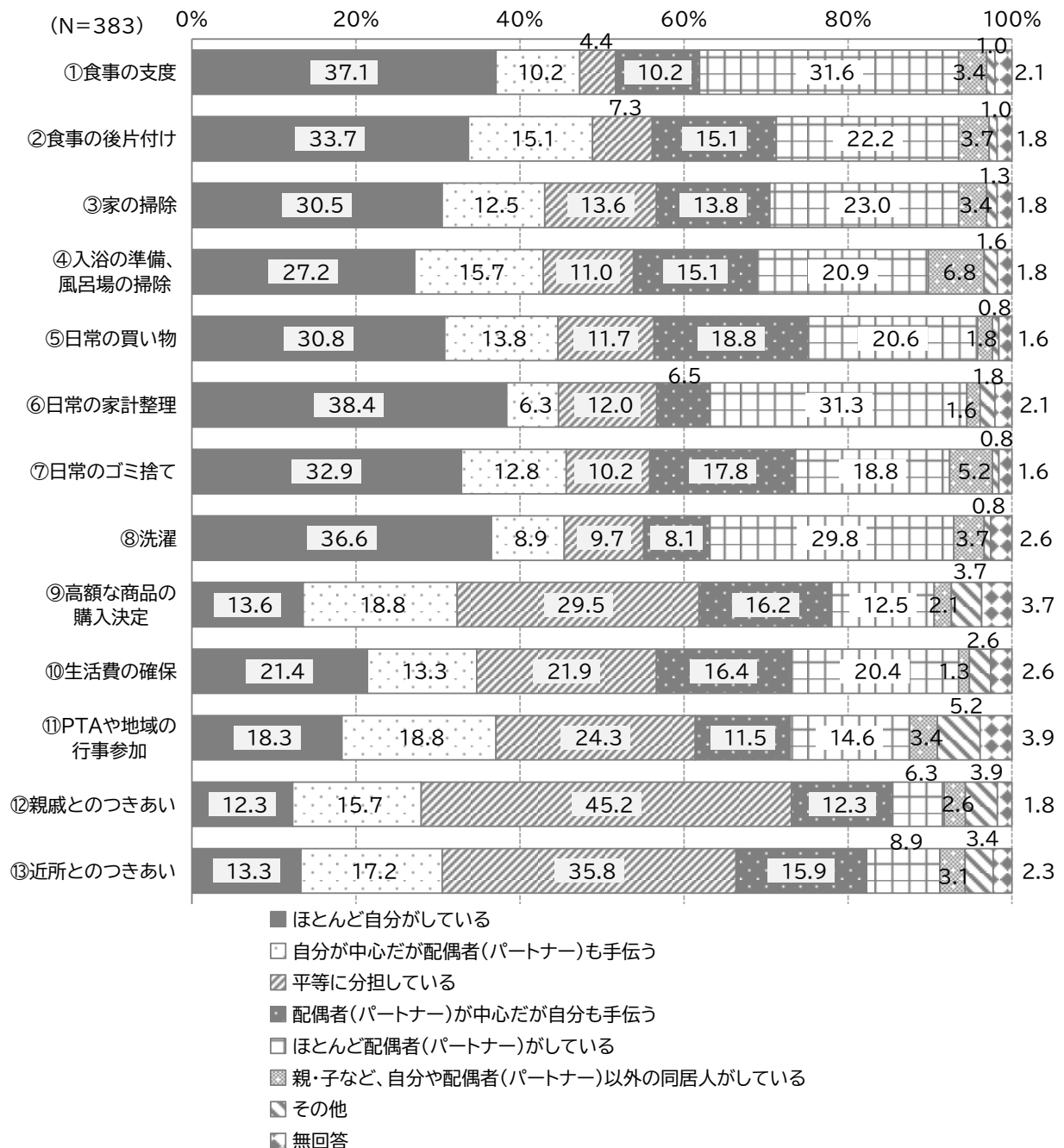
2. 家庭生活について

問7 問6で「1 同居している人がいる（配偶者・パートナー等と生活している）」と答えた方にお聞きします。あなたの家庭では、①～⑬の家庭生活について、パートナーの間でどのように行っていますか。①～⑬のそれぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。

「①食事の支度」「②食事の後片付け」「③家の掃除」「④入浴の準備、風呂場の掃除」「⑤日常の買い物」「⑥日常の家計管理」「⑦日常のゴミ捨て」「⑧洗濯」では、「ほとんど自分がしている」の割合が最も高くなっている。

「⑨高額な商品の購入決定」「⑩生活費の確保」「⑪PTAや地域の行事参加」「⑫親戚とのつきあい」「⑬近所とのつきあい」では、「平等に分担している」の割合が最も高くなっている。

【今回調査】



【参考：前回調査】※前回調査では、選択肢が違うものとなっているため、参考にとどめる。

「①食事の支度」「②食事の後片付け」「③家の掃除」「④入浴の準備、風呂場の掃除」「⑤日常の買い物」「⑥日常の家計管理」「⑦日常のゴミ捨て」「⑧洗濯」では、「ほとんど妻がしている」の割合が最も高くなっている。特に「①食事の支度」では、70%を超えている。

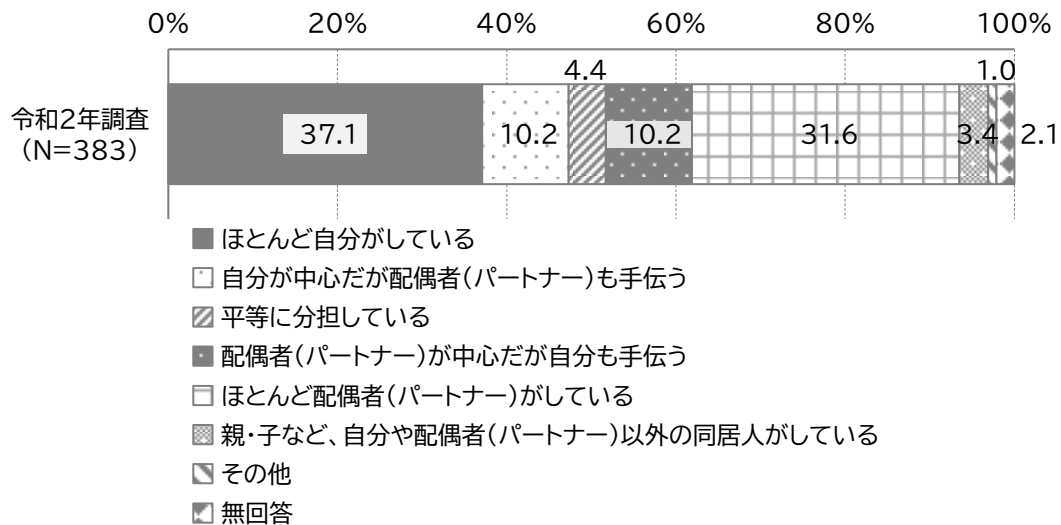
「⑨高額な商品の購入決定」「⑪PTAや地域の行事参加」「⑫親戚とのつきあい」「⑬近所とのつきあい」では、「平等に分担している」の割合が最も高くなっている。

「⑩生活費の確保」では、「ほとんど夫がしている」の割合が最も高くなっている。

	①食事の支度	②食事の後片付け	③家の掃除	④入浴の準備、風呂場の掃除	⑤日常の買い物	⑥日常の家計管理	⑦日常のゴミ捨て	⑧洗濯	⑨高額な商品の購入決定	⑩生活費の確保	⑪PTAや地域の行事の参加	⑫親戚とのつきあい	⑬近所とのつきあい
単位：％													
ほとんど妻がしている	74.2	59.8	58.3	45.1	56.7	68.1	36.5	68.4	7.1	12.6	16.3	5.8	15.6
妻が中心だが夫も手伝う	18.1	30.1	25.8	24.5	30.7	9.2	18.7	18.1	12.0	3.1	18.4	12.6	19.3
平等に分担している	3.4	4.3	8.0	9.5	7.1	8.6	4.6	4.6	37.4	21.8	21.8	50.0	39.3
夫が中心だが妻も手伝う	0.3	0.9	2.1	5.8	1.5	4.3	12.3	3.1	17.2	20.6	17.8	18.4	11.3
ほとんど夫がしている	0.9	2.5	2.5	8.0	1.5	7.1	22.7	1.5	22.1	40.8	12.3	5.5	4.9
夫婦ともほとんどしない(親、子ども、その他の人がしている)	1.2	0.9	0.9	5.2	0.9	1.2	3.4	2.1	0.3	0.0	5.8	4.0	5.8
その他	1.5	0.6	1.2	0.9	0.6	0.3	0.9	1.2	1.5	0.9	5.5	3.4	3.1
無回答	0.3	0.9	1.2	0.9	0.9	1.2	0.9	0.9	2.5	0.3	2.1	0.3	0.6

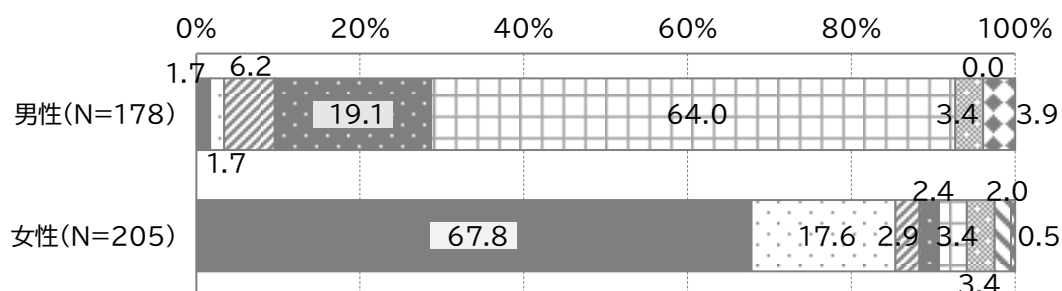
①食事の支度

「ほとんど自分がしている」が37.1%と最も多く、次いで「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が31.6%、「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」が10.2%となっている。



■性別

性別でみると、男性では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が64.0%、女性では「ほとんど自分がしている」が67.8%と最も多くなっている。



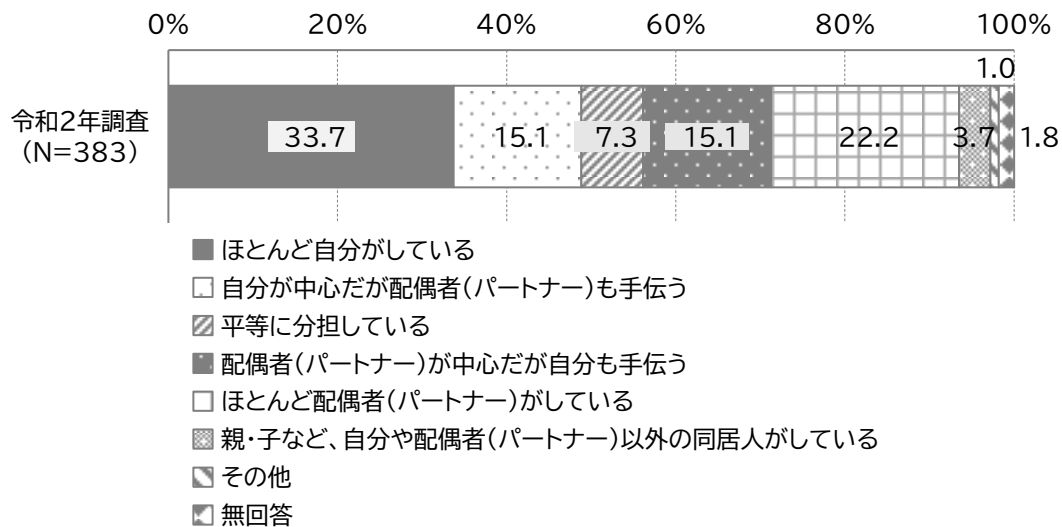
■年齢別

年齢別でみると、「30～50 歳代」では「ほとんど自分がしている」、「60 歳以上」では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が多くなっている。

	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者(パートナー)も手伝う	平等に分担している	配偶者(パートナー)が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者(パートナー)がしている	親・子など、自分や配偶者(パートナー)以外の同居人がしている	その他	無回答
単位：%								
全体(N=383)	37.1	10.2	4.4	10.2	31.6	3.4	1.0	2.1
20 歳未満(N=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代(N=13)	0.0	7.7	7.7	23.1	23.1	23.1	0.0	15.4
30 歳代(N=49)	40.8	12.2	8.2	16.3	14.3	8.2	0.0	0.0
40 歳代(N=73)	38.4	8.2	1.4	16.4	27.4	4.1	2.7	1.4
50 歳代(N=64)	46.9	14.1	4.7	1.6	29.7	1.6	1.6	0.0
60 歳代(N=85)	34.1	9.4	7.1	7.1	38.8	1.2	0.0	2.4
70 歳以上(N=97)	36.1	9.3	2.1	8.2	39.2	1.0	1.0	3.1

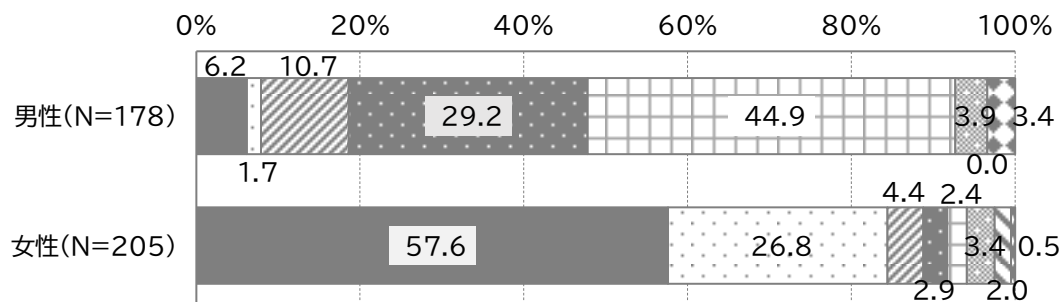
②食事の後片付け

「ほとんど自分がしている」が 33.7%と最も多く、次いで「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 22.2%、「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」が 15.1%となっている。



■性別

性別でみると、男性では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 44.9%、女性では「ほとんど自分がしている」が 57.6%と最も多くなっている。



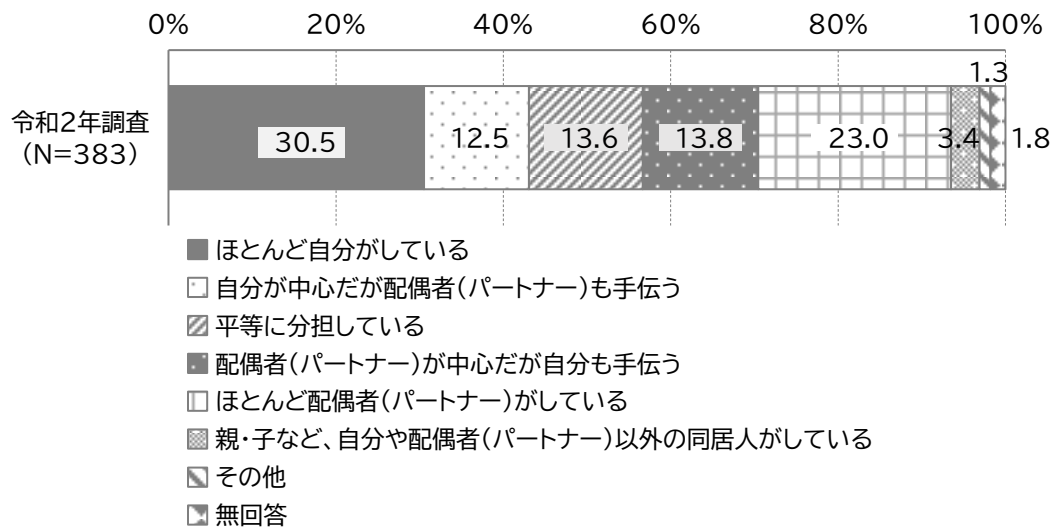
■年齢別

年齢別にみると、「30 歳以上」のすべての年代において「ほとんど自分がしている」が最も多くなっている。

	ほとんど 自分がして いる	自分が中心 だが配偶者 (パートナ ー)も手伝う	平等に分担 している	配偶者(パート ナー)が中 心だが自分 も手伝う	ほとんど配 偶者(パート ナー)がして いる	親・子な ど、自分や 配偶者(パート ナー)以外 の同居人が している	その他	無回答
単位：%								
全体(N=383)	33.7	15.1	7.3	15.1	22.2	3.7	1.0	1.8
20 歳未満(N=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代(N=13)	0.0	15.4	7.7	23.1	15.4	23.1	0.0	15.4
30 歳代(N=49)	28.6	18.4	20.4	16.3	6.1	10.2	0.0	0.0
40 歳代(N=73)	35.6	13.7	5.5	19.2	17.8	4.1	2.7	1.4
50 歳代(N=64)	39.1	18.8	7.8	9.4	21.9	1.6	1.6	0.0
60 歳代(N=85)	35.3	14.1	7.1	18.8	22.4	0.0	0.0	2.4
70 歳以上(N=97)	35.1	13.4	1.0	11.3	34.0	2.1	1.0	2.1

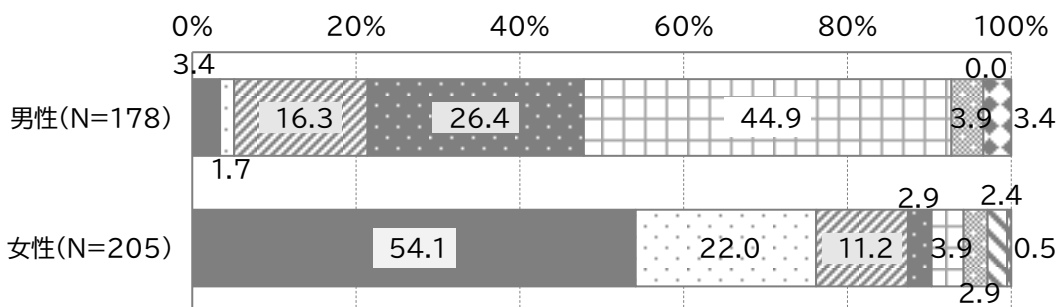
③家の掃除

「ほとんど自分がしている」が 30.5%と最も多く、次いで「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 23.0%、「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」が 13.8%となっている。



■性別

性別でみると、男性では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 44.9%、女性では「ほとんど自分がしている」が 54.1%と最も多くなっている。



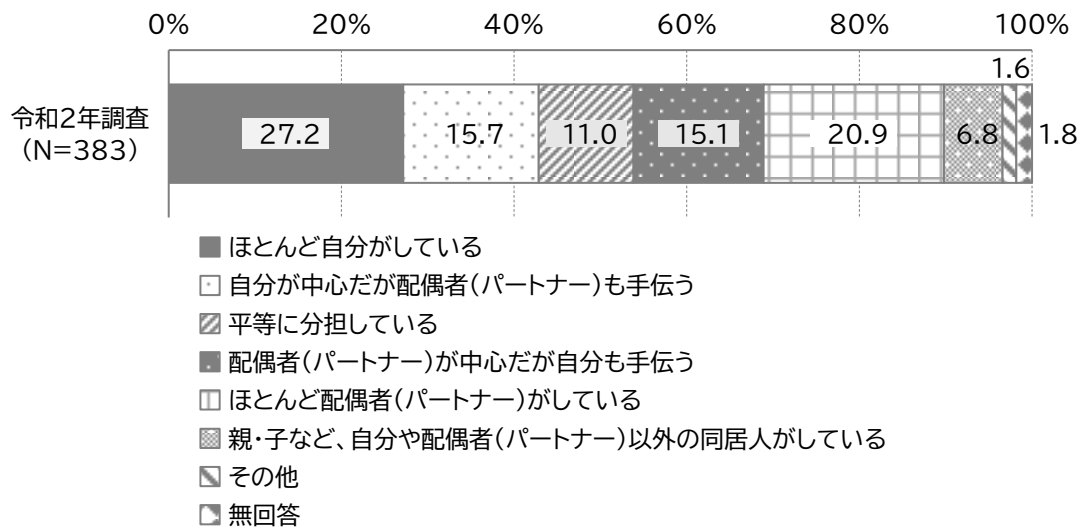
■年齢別

年齢別にみると、「30 歳以上」のすべての年代において「ほとんど自分がしている」が最も多くなっている。

	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う	平等に分担している	配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者（パートナー）がしている	親・子など、自分や配偶者（パートナー）以外の同居人がしている	その他	無回答
単位：%								
全体(N=383)	30.5	12.5	13.6	13.8	23.0	3.4	1.3	1.8
20 歳未満(N=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代(N=13)	7.7	0.0	7.7	15.4	30.8	23.1	0.0	15.4
30 歳代(N=49)	28.6	12.2	24.5	10.2	14.3	8.2	2.0	0.0
40 歳代(N=73)	27.4	16.4	9.6	16.4	23.3	2.7	2.7	1.4
50 歳代(N=64)	37.5	14.1	12.5	10.9	18.8	4.7	1.6	0.0
60 歳代(N=85)	29.4	9.4	18.8	16.5	23.5	0.0	0.0	2.4
70 歳以上(N=97)	34.0	13.4	7.2	13.4	27.8	1.0	1.0	2.1

④入浴の準備、風呂場の掃除

「ほとんど自分がしている」が 27.2%と最も多く、次いで「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 20.9%、「自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う」が 15.7%となっている。



■性別

性別でみると、男性では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 32.6%、女性では「ほとんど自分がしている」が 42.0%と最も多くなっている。



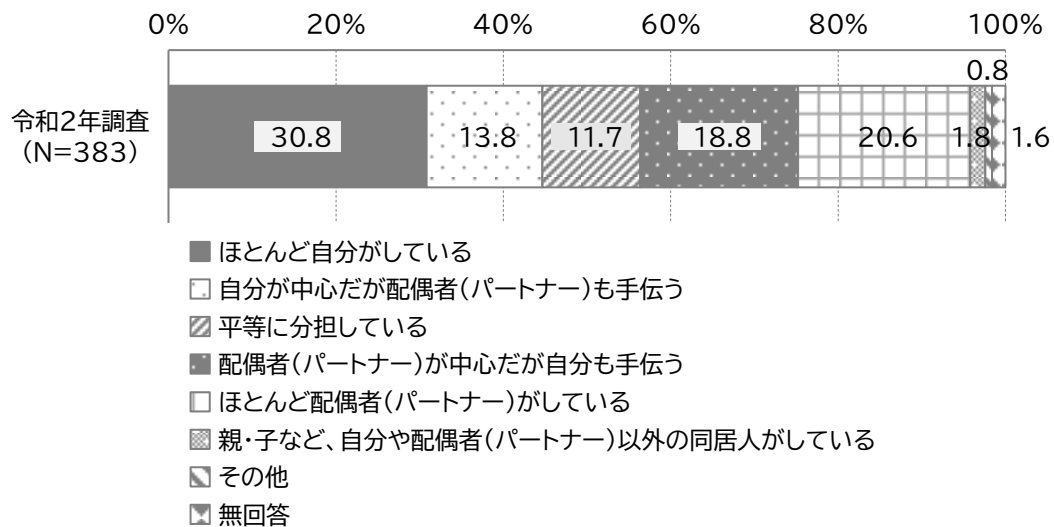
■年齢別

年齢別にみると、「30 歳代」では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」、「40 歳以上」のすべての年代においては「ほとんど自分がしている」が最も多くなっている。

	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者(パートナー)も手伝う	平等に分担している	配偶者(パートナー)が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者(パートナー)がしている	親・子など、自分や配偶者(パートナー)以外の同居人がしている	その他	無回答
単位：%								
全体(N=383)	27.2	15.7	11.0	15.1	20.9	6.8	1.6	1.8
20 歳未満(N=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代(N=13)	7.7	7.7	0.0	30.8	7.7	38.5	0.0	7.7
30 歳代(N=49)	22.4	16.3	20.4	8.2	24.5	8.2	0.0	0.0
40 歳代(N=73)	27.4	19.2	9.6	11.0	19.2	9.6	2.7	1.4
50 歳代(N=64)	25.0	17.2	14.1	17.2	15.6	7.8	3.1	0.0
60 歳代(N=85)	28.2	12.9	14.1	15.3	24.7	2.4	0.0	2.4
70 歳以上(N=97)	33.0	15.5	3.1	18.6	21.6	3.1	2.1	3.1

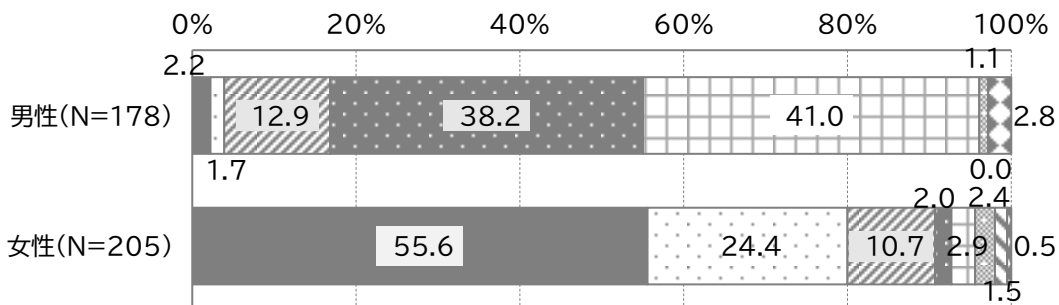
⑤日常の買い物

「ほとんど自分がしている」が 30.8%と最も多く、次いで「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 20.6%、「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」が 18.8%となっている。



■性別

性別でみると、男性では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 41.0%、女性では「ほとんど自分がしている」が 55.6%と最も多くなっている。



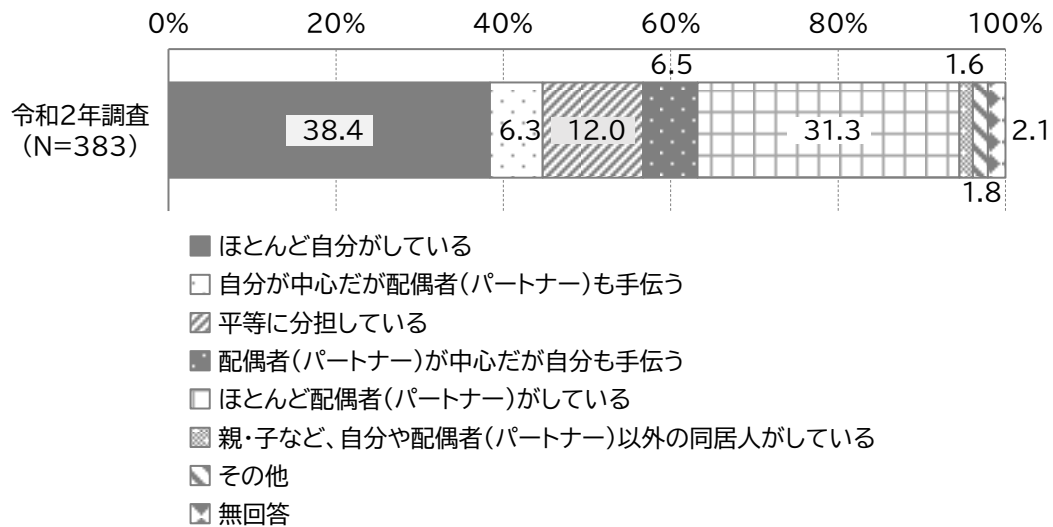
■年齢別

年齢別にみると、「30 歳以上」のすべての年代において「ほとんど自分がしている」が最も多くなっている。

	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者(パートナー)も手伝う	平等に分担している	配偶者(パートナー)が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者(パートナー)がしている	親・子など、自分や配偶者(パートナー)以外の同居人がしている	その他	無回答
単位：%								
全体(N=383)	30.8	13.8	11.7	18.8	20.6	1.8	0.8	1.6
20 歳未満(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代(N=13)	0.0	0.0	23.1	15.4	23.1	23.1	0.0	15.4
30 歳代(N=49)	36.7	16.3	18.4	16.3	10.2	2.0	0.0	0.0
40 歳代(N=73)	31.5	15.1	9.6	16.4	23.3	1.4	1.4	1.4
50 歳代(N=64)	40.6	14.1	10.9	18.8	14.1	1.6	0.0	0.0
60 歳代(N=85)	30.6	12.9	9.4	21.2	23.5	0.0	0.0	2.4
70 歳以上(N=97)	25.8	14.4	11.3	20.6	23.7	1.0	2.1	1.0

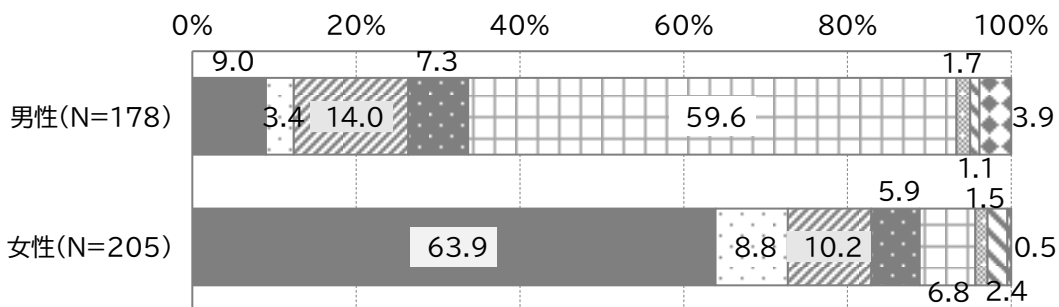
⑥日常の家計管理

「ほとんど自分がしている」が 38.4%と最も多く、次いで「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 31.3%、「平等に分担している」が 12.0%となっている。



■性別

性別でみると、男性では「ほとんど配偶者(パートナー)がしている」が 59.6%、女性では「ほとんど自分がしている」が 63.9%と最も多くなっている。



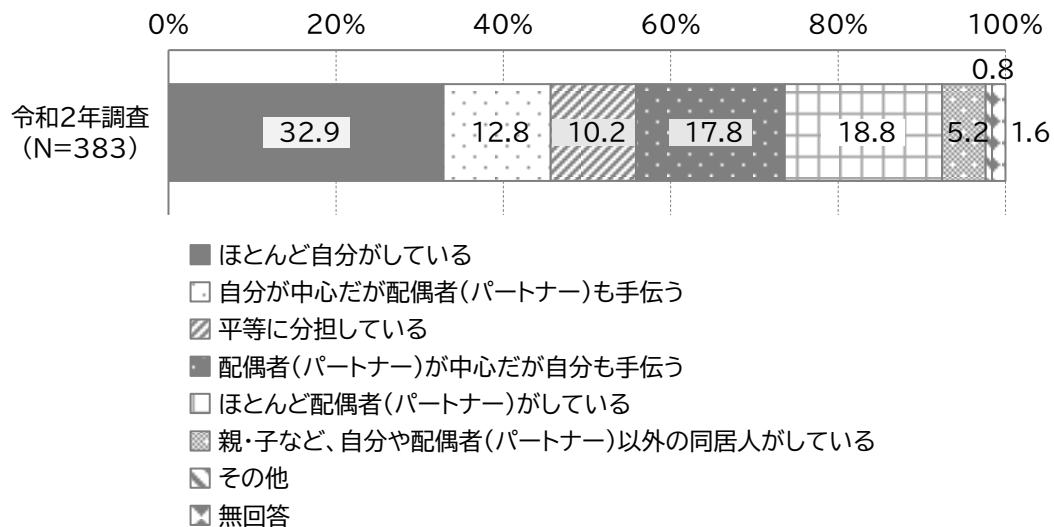
■年齢別

年齢別にみると、「30 歳以上」のすべての年代において「ほとんど自分がしている」が最も多くなっている。

	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者(パートナー)も手伝う	平等に分担している	配偶者(パートナー)が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者(パートナー)がしている	親・子など、自分や配偶者(パートナー)以外の同居人がしている	その他	無回答
単位：%								
全体(N=383)	38.4	6.3	12.0	6.5	31.3	1.6	1.8	2.1
20 歳未満(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代(N=13)	7.7	0.0	0.0	0.0	53.8	15.4	7.7	15.4
30 歳代(N=49)	40.8	2.0	20.4	10.2	16.3	6.1	4.1	0.0
40 歳代(N=73)	39.7	9.6	13.7	5.5	26.0	1.4	2.7	1.4
50 歳代(N=64)	46.9	6.3	10.9	4.7	29.7	0.0	1.6	0.0
60 歳代(N=85)	35.3	5.9	12.9	9.4	34.1	0.0	0.0	2.4
70 歳以上(N=97)	38.1	7.2	8.2	5.2	37.1	0.0	1.0	3.1

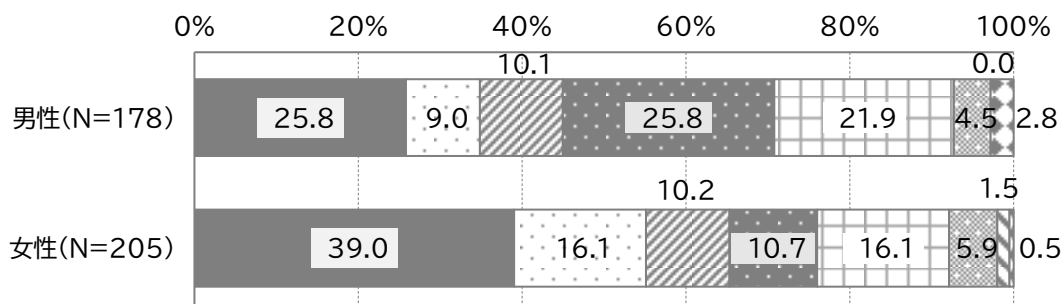
⑦日常のゴミ捨て

「ほとんど自分がしている」が 32.9%と最も多く、次いで「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 18.8%、「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」が 17.8%となっている。



■性別

性別でみると、男性では「ほとんど自分がしている」「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」が 25.9%、女性では「ほとんど自分がしている」が 39.0%と最も多くなっている。



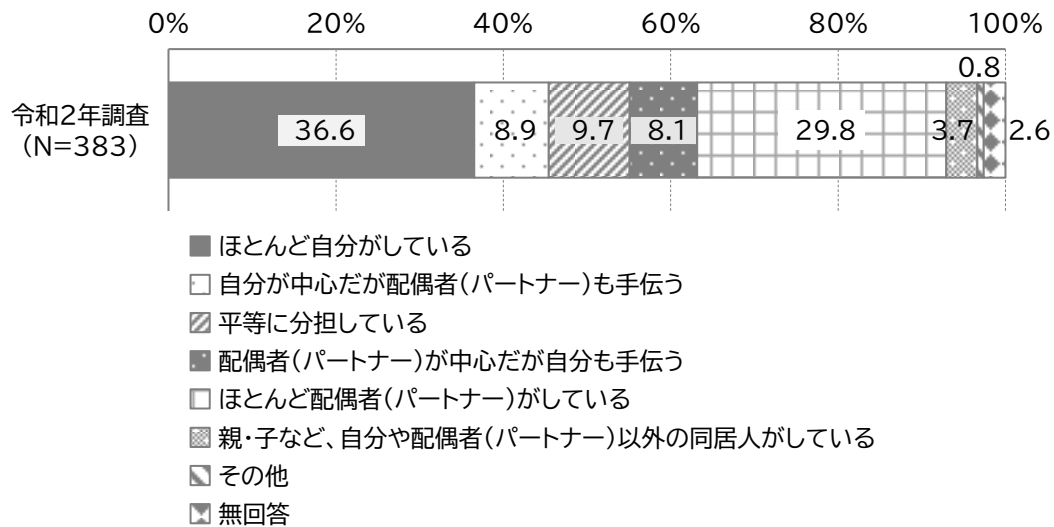
■年齢別

年齢別にみると、「30 歳以上」のすべての年代において「ほとんど自分がしている」が最も多くなっている。

	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者(パートナー)も手伝う	平等に分担している	配偶者(パートナー)が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者(パートナー)がしている	親・子など、自分や配偶者(パートナー)以外の同居人がしている	その他	無回答
単位：%								
全体(N=383)	32.9	12.8	10.2	17.8	18.8	5.2	0.8	1.6
20 歳未満(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代(N=13)	0.0	23.1	0.0	7.7	30.8	23.1	0.0	15.4
30 歳代(N=49)	26.5	10.2	22.4	18.4	10.2	10.2	2.0	0.0
40 歳代(N=73)	39.7	6.8	12.3	16.4	13.7	8.2	1.4	1.4
50 歳代(N=64)	29.7	15.6	15.6	10.9	20.3	7.8	0.0	0.0
60 歳代(N=85)	40.0	14.1	3.5	20.0	20.0	0.0	0.0	2.4
70 歳以上(N=97)	32.0	14.4	6.2	22.7	21.6	1.0	1.0	1.0

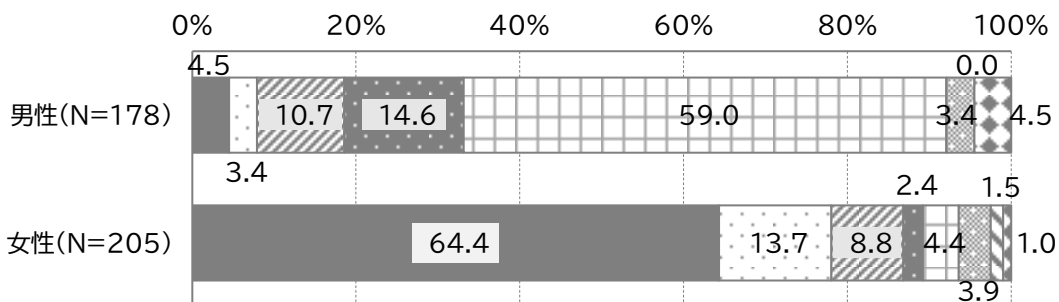
⑧洗濯

「ほとんど自分がしている」が 36.6%と最も多く、次いで「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 29.8%、「平等に分担している」が 9.7%となっている。



■性別

性別でみると、男性では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が 59.0%、女性では「ほとんど自分がしている」が 64.4%と最も多くなっている。



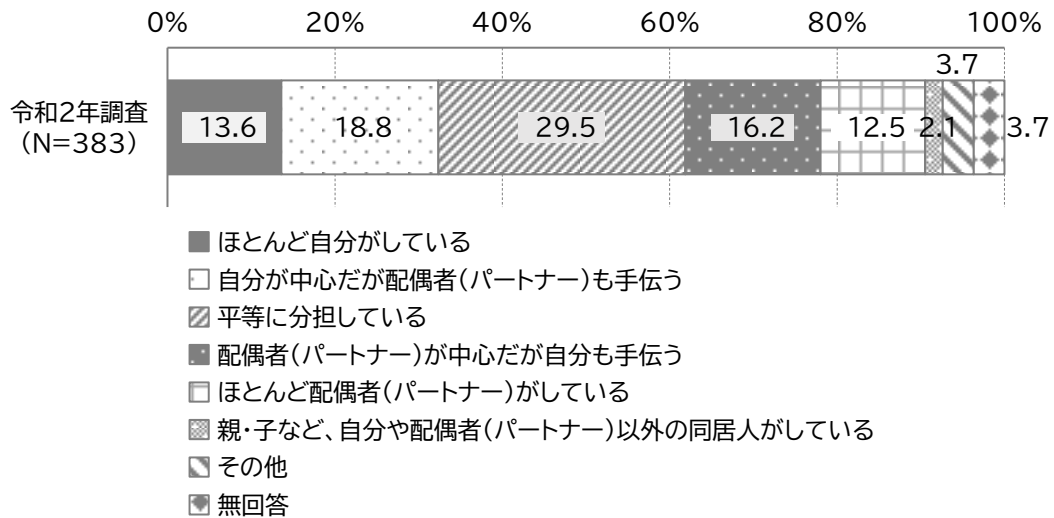
■年齢別

年齢別にみると、「30 歳～50 歳代」「70 歳以上」では「ほとんど自分がしている」、「60 歳代」では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が最も多くなっている。「40 歳代」については、「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」も多くなっている。

	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う	平等に分担している	配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者（パートナー）がしている	親・子など、自分や配偶者（パートナー）以外の同居人がしている	その他	無回答
単位：%								
全体(N=383)	36.6	8.9	9.7	8.1	29.8	3.7	0.8	2.6
20 歳未満(N=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代(N=13)	0.0	15.4	15.4	15.4	23.1	15.4	0.0	15.4
30 歳代(N=49)	36.7	12.2	22.4	8.2	10.2	8.2	2.0	0.0
40 歳代(N=73)	31.5	9.6	13.7	5.5	31.5	5.5	1.4	1.4
50 歳代(N=64)	43.8	6.3	10.9	6.3	26.6	6.3	0.0	0.0
60 歳代(N=85)	36.5	7.1	5.9	9.4	37.6	0.0	0.0	3.5
70 歳以上(N=97)	41.2	9.3	1.0	9.3	34.0	0.0	1.0	4.1

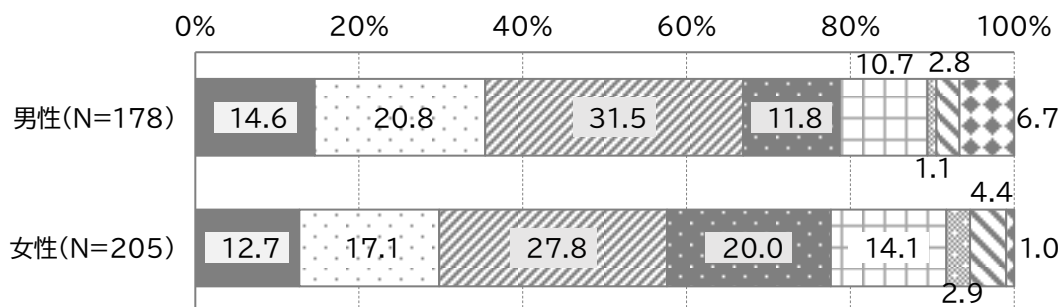
⑨高額な商品の購入決定

「平等に分担している」が29.5%と最も多く、次いで「自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う」が18.8%、「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」が16.2%となっている。



■性別

性別でみると、ともに「平等に分担している」が最も多く、男性で31.5%、女性で27.8%となっている。



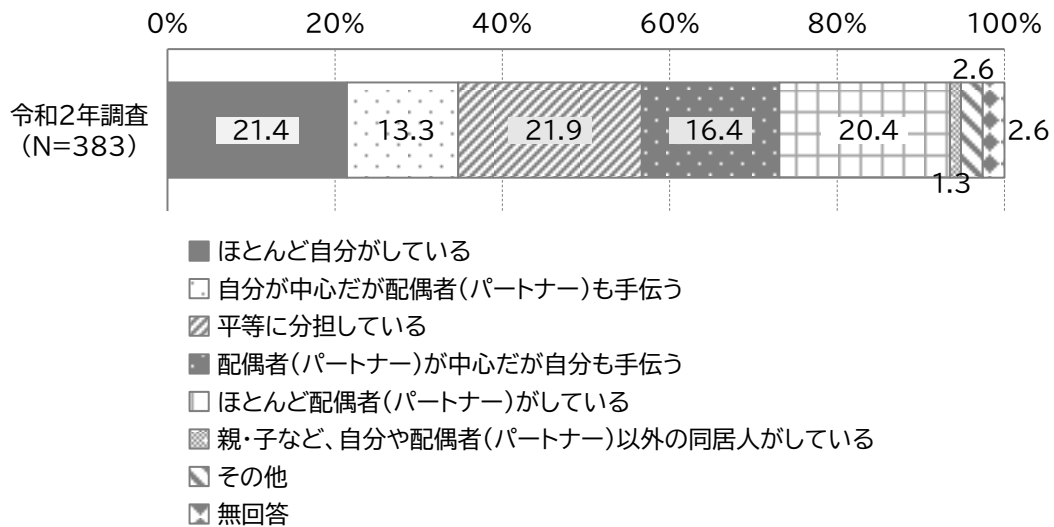
■年齢別

年齢別にみると、「30歳以上」のすべての年代において「ほとんど自分がしている」が最も多くなっている。「70歳以上」については、「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」も多くなっている。

単位：%	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う	平等に分担している	配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者（パートナー）がしている	親・子など、自分や配偶者（パートナー）以外の同居人がしている	その他	無回答
全体(N=383)	13.6	18.8	29.5	16.2	12.5	2.1	3.7	3.7
20歳未満(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(N=13)	7.7	7.7	15.4	7.7	15.4	15.4	15.4	15.4
30歳代(N=49)	8.2	14.3	42.9	18.4	6.1	4.1	6.1	0.0
40歳代(N=73)	20.5	13.7	31.5	15.1	11.0	0.0	5.5	2.7
50歳代(N=64)	6.3	23.4	35.9	17.2	10.9	6.3	0.0	0.0
60歳代(N=85)	14.1	23.5	28.2	11.8	16.5	0.0	2.4	3.5
70歳以上(N=97)	16.5	19.6	20.6	20.6	12.4	0.0	3.1	7.2

⑩生活費の確保

「平等に分担している」が21.9%と最も多く、次いで「ほとんど自分がしている」が21.4%、「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が20.4%となっている。



■性別

性別でみると、男性では「ほとんど自分がしている」が26.4%、女性では「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が25.4%と最も多くなっている。



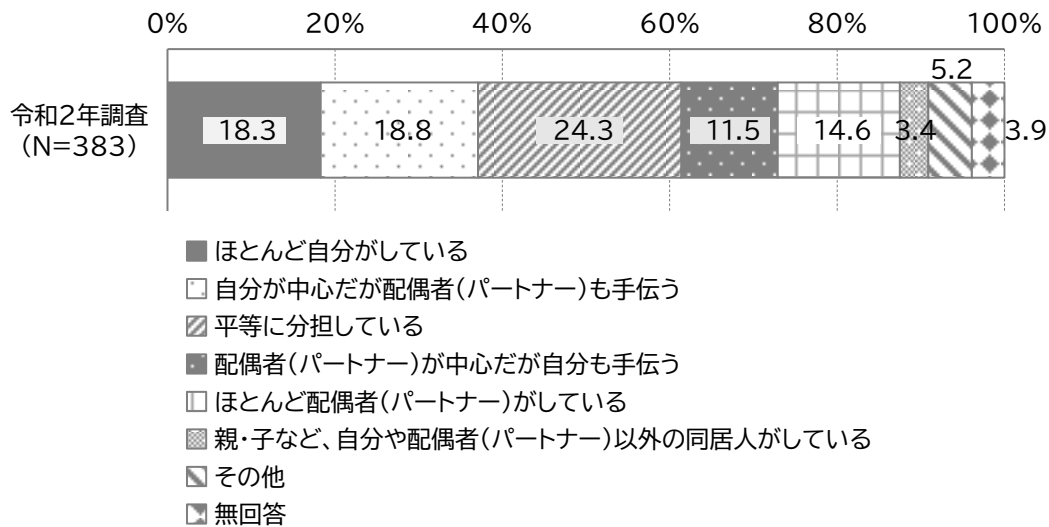
■年齢別

年齢別にみると、「30歳代」「60歳以上」では「平等に分担している」、「40歳代」では27.4%、「50歳代」では「ほとんど配偶者（パートナー）がしている」が最も多くなっている。

	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う	平等に分担している	配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者（パートナー）がしている	親・子など、自分や配偶者（パートナー）以外の同居人がしている	その他	無回答
単位：%								
全体(N=383)	21.4	13.3	21.9	16.4	20.4	1.3	2.6	2.6
20歳未満(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(N=13)	15.4	0.0	15.4	0.0	23.1	23.1	7.7	15.4
30歳代(N=49)	18.4	10.2	28.6	16.3	22.4	2.0	2.0	0.0
40歳代(N=73)	27.4	13.7	11.0	20.5	20.5	0.0	5.5	1.4
50歳代(N=64)	18.8	12.5	20.3	18.8	28.1	1.6	0.0	0.0
60歳代(N=85)	21.2	12.9	29.4	17.6	15.3	0.0	1.2	2.4
70歳以上(N=97)	21.6	17.5	22.7	13.4	16.5	0.0	3.1	5.2

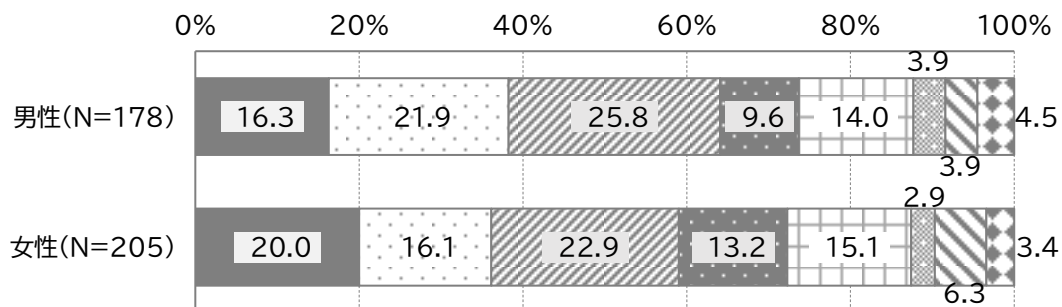
⑪PTAや地域の行事参加

「平等に分担している」が24.3%と最も多く、次いで「自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う」が18.8%、「ほとんど自分がしている」が18.3%となっている。



■性別

性別でみると、ともに「平等に分担している」が最も多く、男性で25.8%、女性で22.9%となっている。



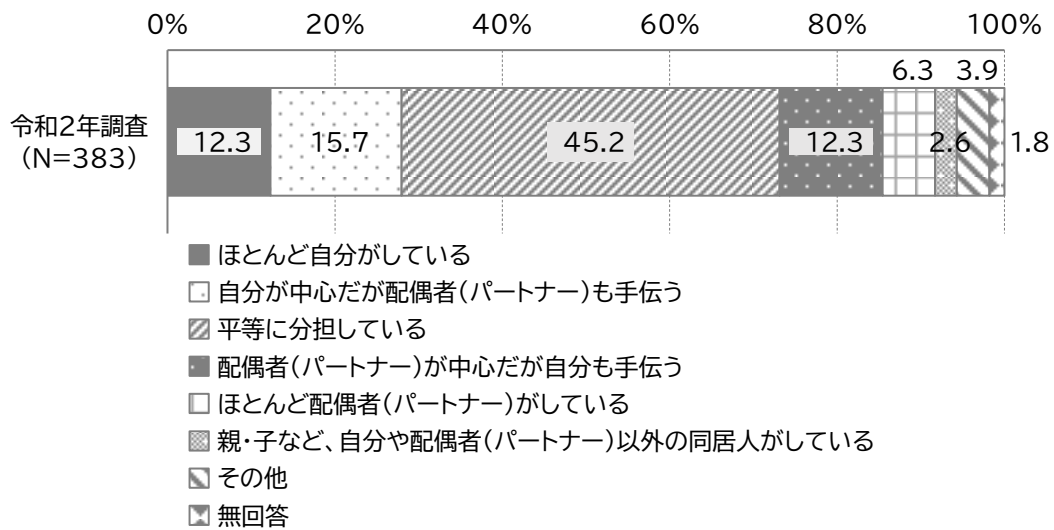
■年齢別

年齢別にみると、「30～50 歳代」では「平等に分担している」、「60 歳代」では「自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う」、「70 歳以上」では「ほとんど自分がしている」が最も多くとなっている。

単位：%	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う	平等に分担している	配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者（パートナー）がしている	親・子など、自分や配偶者（パートナー）以外の同居人がしている	その他	無回答
全体(N=383)	18.3	18.8	24.3	11.5	14.6	3.4	5.2	3.9
20 歳未満(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代(N=13)	0.0	0.0	23.1	0.0	30.8	23.1	7.7	15.4
30 歳代(N=49)	12.2	10.2	34.7	8.2	8.2	12.2	12.2	2.0
40 歳代(N=73)	19.2	13.7	30.1	12.3	16.4	2.7	4.1	1.4
50 歳代(N=64)	18.8	17.2	31.3	14.1	18.8	0.0	0.0	0.0
60 歳代(N=85)	20.0	31.8	17.6	10.6	11.8	1.2	3.5	3.5
70 歳以上(N=97)	21.6	19.6	16.5	13.4	12.4	1.0	7.2	8.2

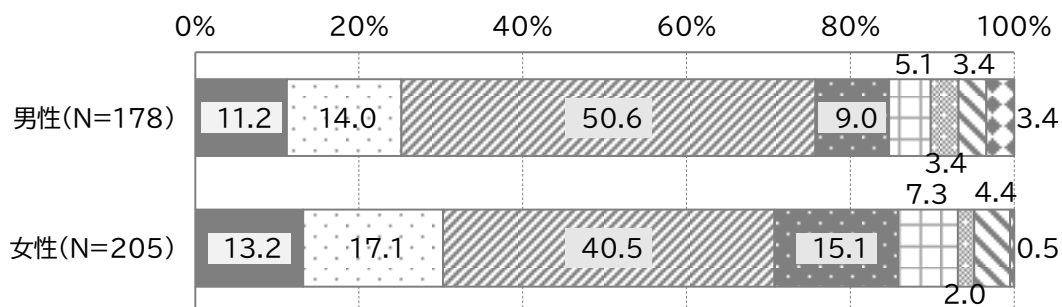
⑫親戚とのつきあい

「平等に分担している」が45.2%と最も多く、次いで「自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う」が15.7%、「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」が12.3%となっている。



■性別

性別でみると、ともに「平等に分担している」が最も多く、男性で50.6%、女性で40.5%となっている。



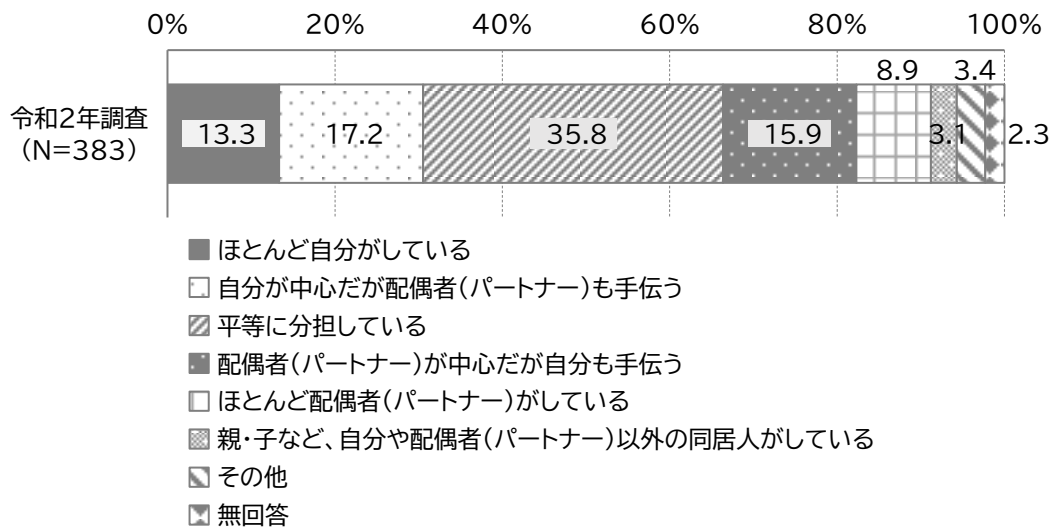
■年齢別

年齢別にみると、「30歳以上」のすべての年代において「平等に分担している」が最も多くとなっている。

単位: %	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者(パートナー)も手伝う	平等に分担している	配偶者(パートナー)が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者(パートナー)がしている	親・子など、自分や配偶者(パートナー)以外の同居人がしている	その他	無回答
全体(N=383)	12.3	15.7	45.2	12.3	6.3	2.6	3.9	1.8
20歳未満(N=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(N=13)	7.7	0.0	30.8	15.4	15.4	15.4	0.0	15.4
30歳代(N=49)	6.1	6.1	57.1	4.1	4.1	12.2	10.2	0.0
40歳代(N=73)	9.6	9.6	50.7	16.4	5.5	1.4	5.5	1.4
50歳代(N=64)	7.8	20.3	51.6	7.8	7.8	1.6	3.1	0.0
60歳代(N=85)	12.9	16.5	47.1	11.8	5.9	0.0	3.5	2.4
70歳以上(N=97)	20.6	23.7	32.0	15.5	5.2	0.0	1.0	2.1

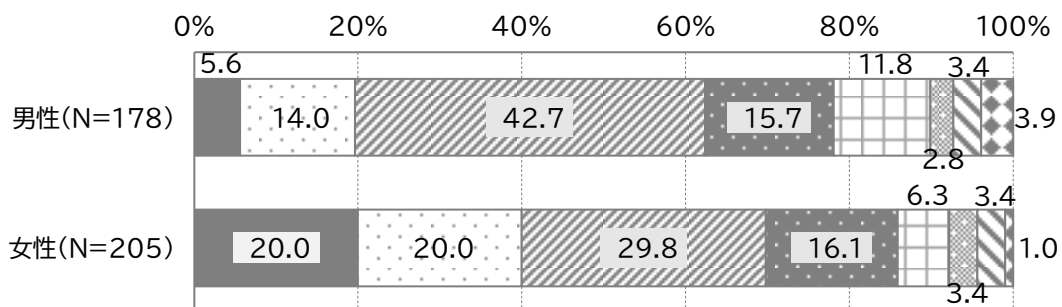
⑬近所とのつきあい

「平等に分担している」が35.8%と最も多く、次いで「自分が中心だが配偶者（パートナー）も手伝う」が17.2%、「配偶者（パートナー）が中心だが自分も手伝う」が15.9%となっている。



■性別

性別でみると、ともに「平等に分担している」が最も多く、男性で42.7%、女性で29.8%となっている。



■年齢別

年齢別にみると、「30歳以上」のすべての年代において「平等に分担している」が最も多くとなっている。

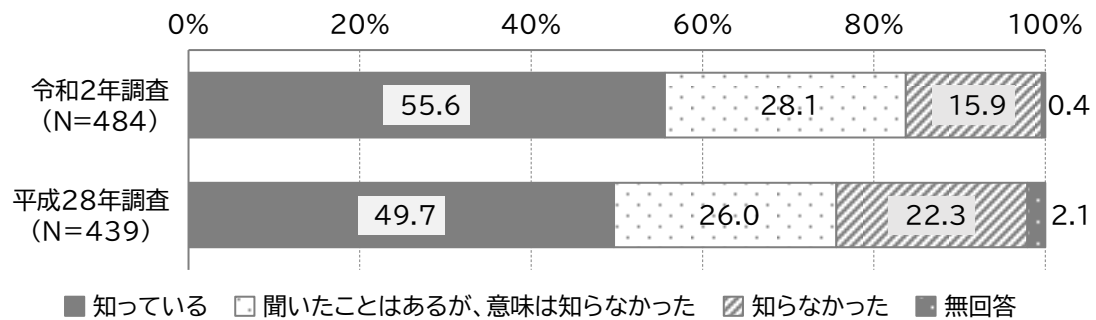
	ほとんど自分がしている	自分が中心だが配偶者(パートナー)も手伝う	平等に分担している	配偶者(パートナー)が中心だが自分も手伝う	ほとんど配偶者(パートナー)がしている	親・子など、自分や配偶者(パートナー)以外の同居人がしている	その他	無回答
単位: %								
全体(N=383)	13.3	17.2	35.8	15.9	8.9	3.1	3.4	2.3
20歳未満(N=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(N=13)	0.0	7.7	7.7	30.8	15.4	23.1	0.0	15.4
30歳代(N=49)	12.2	6.1	49.0	6.1	2.0	10.2	14.3	0.0
40歳代(N=73)	15.1	11.0	35.6	16.4	13.7	2.7	2.7	2.7
50歳代(N=64)	12.5	21.9	40.6	12.5	9.4	3.1	0.0	0.0
60歳代(N=85)	12.9	23.5	36.5	16.5	7.1	0.0	1.2	2.4
70歳以上(N=97)	15.5	20.6	29.9	19.6	8.2	0.0	3.1	3.1

3. 男女共同参画社会について

問8 あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「知っている」が55.6%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」が28.1%、「知らなかった」が15.9%となっている。

前回調査と比べると、「知っている」と回答した人の割合は、5.9ポイント増加している。



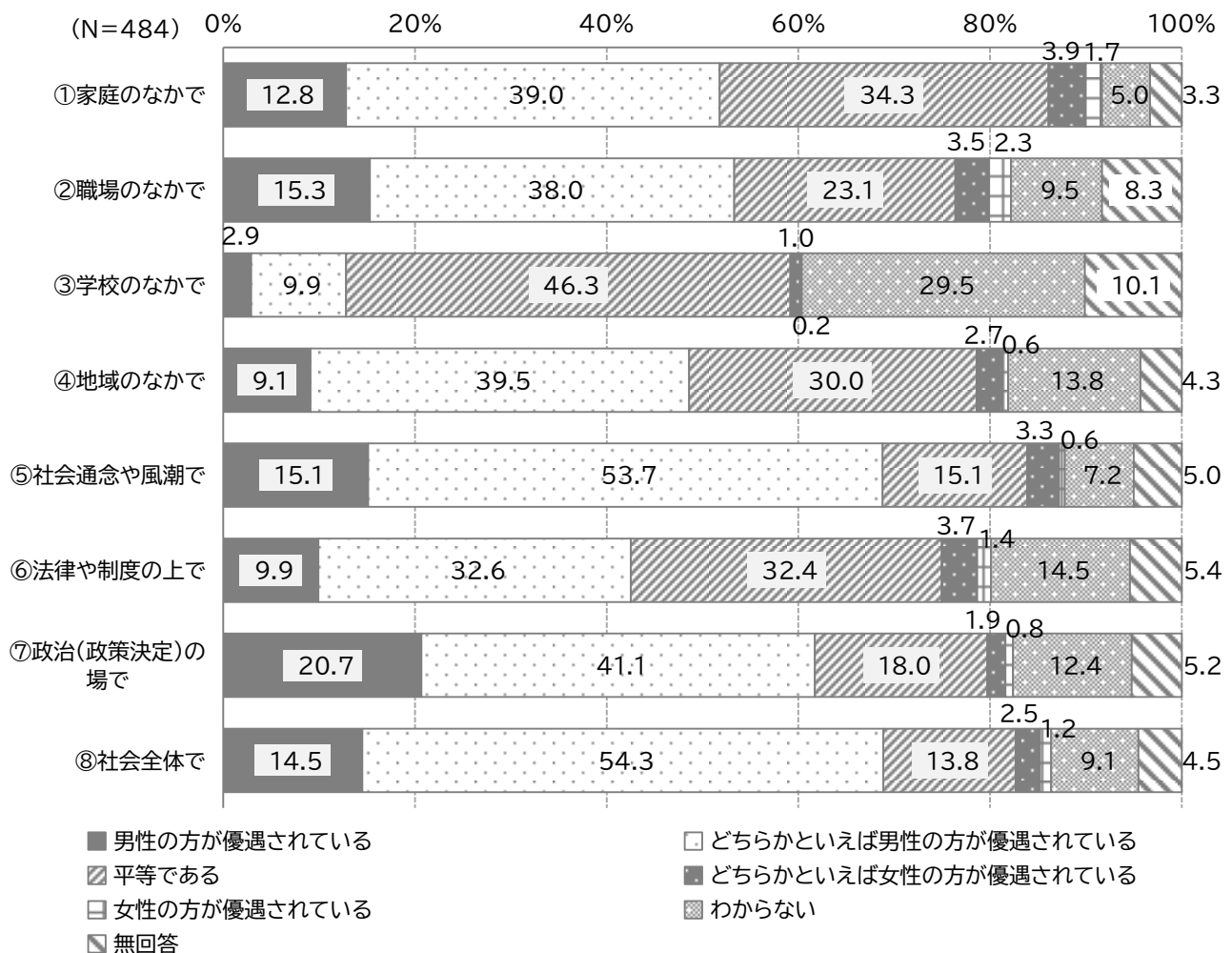
4. 男女平等について

問9 あなたは、次の分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。

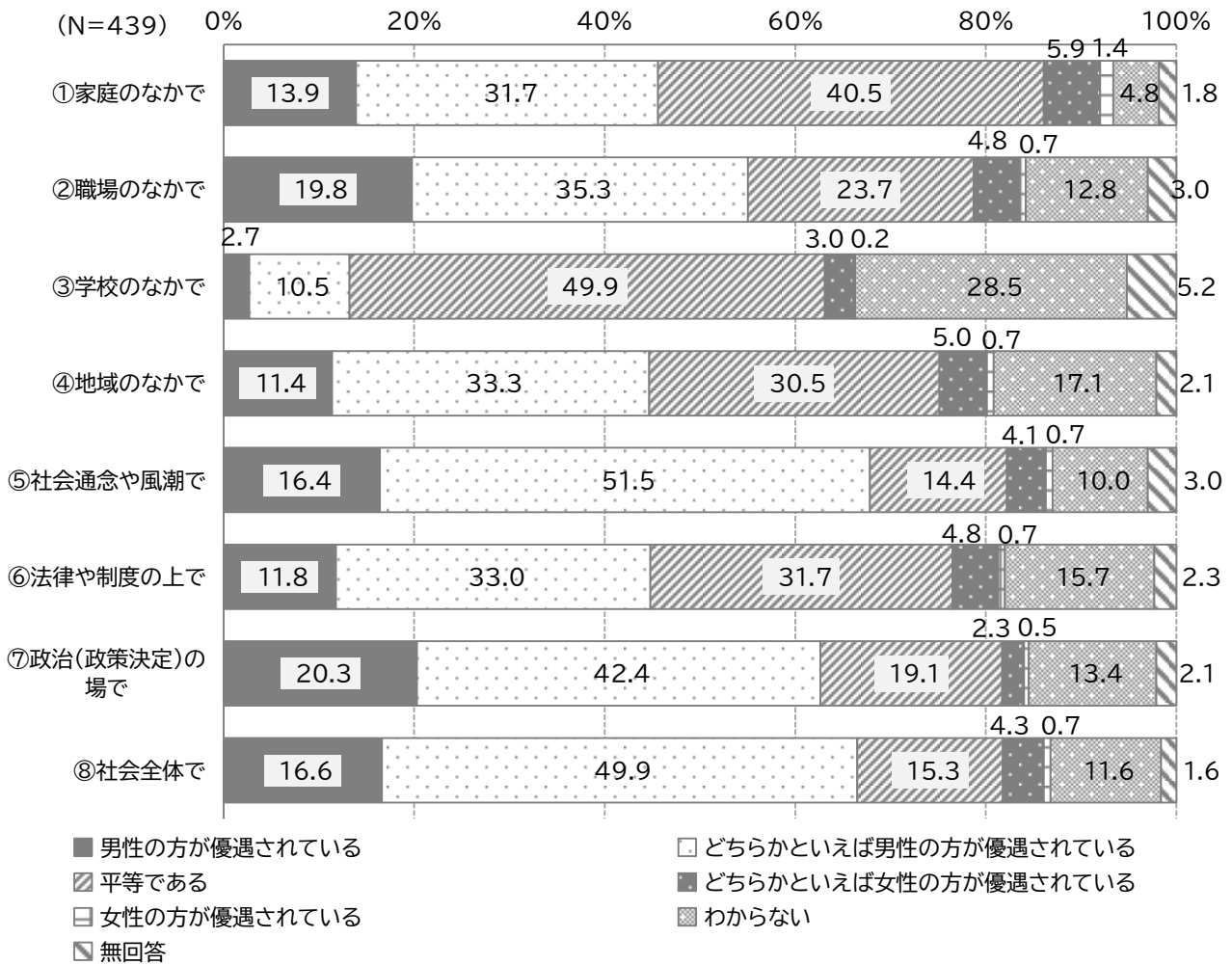
「③学校のなかで」では「平等である」の割合が最も高く、他の項目では、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高くなっている。また、「⑤社会通念や風潮で」「⑦政治(政治決定)の場で」「⑧社会全体で」については、男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が、60%を上回っている。

前回調査と比べても、全体的に大きな変化はみられない。

【今回調査】



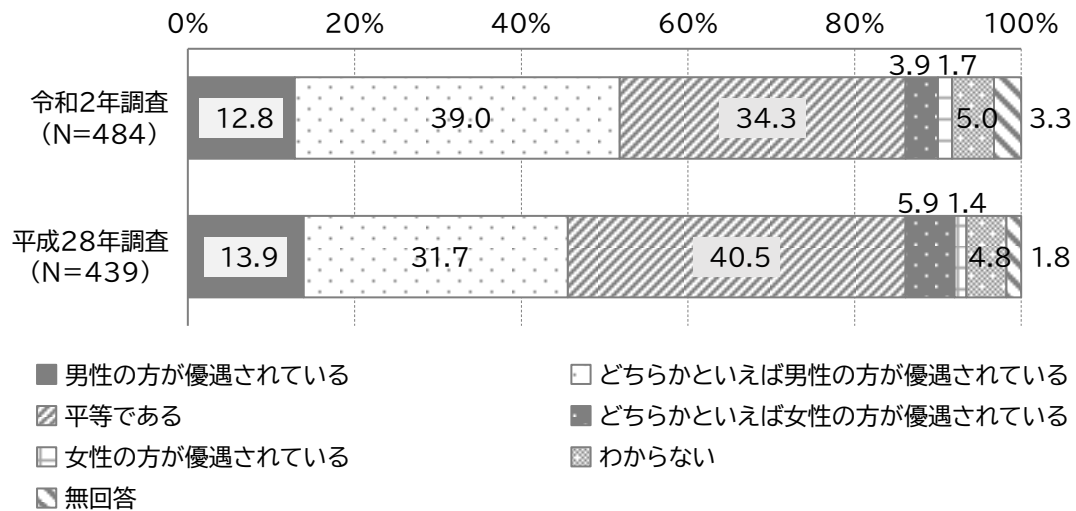
【前回調査】



①家庭のなかで

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は51.8%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は5.6%となっている。

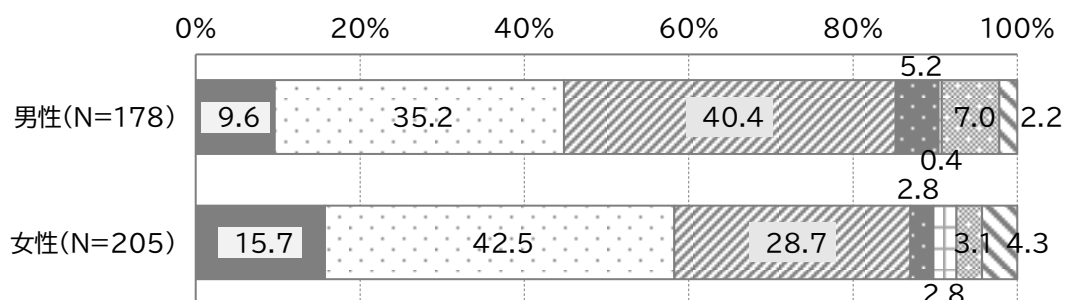
前回調査では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は45.6%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は7.3%となっている。



■性別

男性では「平等である」が40.4%、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.5%と最も多くなっている。

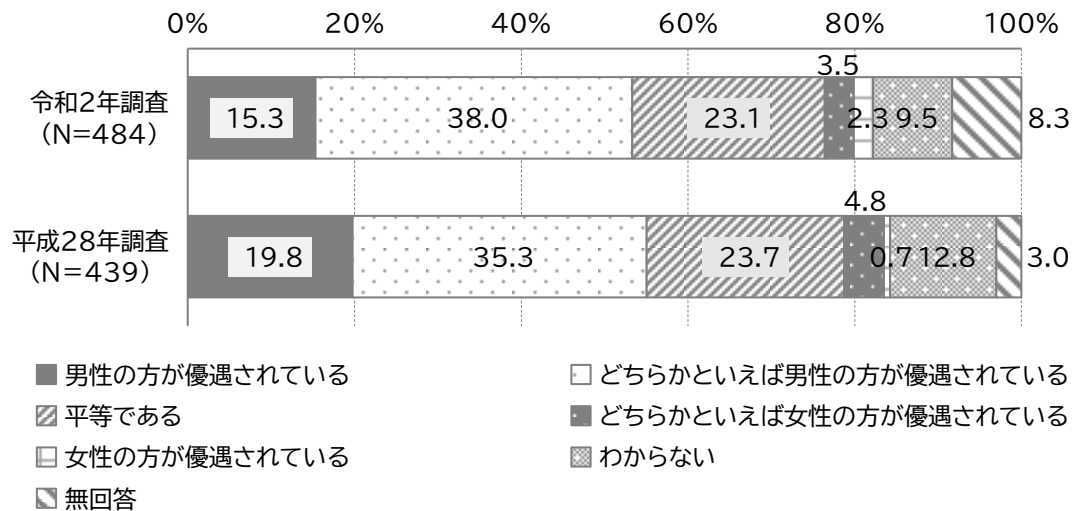
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性で44.8%、女性で58.2%となっており、13.4ポイントの差がみられる。



②職場のなかで

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は53.3%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は5.8%となっている。

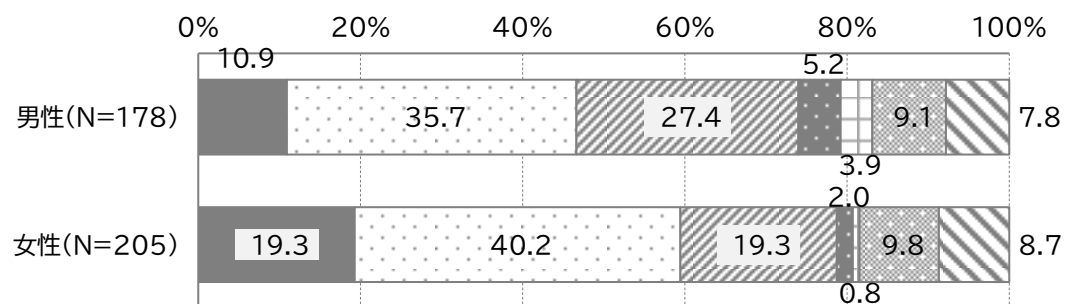
前回調査では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は55.1%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は5.5%となっている。



■性別

男性・女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く、それぞれ35.7%、40.2%となっている。

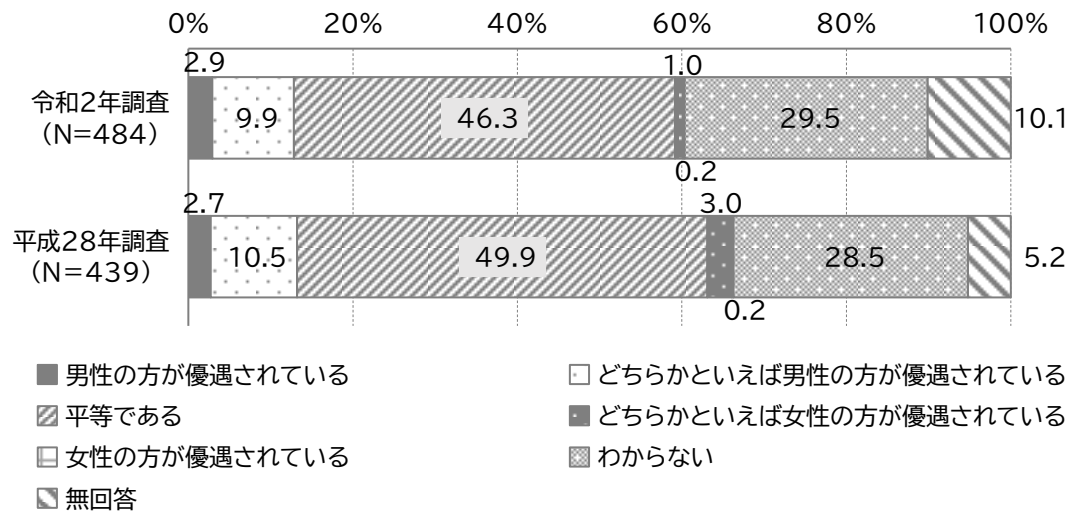
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性で46.6%、女性で59.5%となっており、12.9ポイントの差がみられる。



③学校のなかで

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は12.8%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は29.7%となっている。

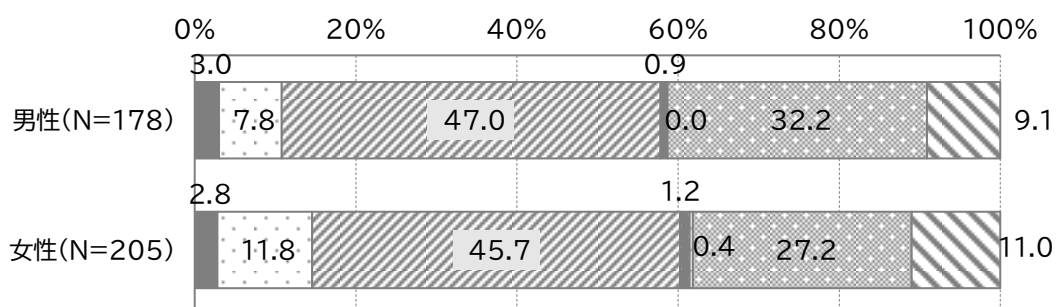
前回調査では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は13.2%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は3.2%となっている。



■性別

男性・女性ともに「平等である」が最も多く、それぞれ47.0%、45.7%となっている。

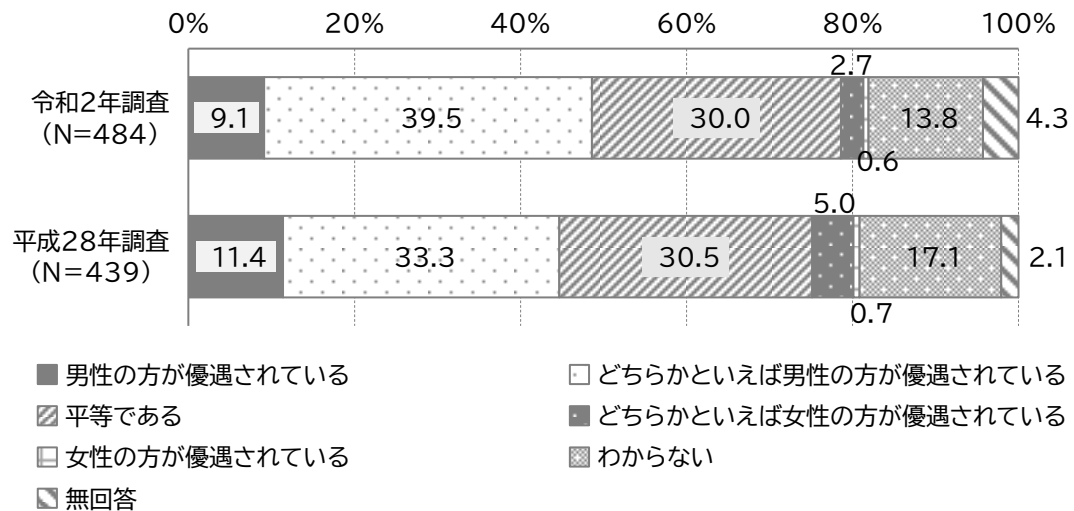
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性で10.8%、女性で14.6%となっている。



④地域のなかで

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は48.6%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は3.3%となっている。

前回調査では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は44.7%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は5.7%となっている。



■性別

男性では「平等である」が37.8%、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.9%と最も多くなっている。

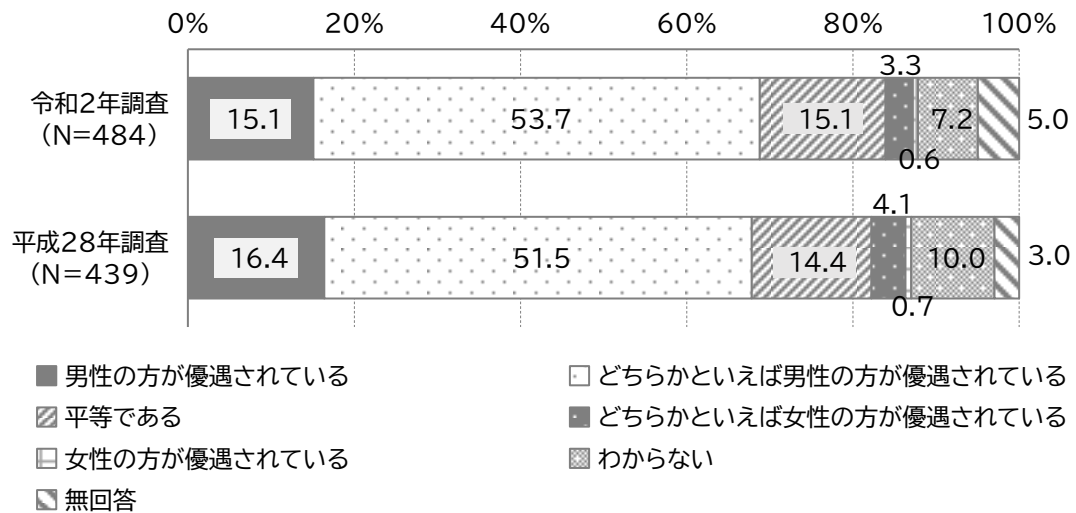
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性で39.2%、女性で57.1%となっており、17.9ポイントの差がみられる。



⑤社会通念や風潮で

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は68.8%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は3.9%となっている。

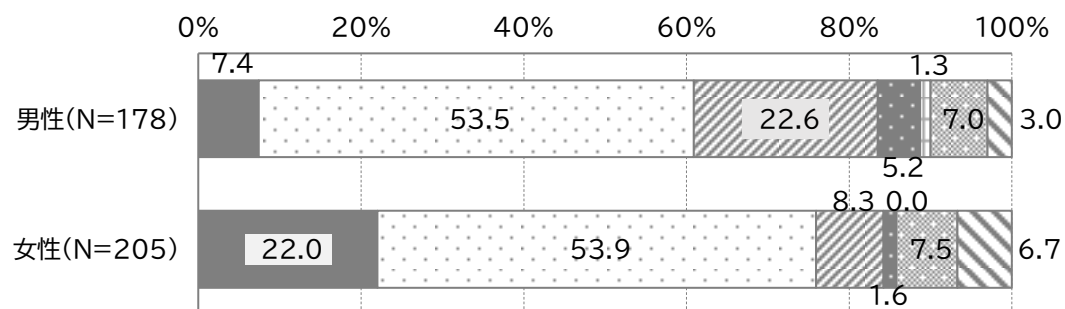
前回調査では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は67.9%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は4.8%となっている。



■性別

男性・女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く、それぞれ53.5%、53.9%となっている。

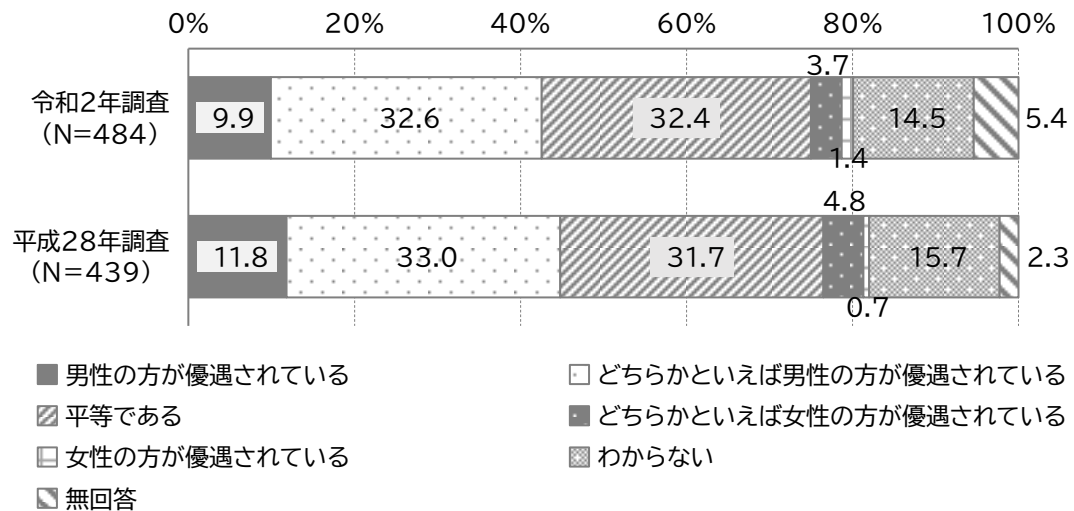
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性で60.9%、女性で75.9%となっており、15.0ポイントの差がみられる。



⑥法律や制度の上で

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は42.5%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は5.1%となっている。

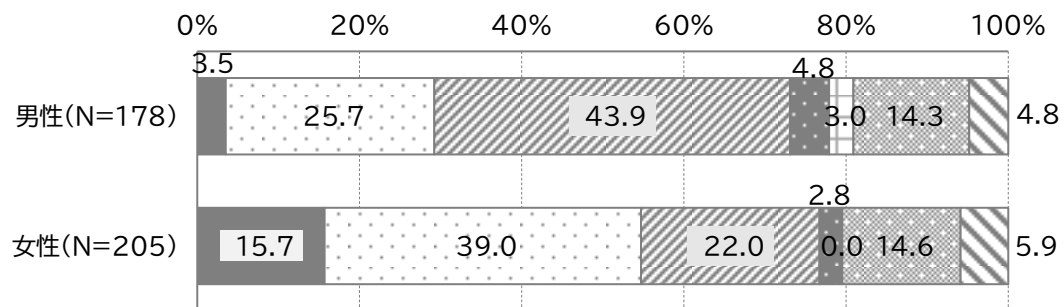
前回調査では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は44.8%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は5.5%となっている。



■性別

男性では「平等である」が43.9%、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が39.0%と最も多くなっている。

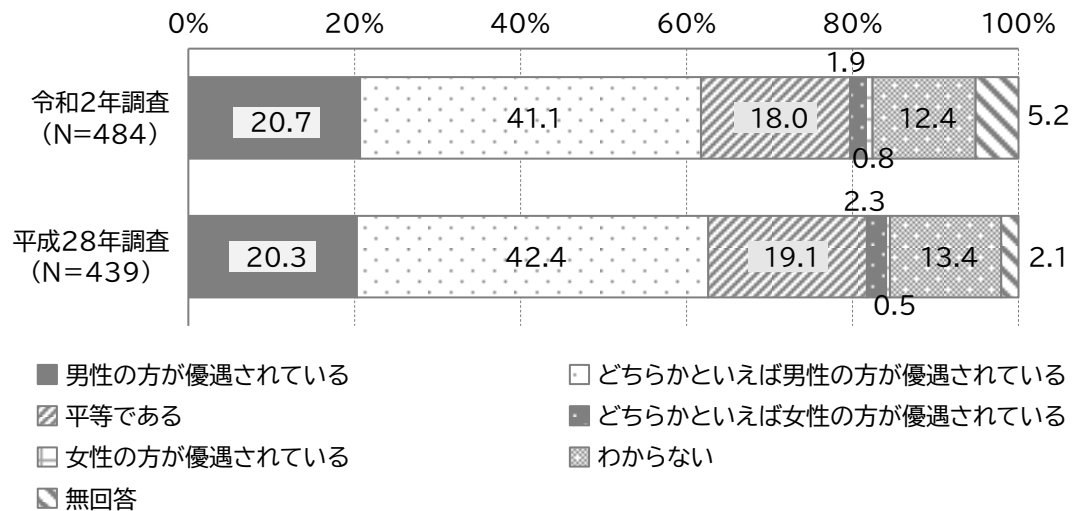
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性で29.2%、女性で54.7%となっており、25.5ポイントの差がみられる。



⑦政治(政策決定)の場で

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は61.8%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は2.7%となっている。

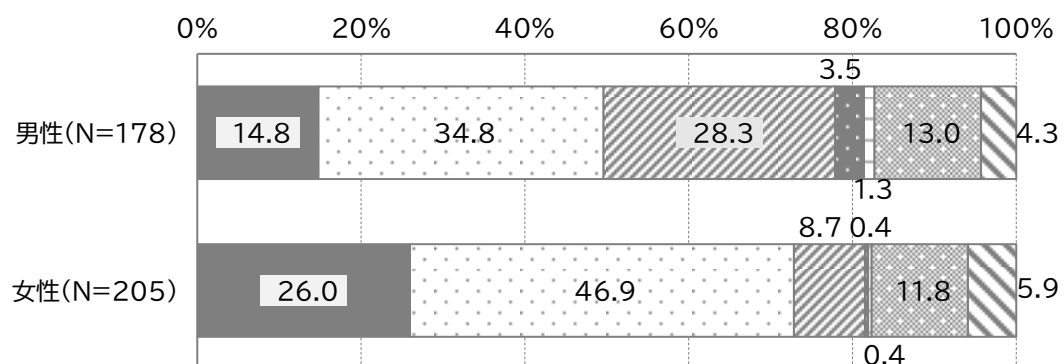
前回調査では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は62.7%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は2.8%となっている。



■性別

男性・女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く、それぞれ34.8%、46.9%となっている。

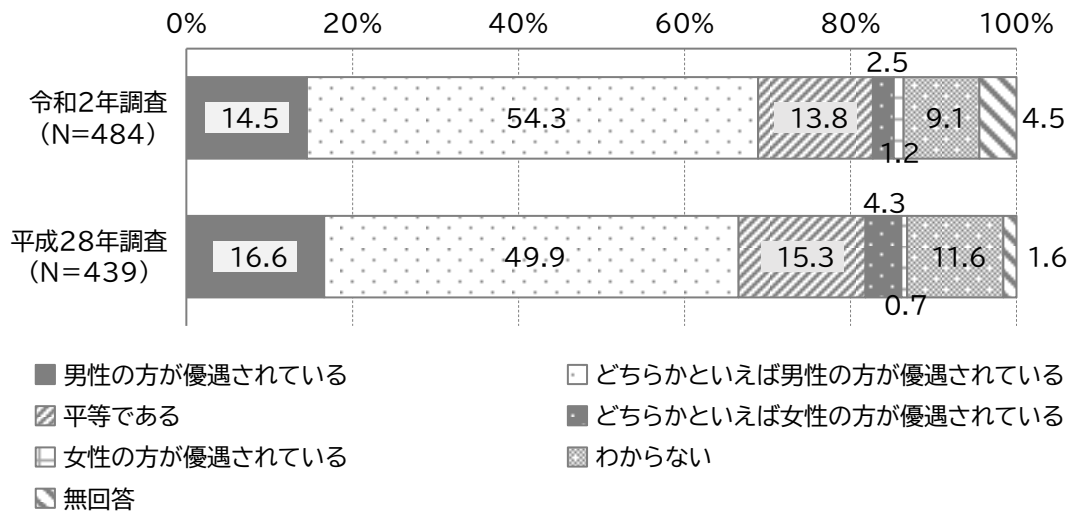
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性で49.6%、女性で72.9%となっており、23.3ポイントの差がみられる。



⑧社会全体で

「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は68.8%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は3.7%となっている。

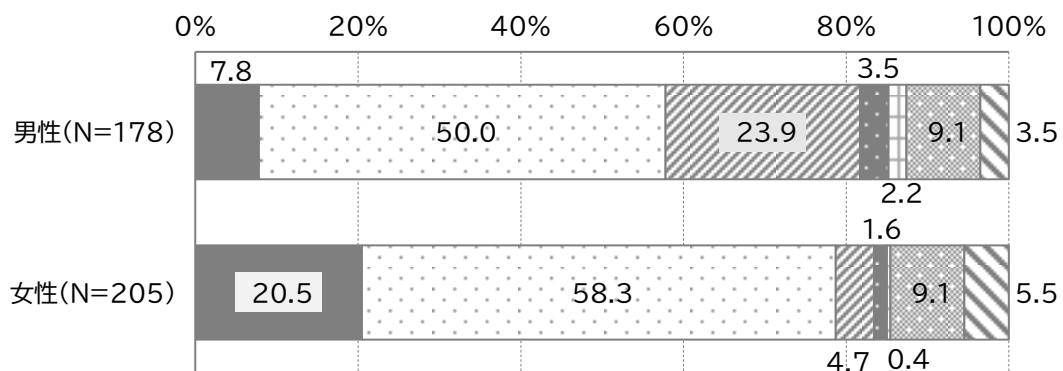
前回調査では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は66.5%となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計は5.0%となっている。



■性別

男性・女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く、それぞれ50.0%、58.3%となっている。

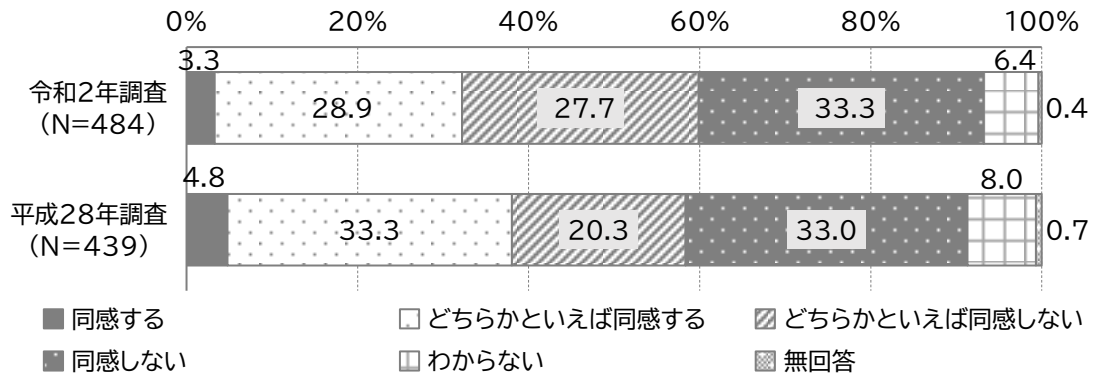
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は、男性で57.8%、女性で78.8%となっており、21.0ポイントの差がみられる。



問10 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

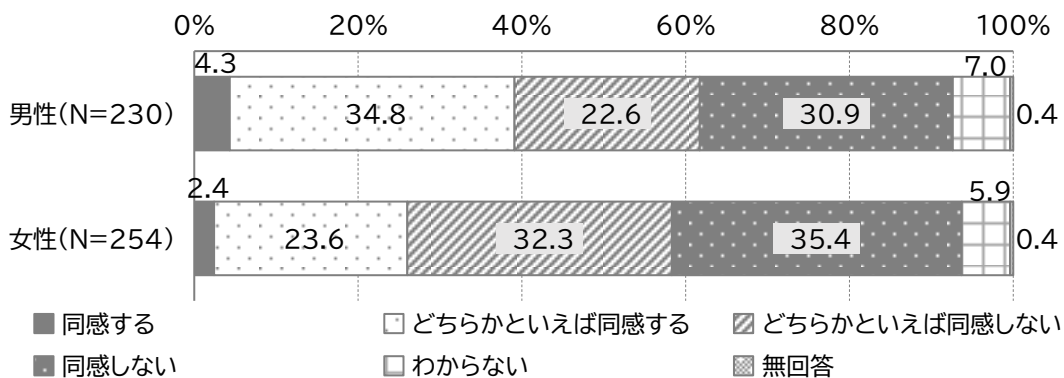
「同感する」「どちらかといえば同感する」の合計が32.2%、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の合計が61.0%となっている。

前回調査と比べると、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の合計は、7.7ポイント増加している。



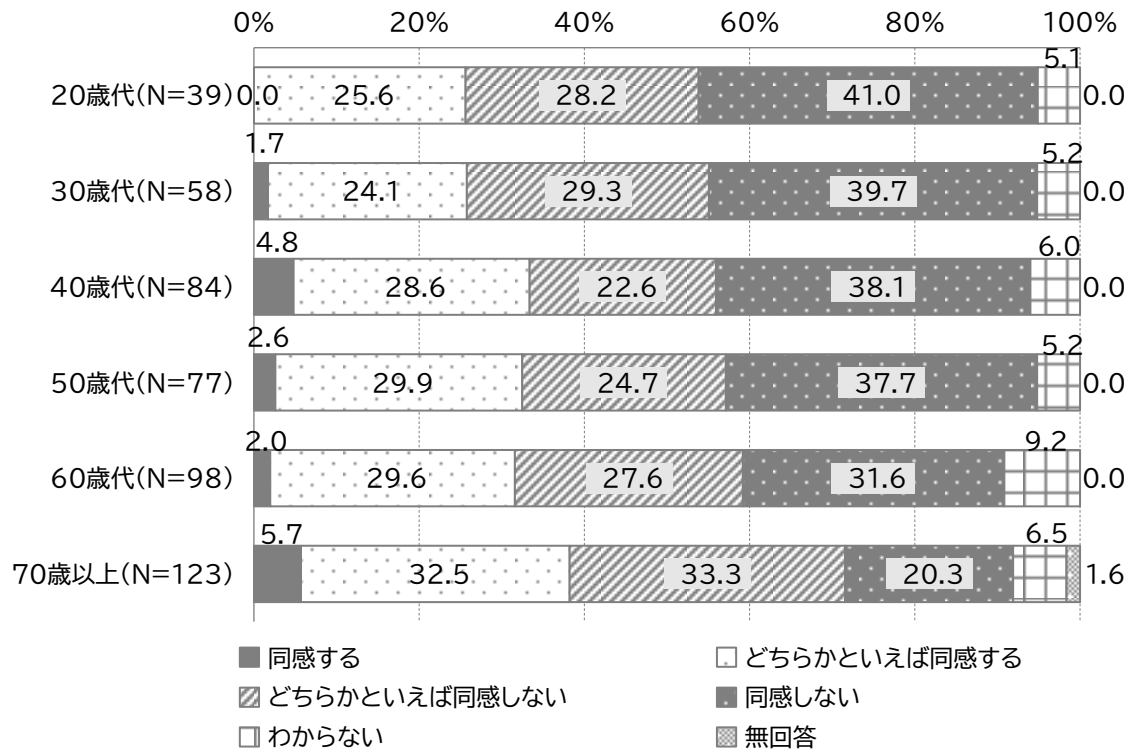
■性別

「同感する」「どちらかといえば同感する」の合計は、男性で39.1%、女性で26.0%となっており、性別による差がみられる。



■年齢別

40歳以上で、「同感する」「どちらかといえば同感する」の合計が30%以上となっている。70歳以上では、38.2%と割合が最も高くなっている。

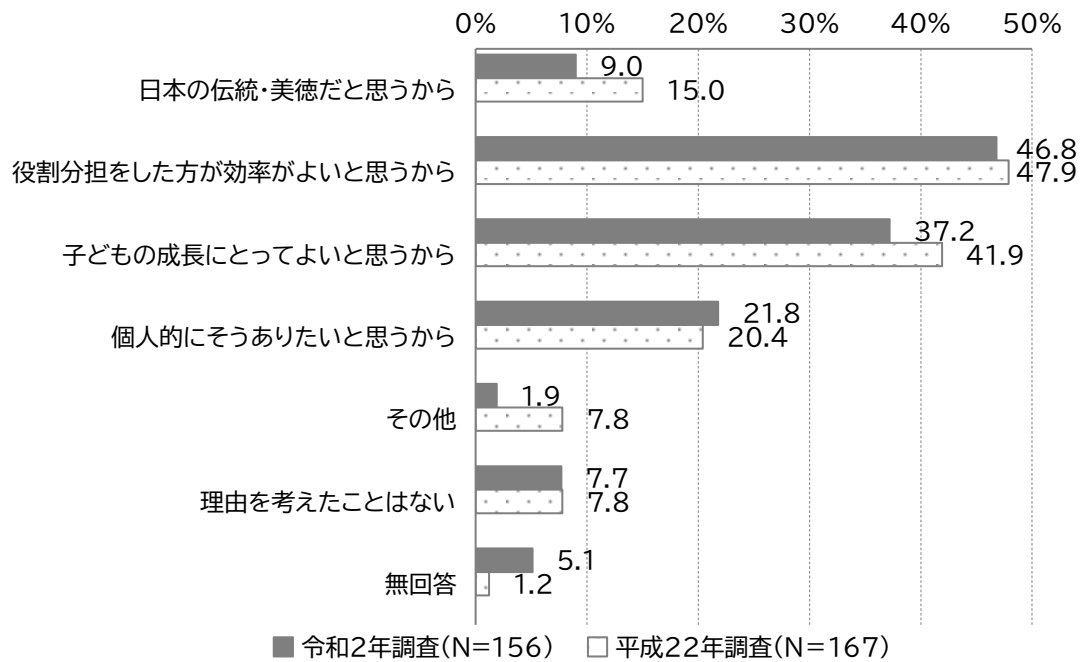


問10-2 なぜそう思いますか。同感する人、同感しない人それぞれ、あてはまるものすべてに○をつけてください。

【「1 同感する」「2 どちらかといえば同感する」と答えた方】

「役割分担をした方が効率がよいと思うから」が46.8%と最も多く、次いで「子どもの成長にとってよいと思うから」が37.2%、「個人的にそうありたいと思うから」が21.8%となっている。

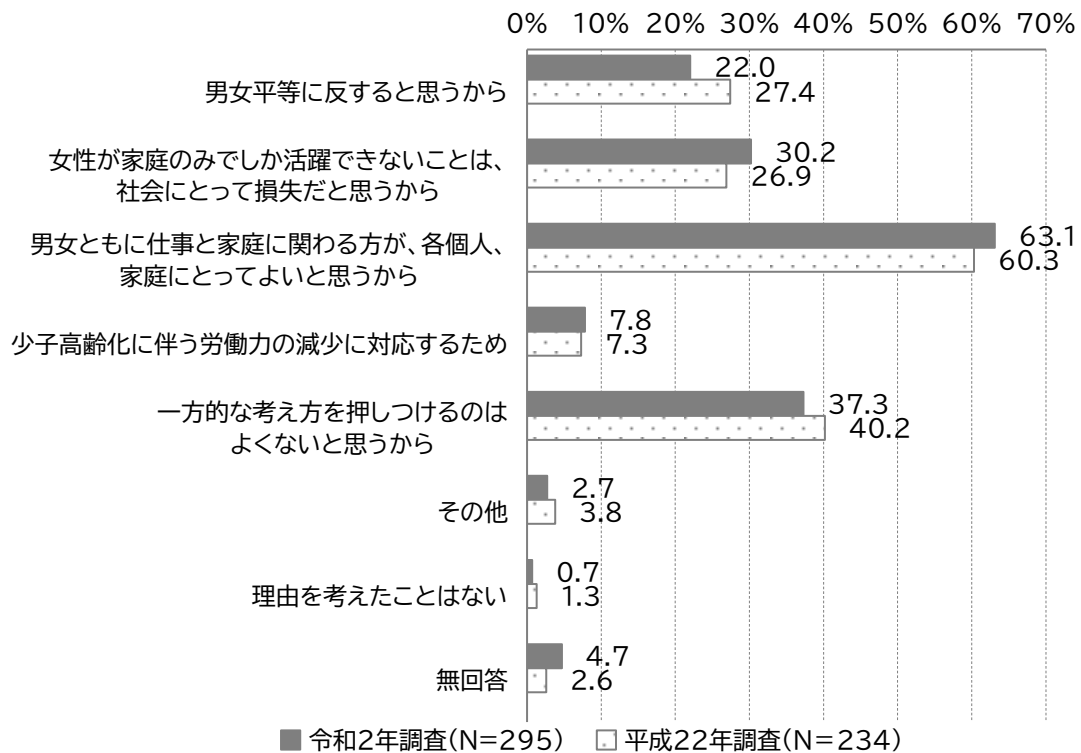
前回調査と比べると、「子どもの成長にとってよいと思うから」については、4.7ポイント減少している。



【「3 どちらかといえば同感しない」「4 同感しない」と答えた方】

「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思うから」が63.1%と最も多く、次いで「一方的な考え方を押しつけるのはよくないと思うから」が37.3%、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が30.2%となっている。

前回調査で上位に挙がっている「男女平等に反すると思うから」については、前回調査よりも5.4ポイント減少している。



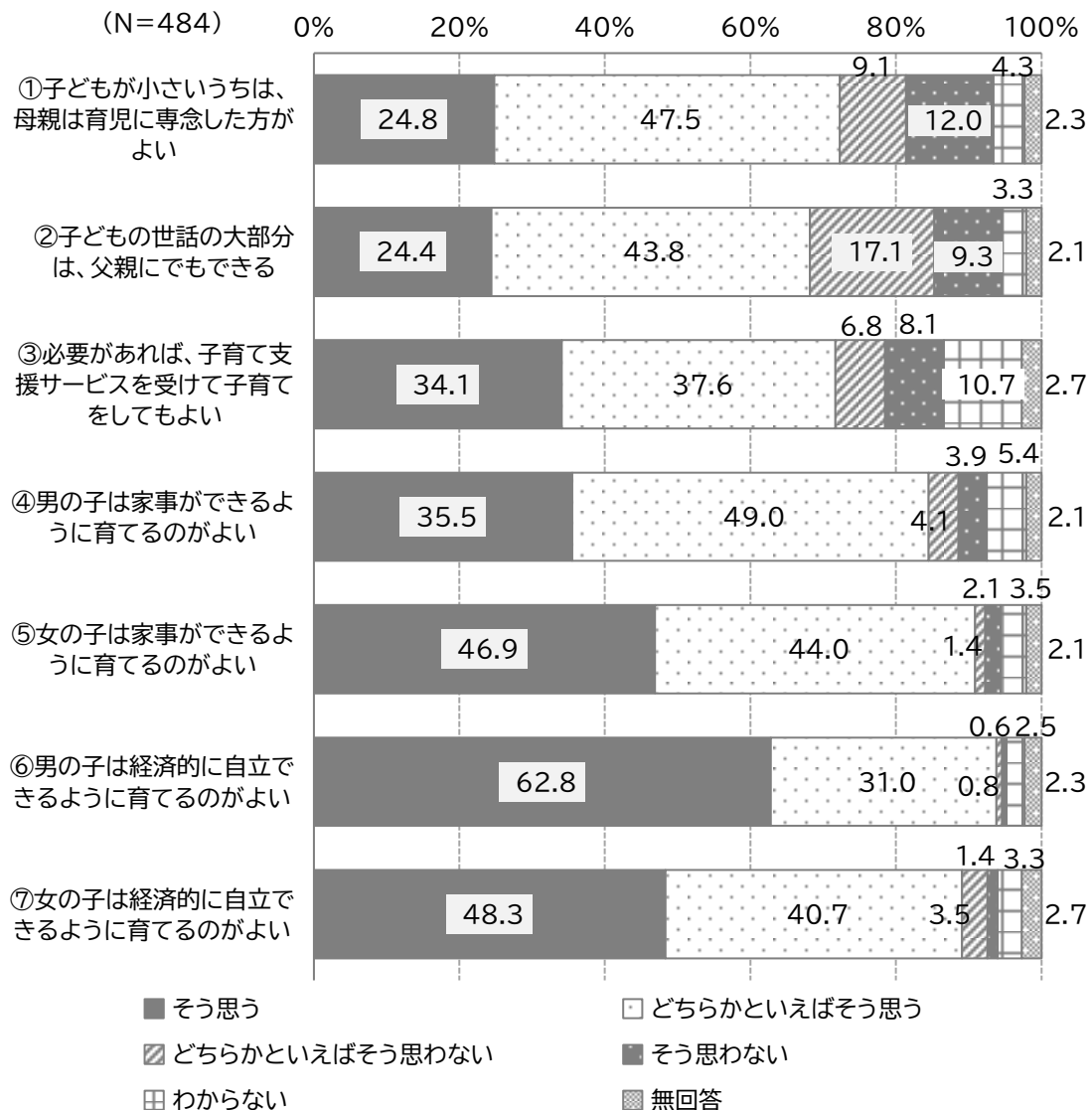
5. 子育てについて

問11 子育てについて、あなたのご意見にもっとも近いものはどれですか。①～⑦のそれぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。

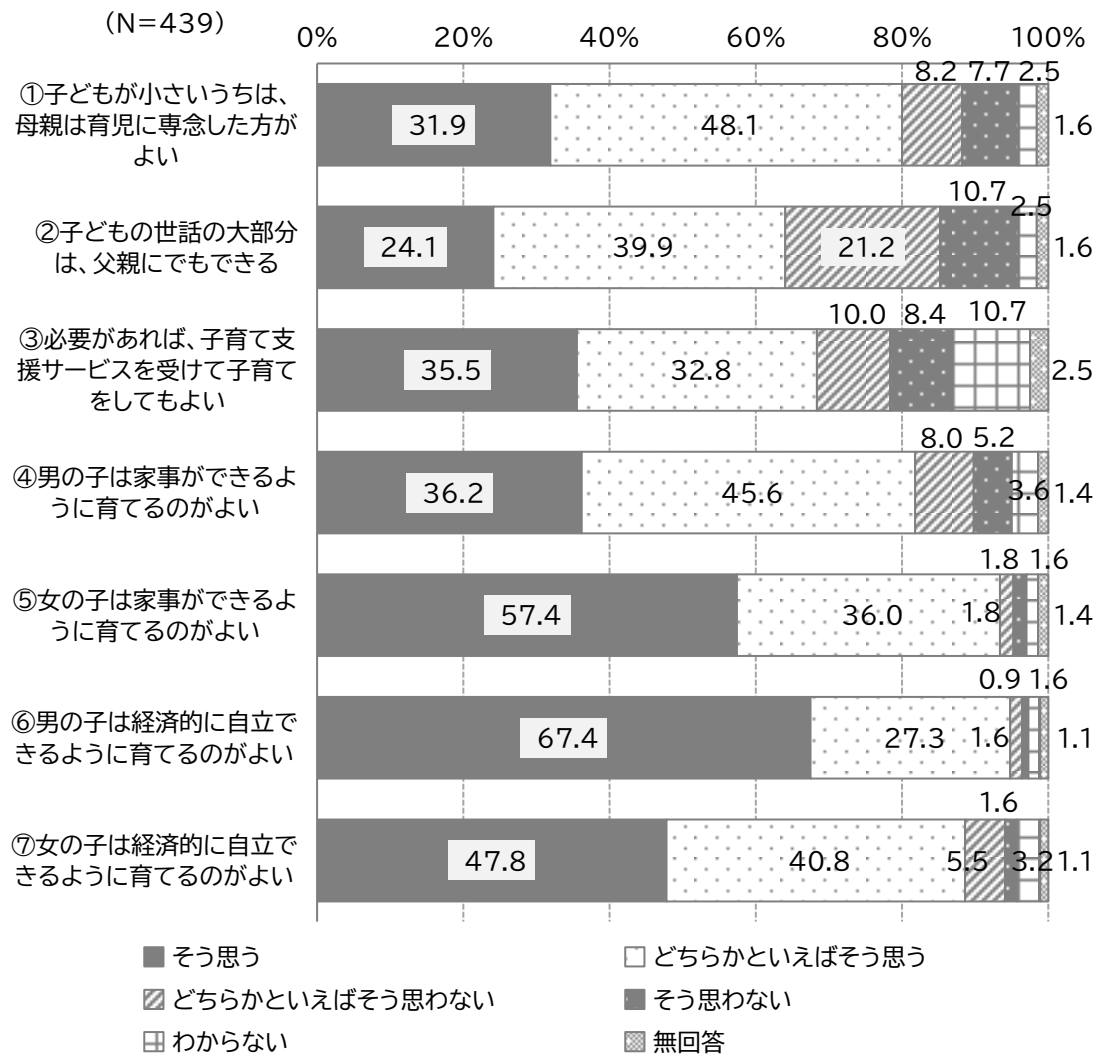
①～⑦の項目すべてにおいて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が半数以上となっている。「男の子・女の子は家事ができるように育てるのがよい」「男の子・女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」については、80%以上となっている。

前回調査においても、すべての項目で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が半数以上となっている。特に「①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」「⑤女の子は家事ができるように育てるのがよい」「⑥男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」「⑦女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」では、80%以上となっている。

【今回調査】

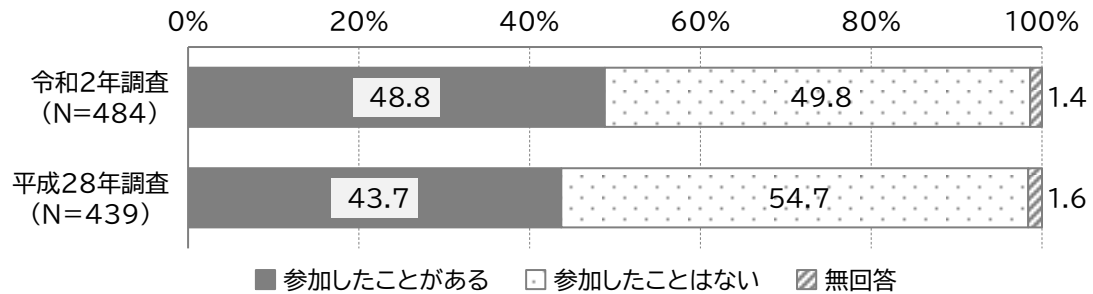


【前回調査】



問12 あなたは、子育てに関する地域活動に参加したことがありますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

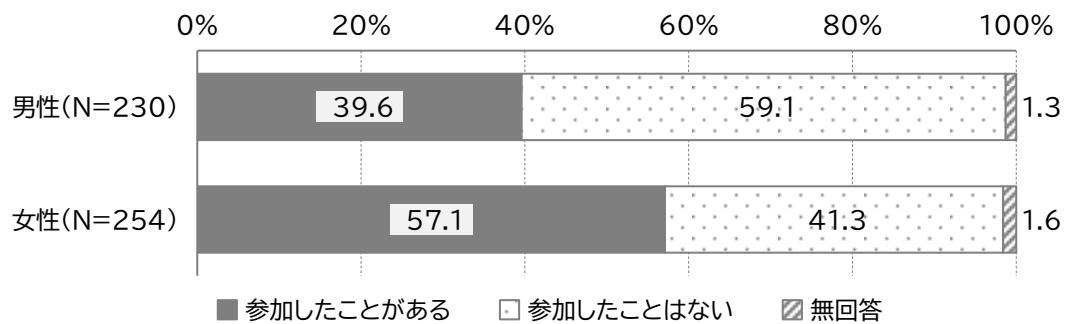
「参加したことがある」が48.8%、「参加したことはない」が49.8%となっている。
 前回調査と比べる、「参加したことがある」という人は、前回調査よりも5.1ポイント増加している。



■性別

「参加したことがある」について、男性で39.6%、女性で57.1%となっており、性別による差がみられる。

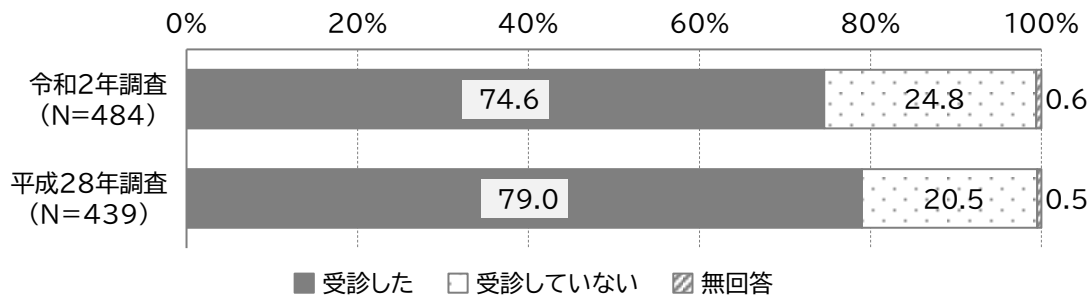
【今回調査】



6. 健康・介護について

問13 あなたは、令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）の1年間で、健康診断を受診しましたか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

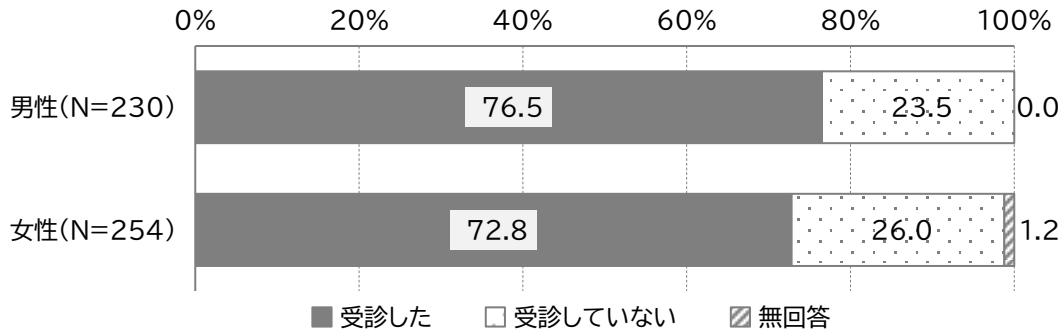
「受診した」が74.6%、「受診していない」が24.8%となっている。
 前回調査と比べると、4.4ポイント減少している。



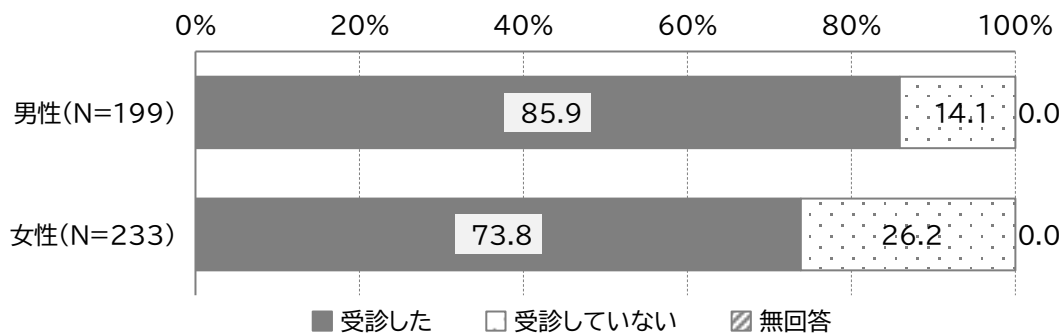
■性別

「受診した」という人の割合は、「男性」で76.5%、「女性」で72.8%となっている。
 前回調査と比べると、「受診した」という男性の割合は、9.4ポイント減少している。

【今回調査】



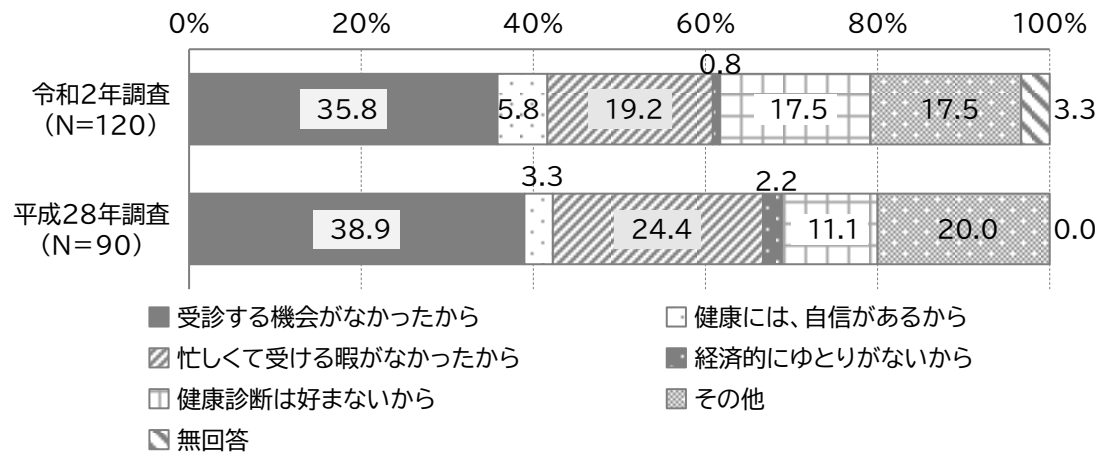
【前回調査】



問13-2 問13で「2 受診していない」と答えた方にお聞きします。なぜ、受診しなかったのですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「受診する機会がなかったから」が35.8%と最も多く、次いで「忙しくて受ける暇がなかったから」が19.2%、「健康診断は好まないから」が17.5%となっている。

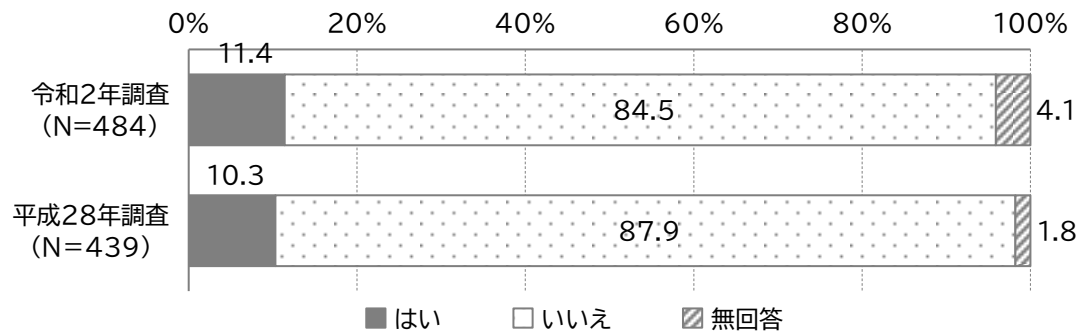
前回調査と比べると、「忙しくて受ける暇がなかったから」では5.2ポイント減少、「健康診断は好まないから」では6.4ポイント増加している。



問14 あなたの家庭に、常時介護の必要な方はいますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「はい」が11.4%、「いいえ」が84.5%となっている。

前回調査と比べると、大きな変化はみられない。

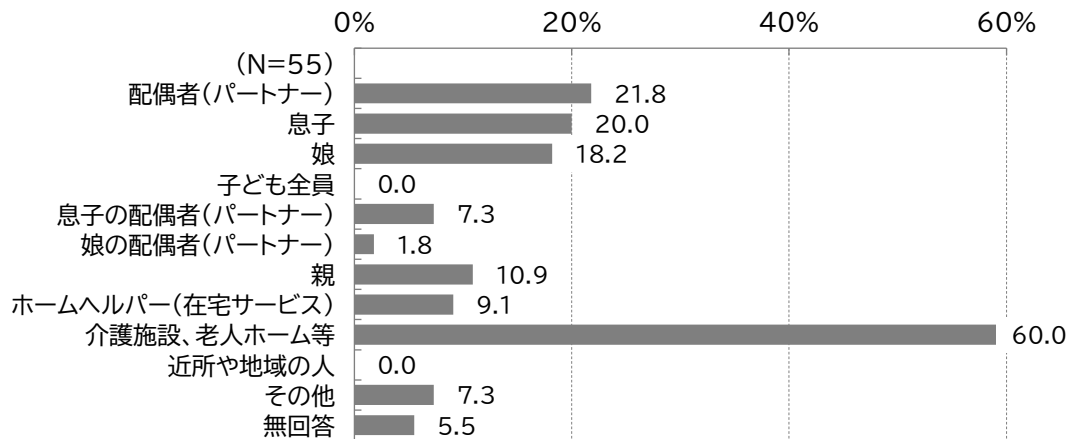


問14-2 問14で「1 はい」と答えた方にお聞きます。その方の世話は誰がしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（※介護を受ける人からみた続柄でお答えください。）

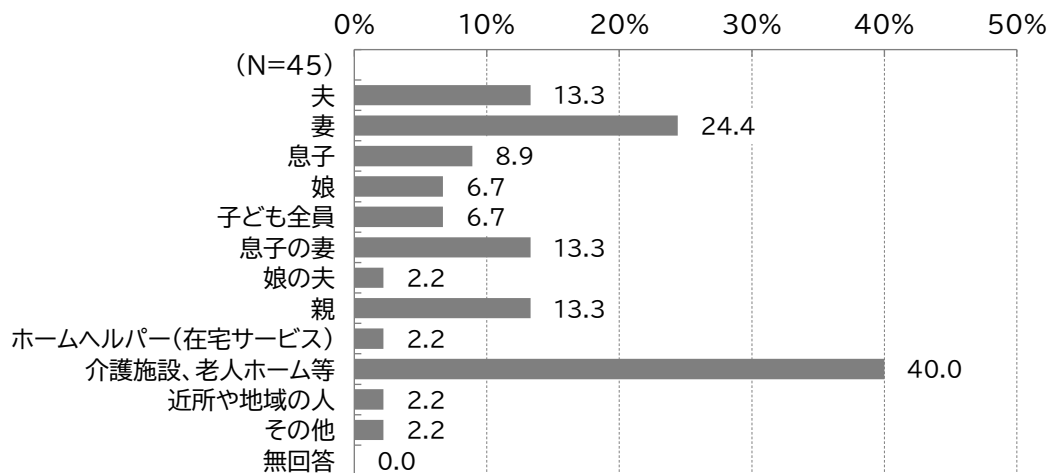
「介護施設、老人ホーム等」が60.0%と最も多く、次いで「配偶者（パートナー）」が21.8%、「息子」が20.0%となっている。

「介護施設、老人ホーム等」は、前回調査と比べて20ポイント増加している。

【今回調査】



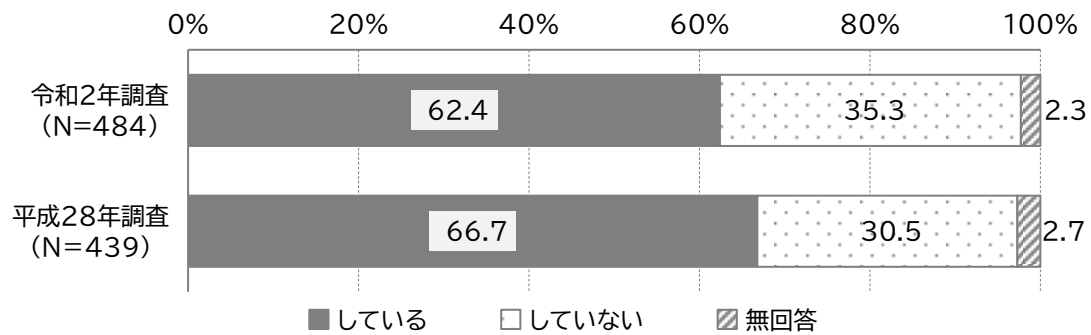
【前回調査】



7. 就労について

問15 あなたは現在、収入を得る仕事（産前・産後休暇、育児・介護休業、私傷病休職中なども含む）をしていますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

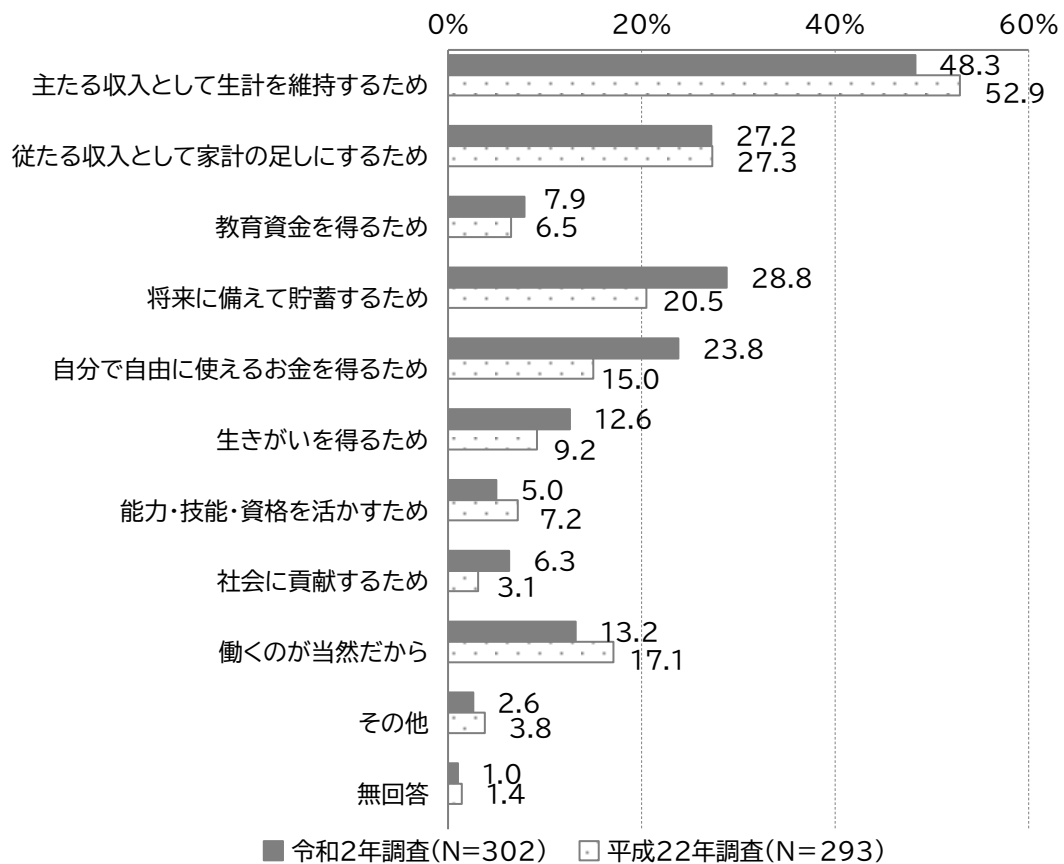
「している」が62.4%、「していない」が35.3%となっている。
 前回調査と比べると、「している」と回答した人の割合は減少している。



問15-2 問15で「1 している」と答えた方にお聞きします。あなたが働いているのはどのような理由からですか。あてはまるものに○をつけてください。(最大2つまで)

「主たる収入として生計を維持するため」が48.3%と最も多く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が28.8%、「従たる収入として家計の足しにするため」が27.2%となっている。

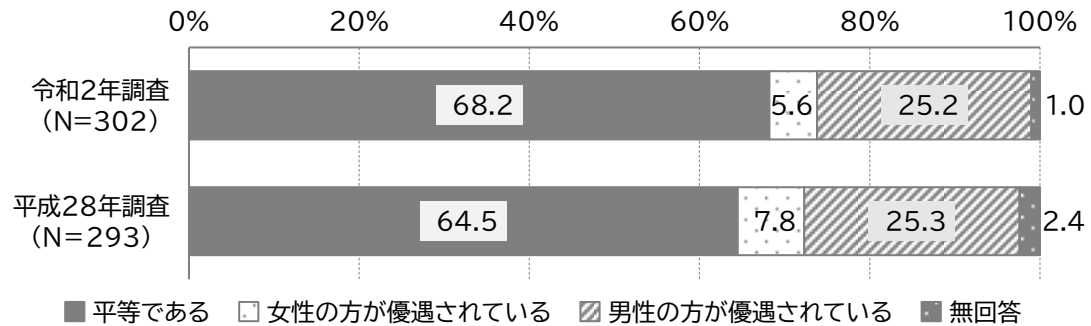
前回調査と比べると、「主たる収入として生計を維持するため」は減少している。一方で、「将来に備えて貯蓄するため」は8.3ポイント増加している。



問15-3 問15で「1 している」と答えた方にお聞きします。あなたの働いているところでは、男性と女性は平等だと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「平等である」が68.2%と最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が25.2%、「女性の方が優遇されている」が5.6%となっている。

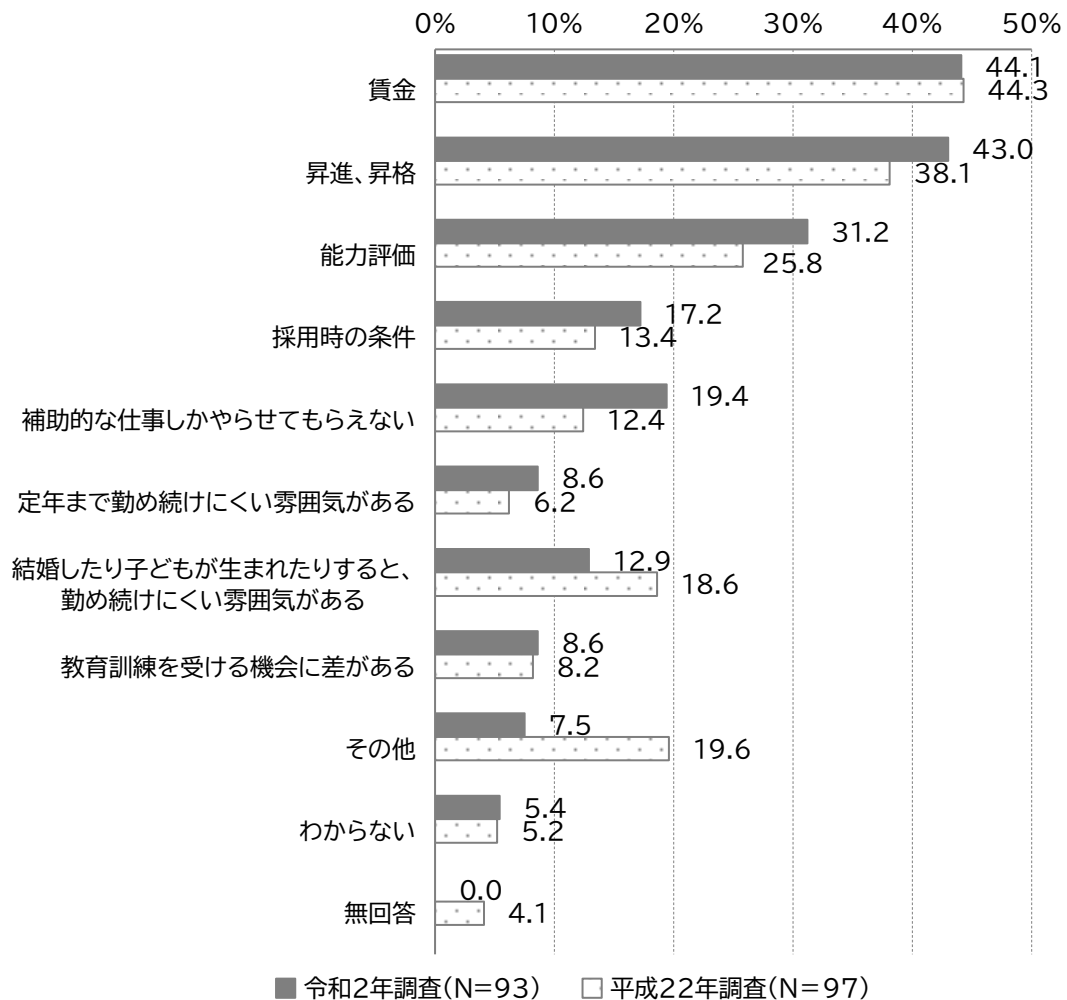
前回調査と比べると、「平等である」は3.7ポイント増加している。



問15-4 問15-3で「2 女性の方が優遇されている」「3 男性の方が優遇されている」と答えた方にお聞きします。あなたが働いているところで、男女が平等だと思わないのはどのようなことですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「賃金」が44.1%と最も多く、次いで「昇進、昇格」が43.0%、「能力評価」が31.2%となっている。

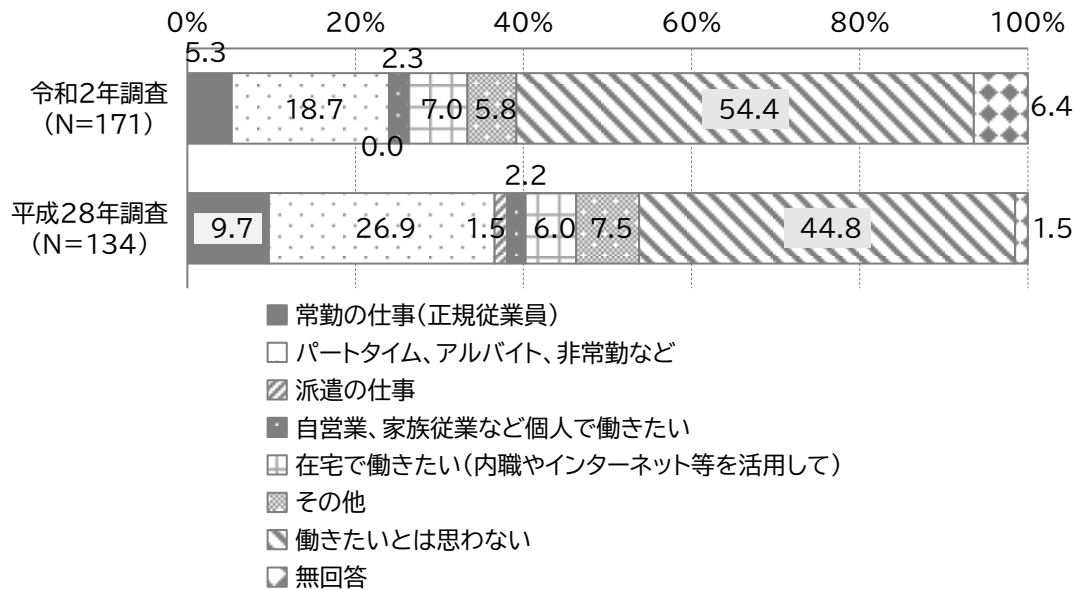
前回調査と比べると、「昇進、昇格」は4.9ポイント、「能力評価」は5.4ポイント増加している。



問15-5 問15で「2 していない」と答えた方にお聞きします。今後適当な仕事があれば働きたいですか。働きたい仕事の形を、あてはまるものに1つ○をつけてください。

「働きたいとは思わない」が54.4%と最も多く、次いで「パートタイム、アルバイト、非常勤など」が18.7%、「在宅で働きたい（内職やインターネット等を活用して）」が7.0%となっている。

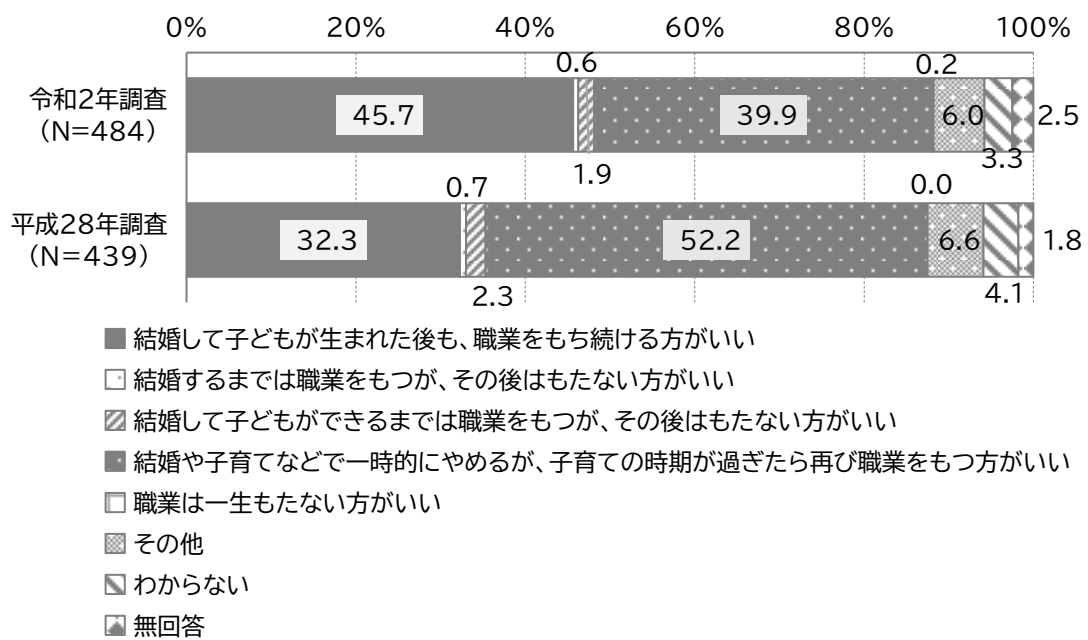
前回調査と比べると、「働きたいとは思わない」と回答した人の割合は9.6ポイント増加している。



問16 女性が職業をもつことについてあなたはどのように思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

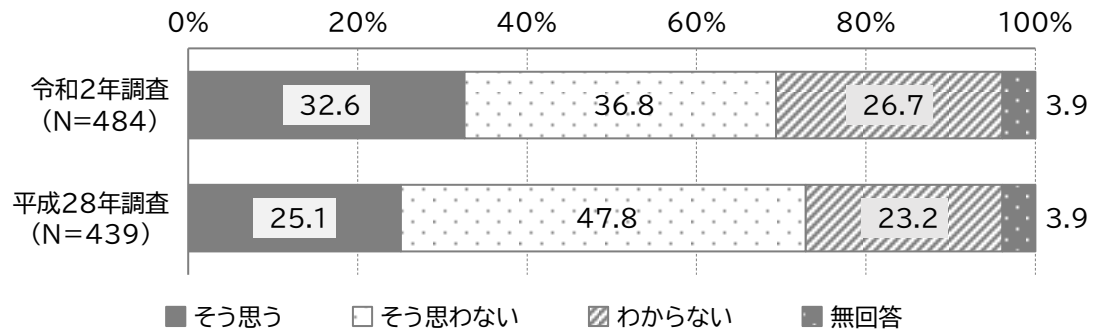
「結婚して子どもが生まれた後も、職業をもち続ける方がいい」が45.7%と最も多く、次いで「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業をもつ方がいい」が39.9%、「わからない」が3.3%となっている。

前回調査と比べると、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業をもつ方がいい」は12.3ポイント減少し、「結婚して子どもが生まれた後も、職業をもち続ける方がいい」は13.4ポイント増加している。



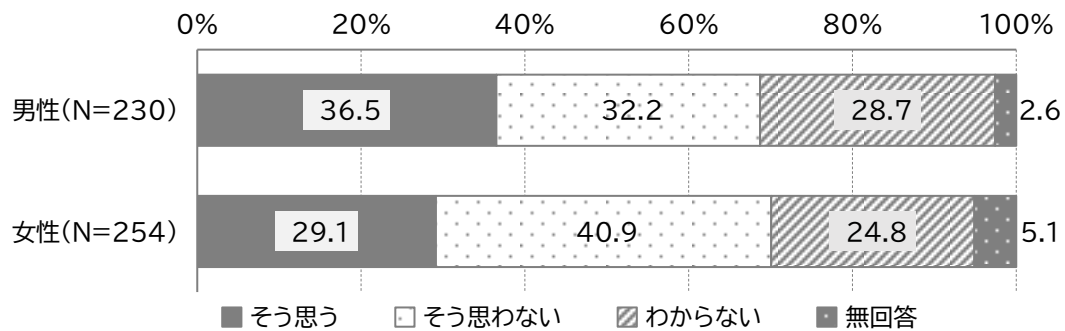
問17 あなたは、現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「そう思う」が32.6%、「そう思わない」が36.8%となっている。
 前回調査と比べると、「そう思う」と回答した人の割合は、7.5ポイント増加している。



■性別

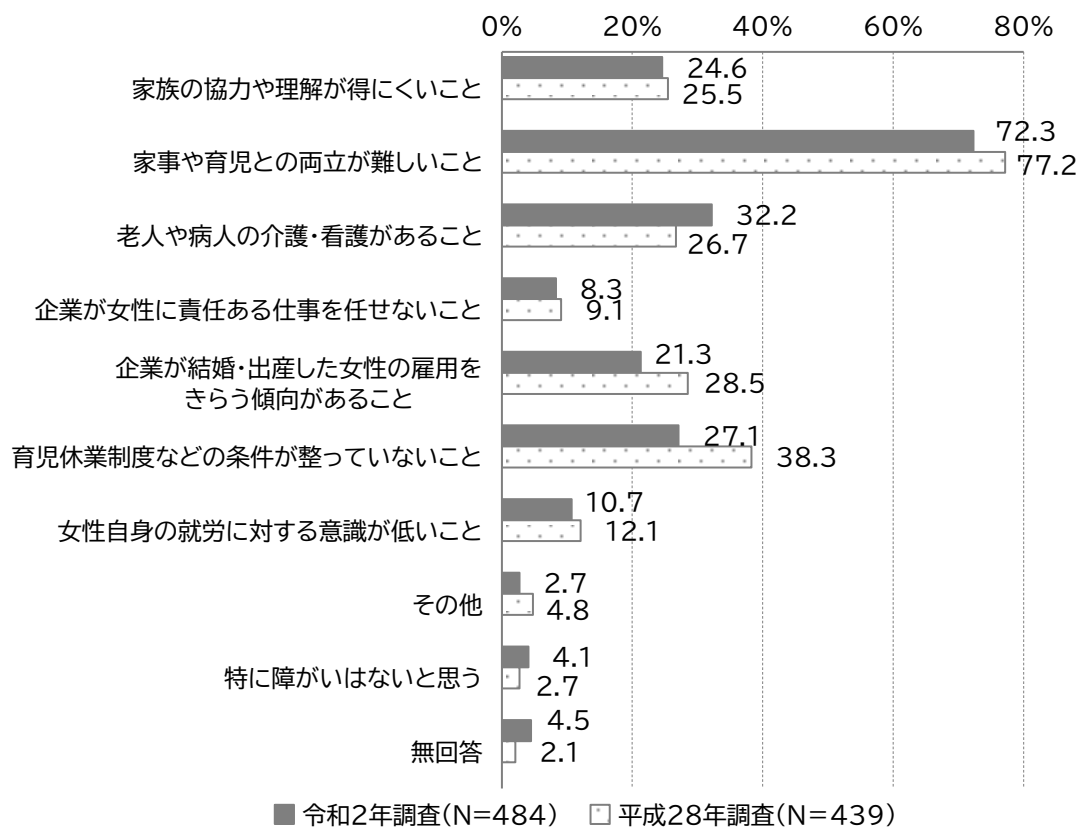
「そう思う」について、男性で36.5%、女性で29.1%となっており、7.4ポイントの差がみられる。



問18 女性が働き続けていくうえで、大きな障がいになっているのは何だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(最大3つまで)

「家事や育児との両立が難しいこと」が72.3%と最も多く、次いで「老人や病人の介護・看護があること」が32.2%、「育児休業制度などの条件が整っていないこと」が27.1%となっている。

前回調査と比べると、「家事や育児との両立が難しいこと」は4.9ポイント、「育児休業制度などの条件が整っていないこと」は11.2ポイント増加している。一方で、「企業が結婚・出産した女性の雇用をきらい傾向があること」については、7.2ポイント減少している。



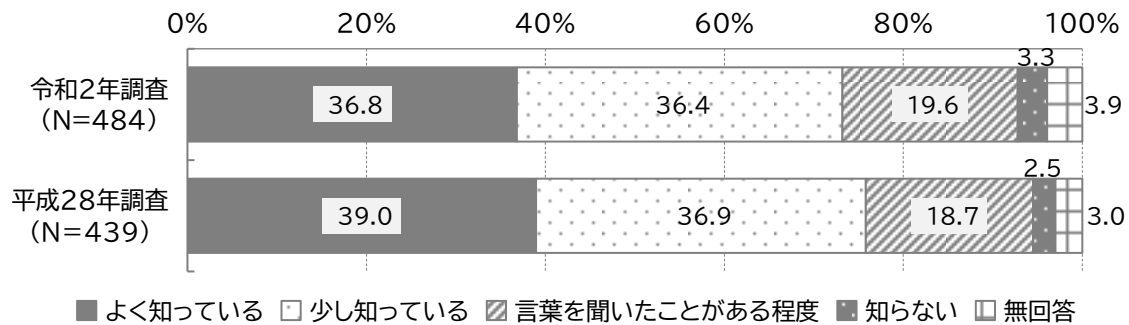
問19 あなたは、次の制度の内容についてご存知ですか。また実際に取得したことがありますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

<内容を知っているか>

①育児休業制度

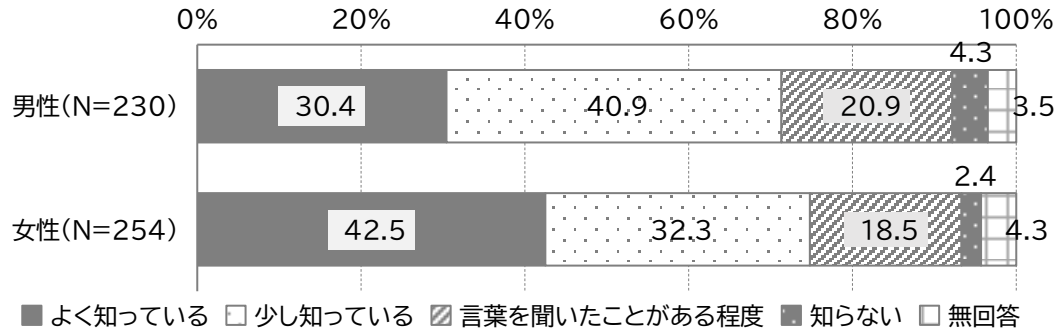
「よく知っている」が36.8%と最も多く、次いで「少し知っている」が36.4%、「言葉を聞いたことがある程度」が19.6%となっている。

前回調査と比べると、大きな変化はみられない。



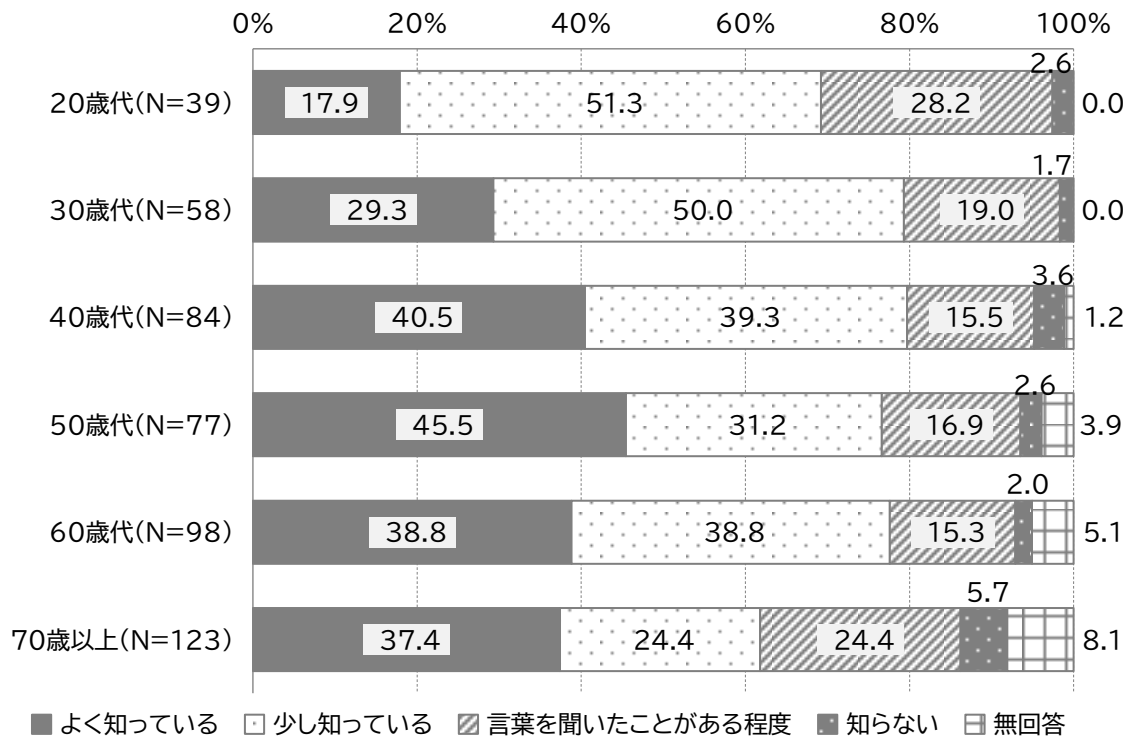
■性別

育児休業制度について「よく知っている」と回答した人の割合は、男性で30.4%、女性で42.5%となっており、12.1ポイントの差がみられる。



■年齢別

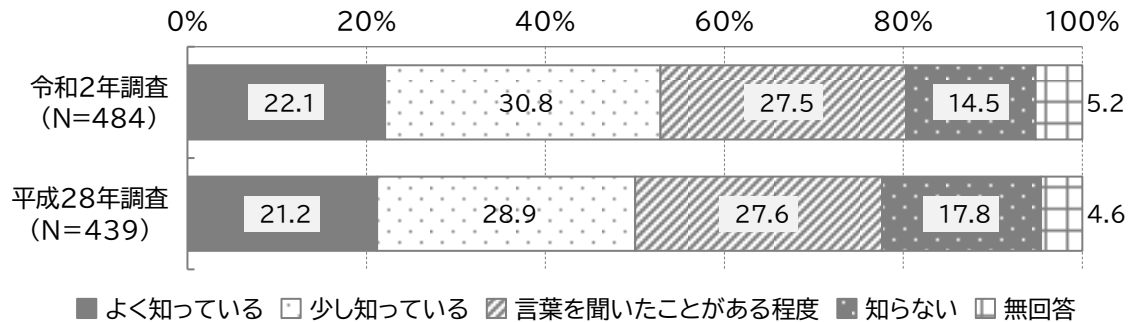
育児休業制度について「よく知っている」と回答した人は、「50 歳代」までは割合が増加している。



②介護休業制度

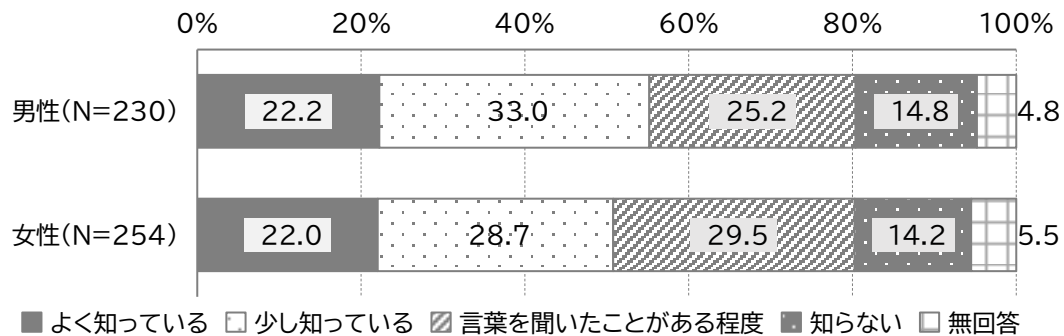
「少し知っている」が30.8%、次いで「言葉を聞いたことがある程度」が27.5%、「よく知っている」が22.1%となっている。

前回調査と比べると、大きな変化はみられない。



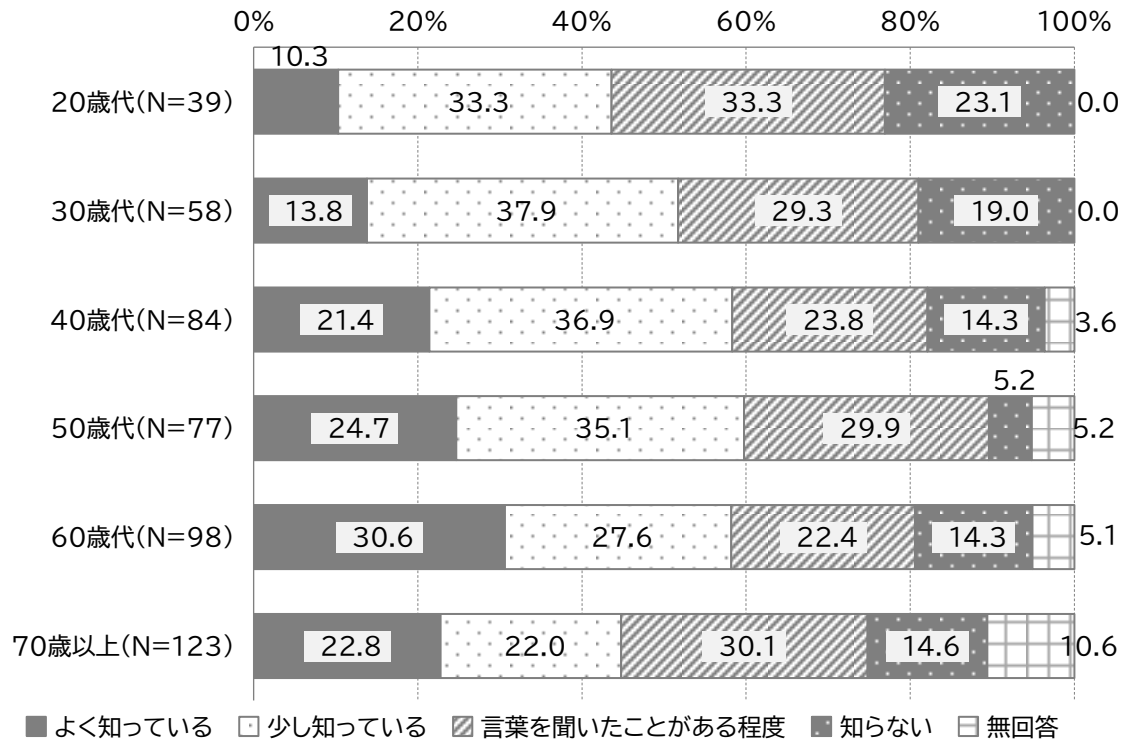
■性別

介護休業制度について「よく知っている」と回答した人の割合は、性別による差はみられない。



■年齢別

介護休業制度について「よく知っている」と回答した人は、「60 歳代」までは割合が増加している。育児休業制度と比べて「よく知っている」「少し知っている」と回答した人の割合は少なくなっている。

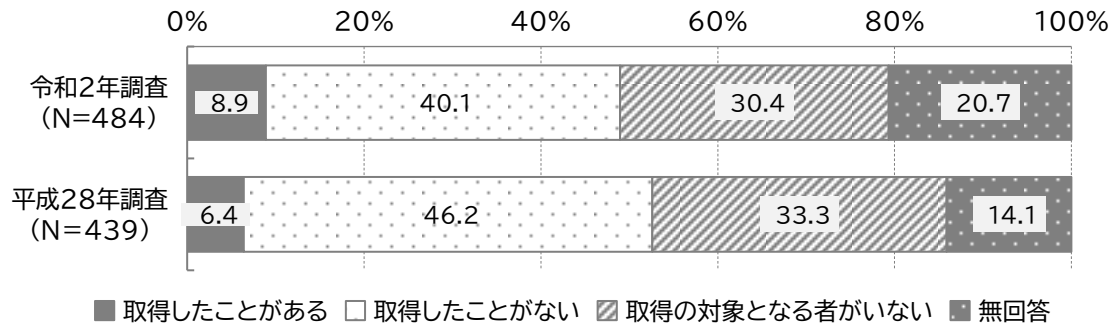


<取得したことがあるか>

①育児休業制度

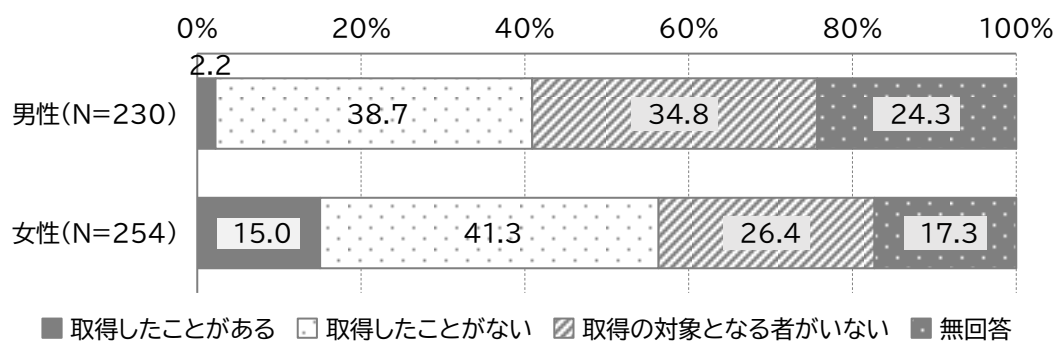
「取得したことがない」が 40.1%と最も多く、次いで「取得の対象となる者がいない」が 30.4%、「取得したことがある」が 8.9%となっている。

前回調査と比べると、「取得したことがない」では 6.1 ポイント減少している。



■性別

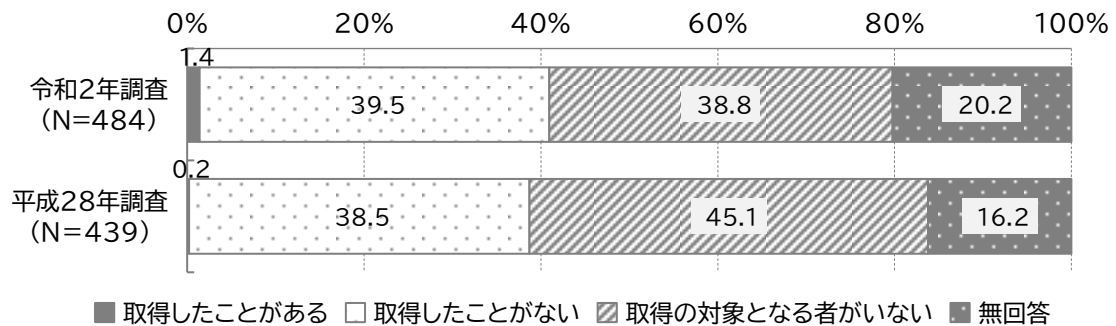
育児休業制度について「取得したことがある」と回答した人の割合は、男性で 2.2%、女性で 15.0%となっており、12.8 ポイントの差がみられる。



②介護休業制度

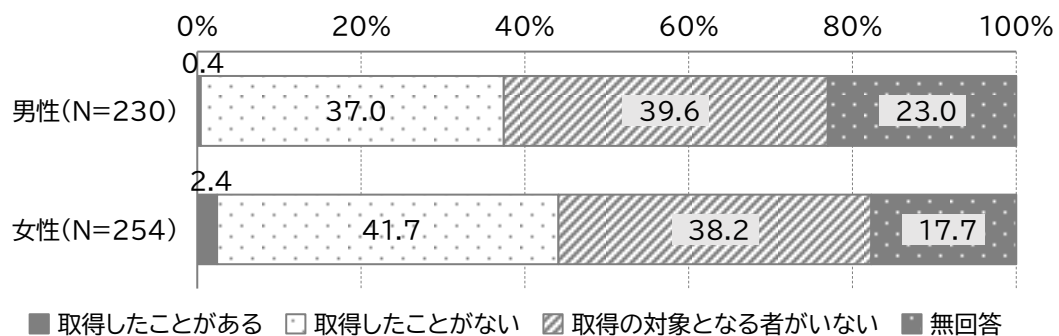
「取得したことがない」が 39.5%と最も多く、次いで「取得の対象となる者がいない」が 38.8%、「取得したことがある」が 1.4%となっている。

前回調査と比べると、「取得の対象となる者がいない」では 6.3 ポイント減少している。



■性別

介護休業制度について「取得したことがある」と回答した人の割合は、男性で 0.4%、女性で 2.4%となっており、大きな差はみられない。



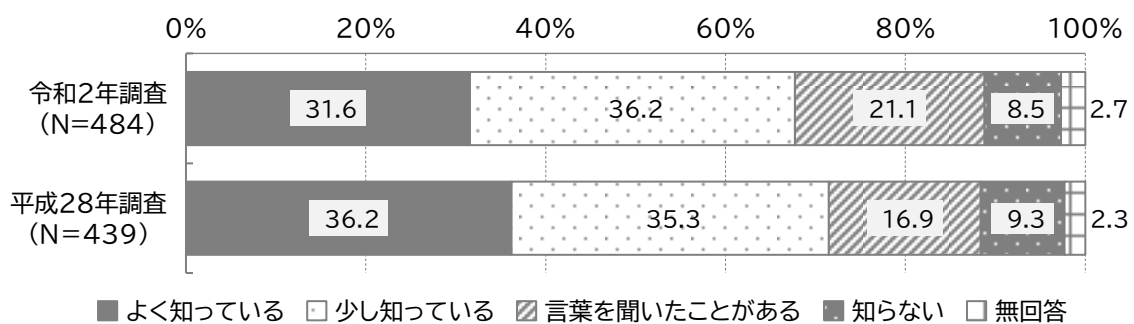
8. マタニティ・ハラスメント/パタニティ・ハラスメントについて

問20 あなたは、次の言葉をどの程度知っていますか。AとBのそれぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。

<A：マタニティ・ハラスメント>

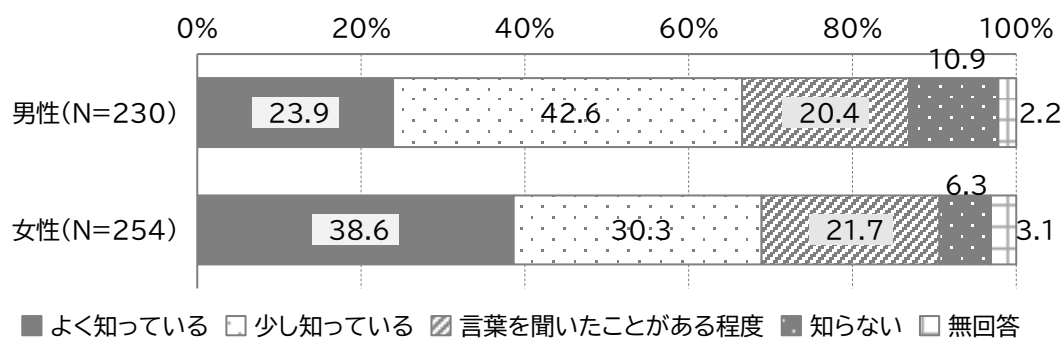
「よく知っている」「少し知っている」の合計は、67.8%となっている。

前回調査では、「よく知っている」「少し知っている」の合計は71.5%となっている。「よく知っている」では、4.6ポイント減少し、「言葉を聞いたことがある」では4.2ポイント増加している。



■性別

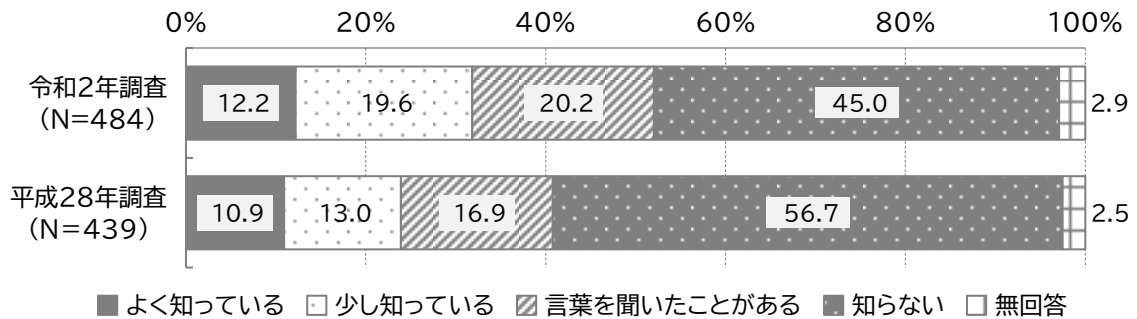
マタニティ・ハラスメントについて「よく知っている」と回答した人の割合は、男性で23.9%、女性で38.6%となっており、14.7ポイントの差がみられる。



<B：パタニティ・ハラスメント>

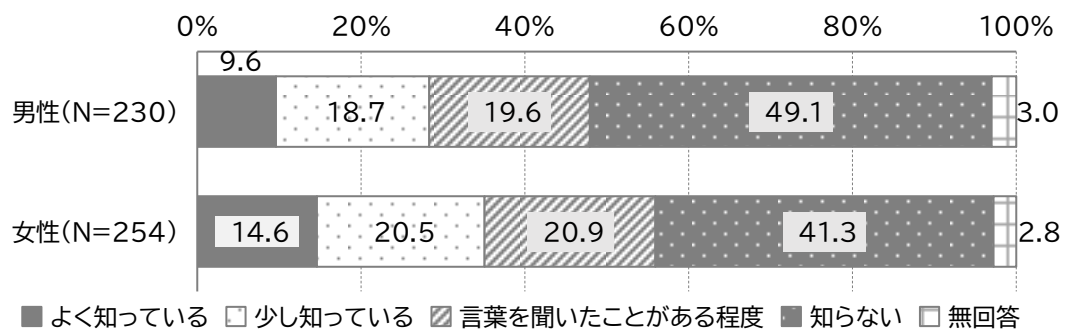
「よく知っている」「少し知っている」の合計は、31.8%となっている。

前回調査では、「よく知っている」「少し知っている」の合計は 23.9%となっている。「知らない」では、56.7%から 45.0%となっており、11.7 ポイントの減少がみられる。



■性別

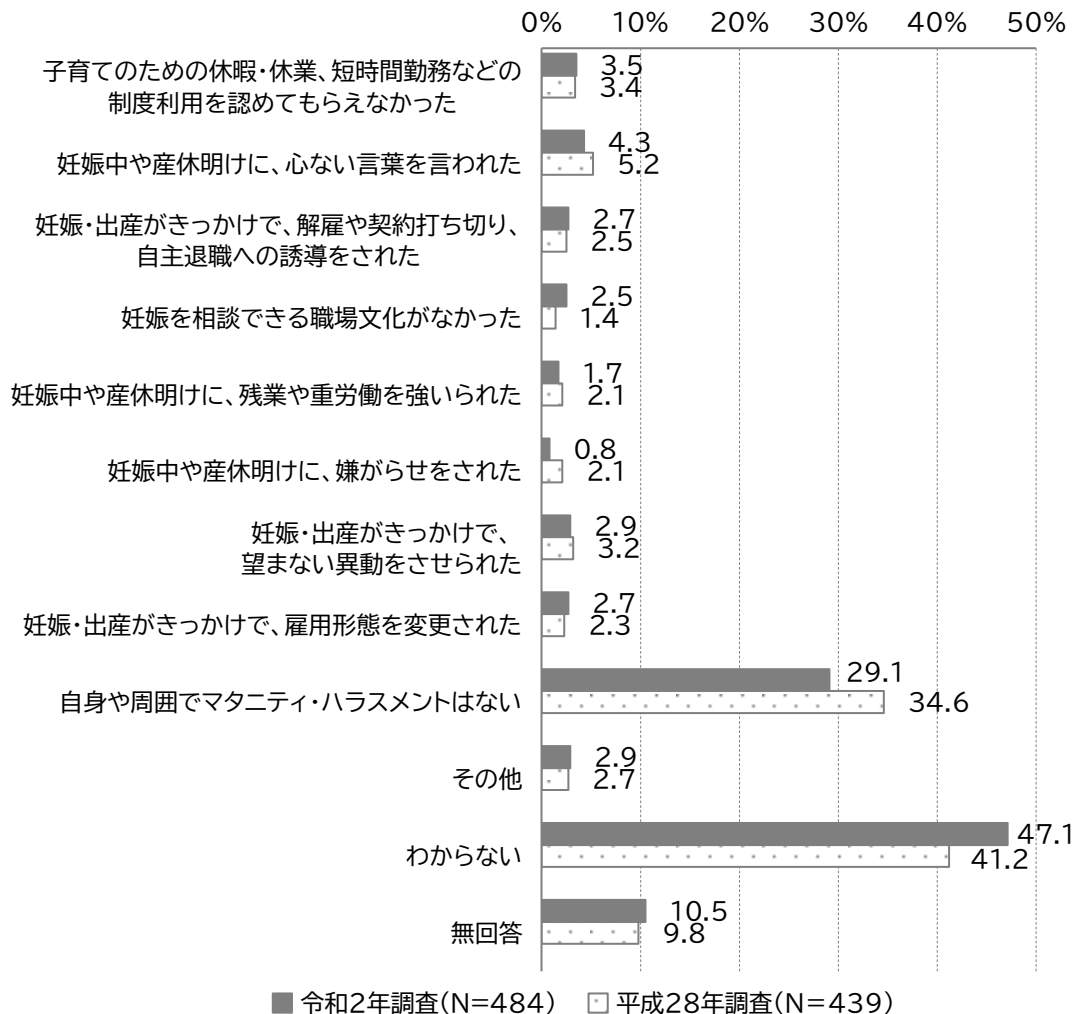
パタニティ・ハラスメントについて「よく知っている」と回答した人の割合は、男性で 9.6%、女性で 14.6%となっており、5.0 ポイントの差がみられる。



問2 1 あなた自身やあなたの周囲で、職場におけるマタニティ・ハラスメントを経験した人はいですか。それは、どのようなマタニティ・ハラスメントでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「わからない」が47.1%と最も多く、次いで「自身や周囲でマタニティ・ハラスメントはない」が29.1%、「妊娠中や産休明けに、心ない言葉を言われた」が4.3%となっている。

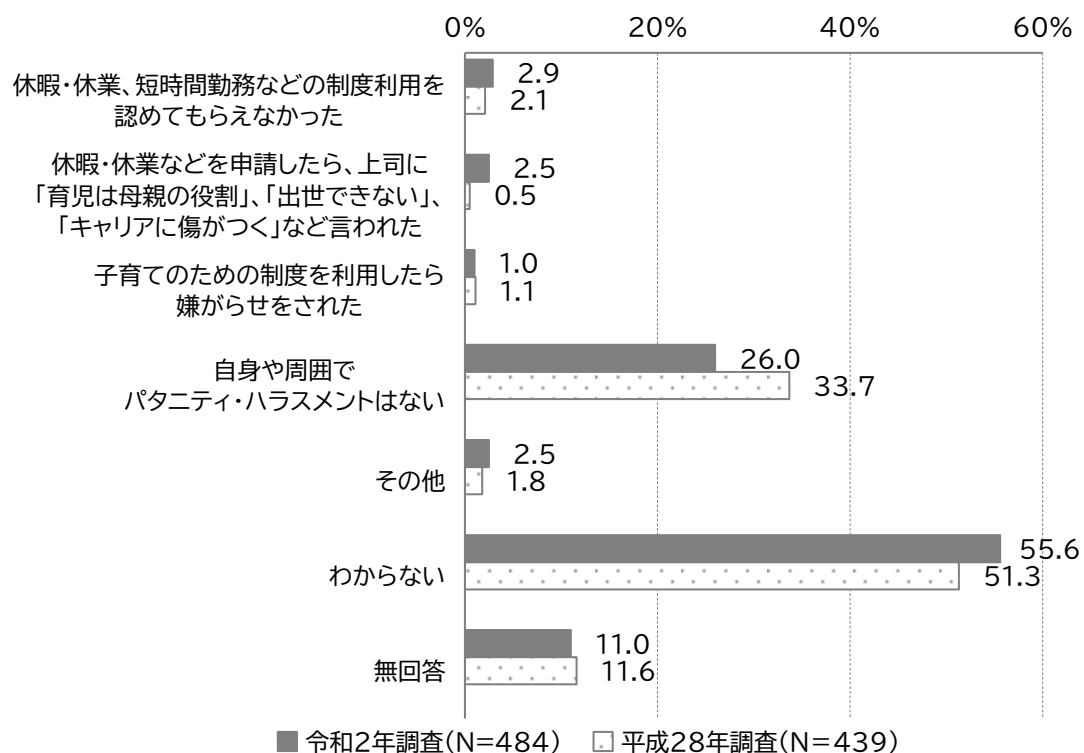
前回調査と比べると、「自身や周囲でマタニティ・ハラスメントはない」は5.5ポイント減少している。



問22 あなた自身やあなたの周囲で、職場におけるパタニティ・ハラスメントを経験した人はいですか。それは、どのようなパタニティ・ハラスメントでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「わからない」が55.6%と最も多く、次いで「自身や周囲でパタニティ・ハラスメントはない」が26.0%、「休暇・休業、短時間勤務などの制度利用を認めてもらえなかった」が2.9%となっている。

前回調査と比べると、「自身や周囲でパタニティ・ハラスメントはない」について7.7ポイント減少している。

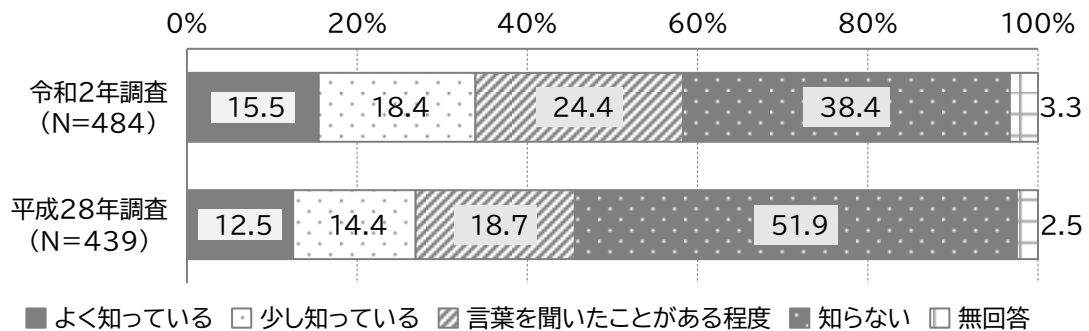


9. ワーク・ライフ・バランスについて

問23 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、ご存知ですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「よく知っている」「少し知っている」の合計は、33.9%となっている。

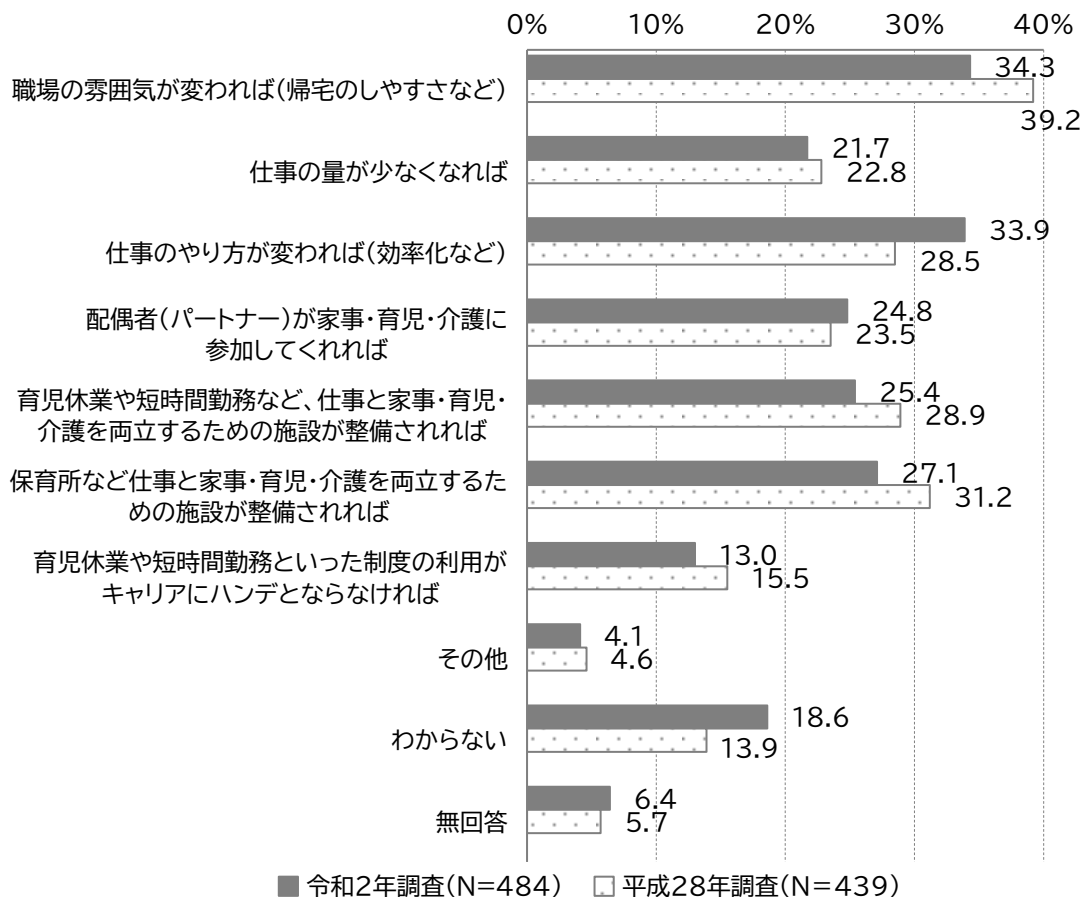
今回の調査にて「知らない」が38.4%と最も多くなっているものの、前回調査よりも13.5ポイント減少している。



問24 どのようにすれば、自分が希望する時間の取り方ができると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

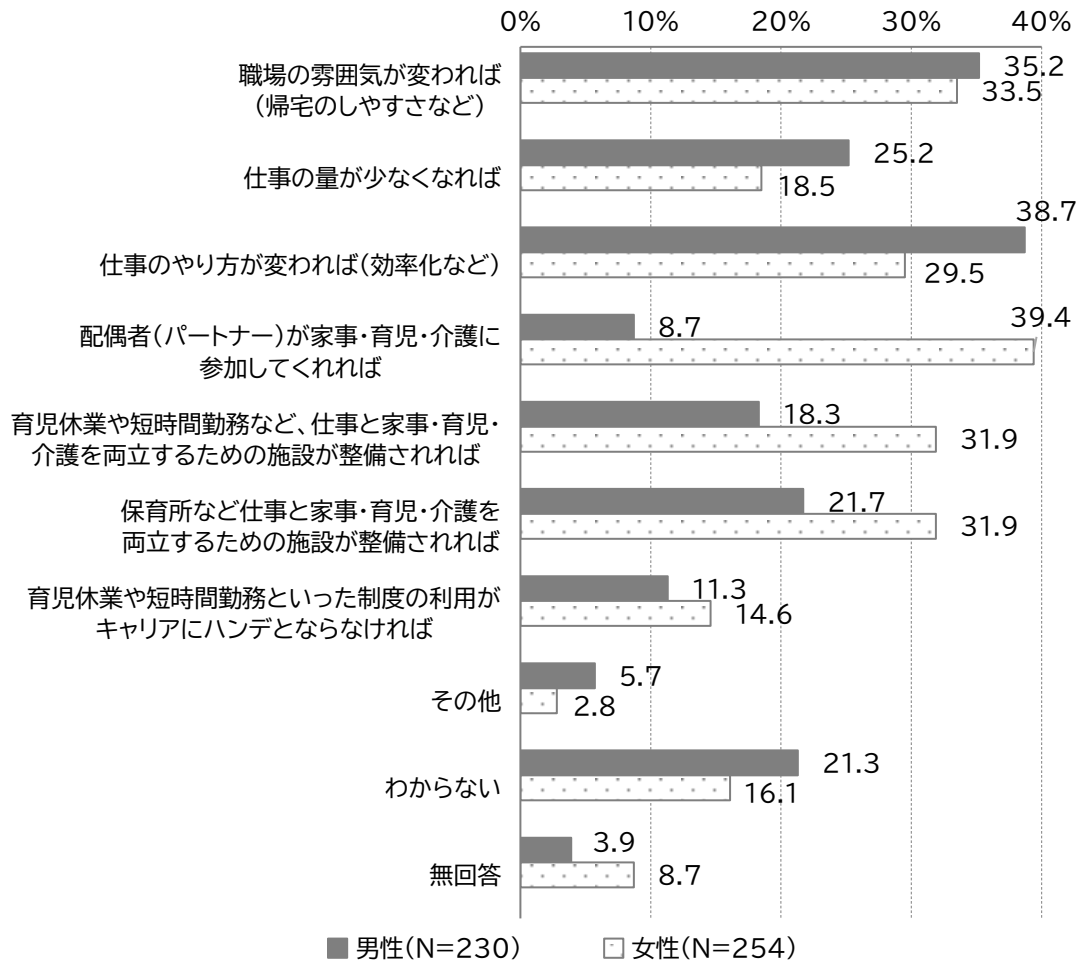
「職場の雰囲気が変われば（帰宅のしやすさなど）」が34.3%と最も多く、次いで「仕事のやり方が変われば（効率化など）」が33.9%、「保育所など仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されれば」が27.1%となっている。

前回調査と比べると、「仕事のやり方が変われば（効率化など）」については、5.0ポイント増加しており、上位となっている。



■性別

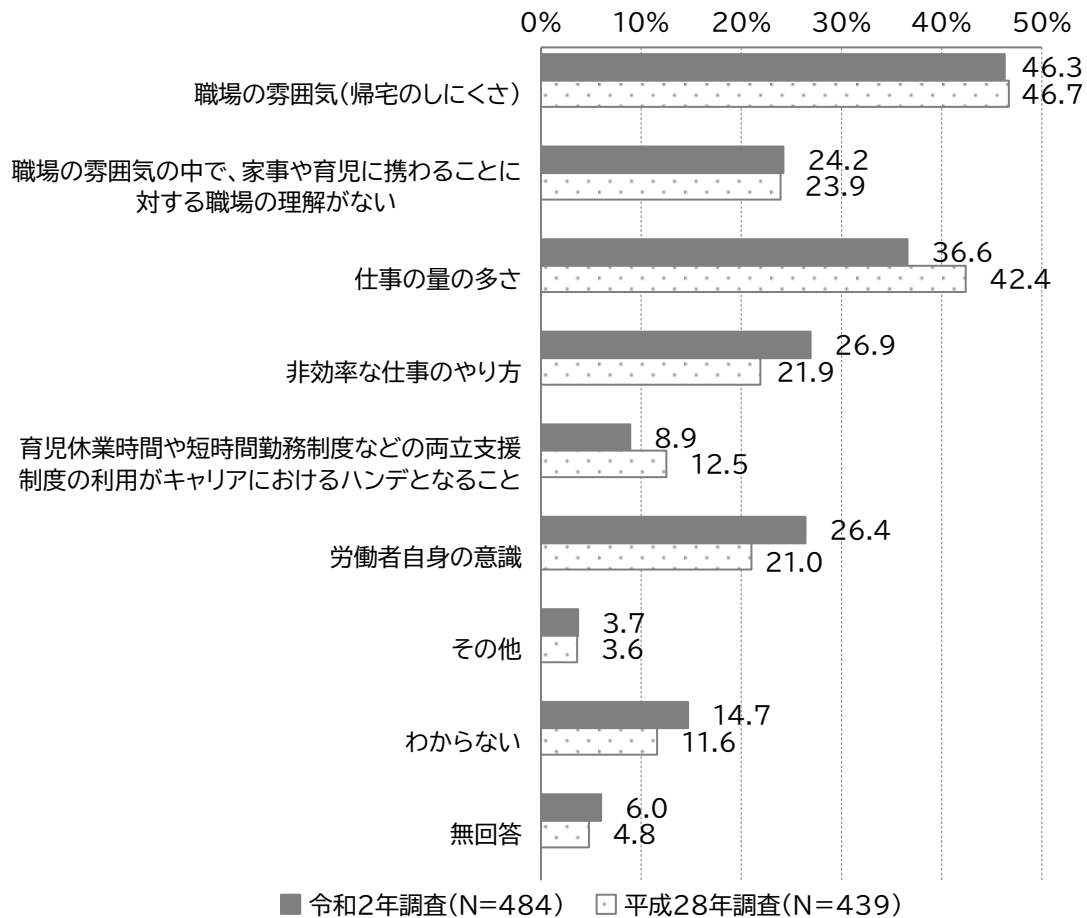
男性では「仕事のやり方が変われば(効率化など)」が38.7%と最も多くなっている。女性では「配偶者(パートナー)が家事・育児・介護に参加してくれれば」が39.4%と最も多くなっており、男性の8.7%とは大きな差がみられる。



問25 長時間労働が顕著であったり、休みが取りにくかったりといった実情がありますが、これらの原因は何にあると思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

「職場の雰囲気(帰宅のしにくさ)」が46.3%と最も多く、次いで「仕事の量の多さ」が36.6%、「非効率な仕事のやり方」が26.9%となっている。

前回調査と比べると、「仕事の量の多さ」について、前回調査よりも5.8ポイント減少している。

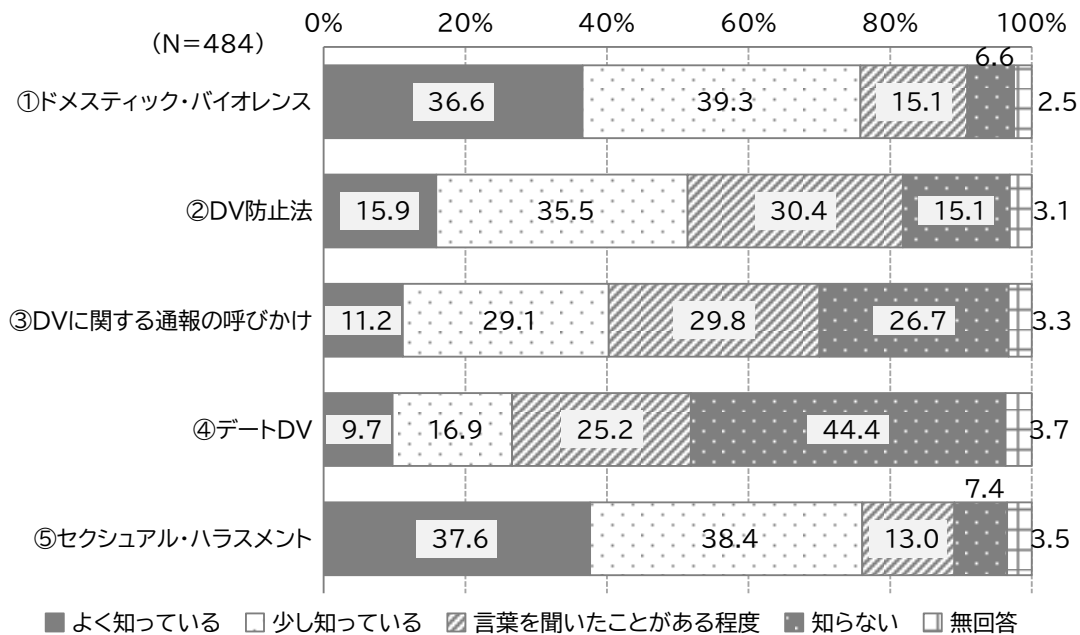


10. ドメスティック・バイオレンスなどについて

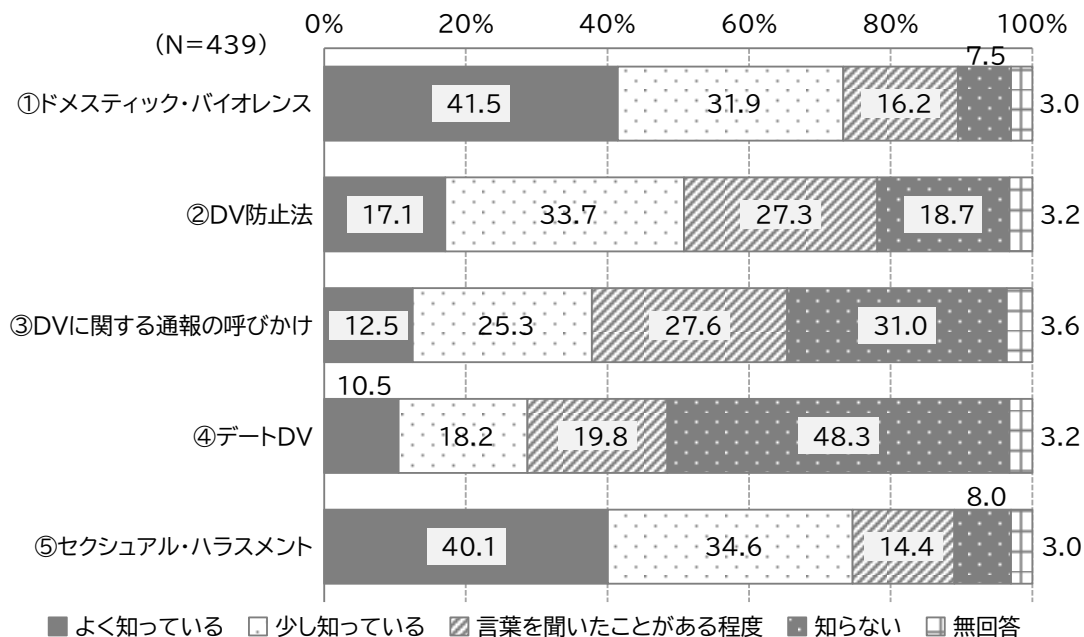
問26 あなたは、次の言葉および法律の内容についてご存知ですか。①～⑤のそれぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。

今回調査においては、「①ドメスティック・バイオレンス」と「⑤セクシュアル・ハラスメント」では、「よく知っている」の割合が40%以下となっている。「③DVに関する通報の呼びかけ」については「言葉を聞いたことがある程度」が最も多くなっているが、「④デートDV」では「知らない」の割合が最も高くなっている。「②DV防止法」においては、「よく知っている」「少し知っている」の合計が51.4%となっており、前回調査と比べて同水準となっている。

【今回調査】



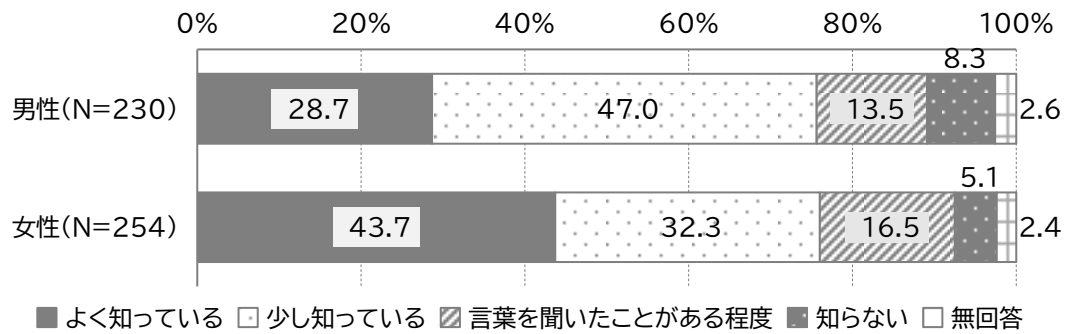
【前回調査】



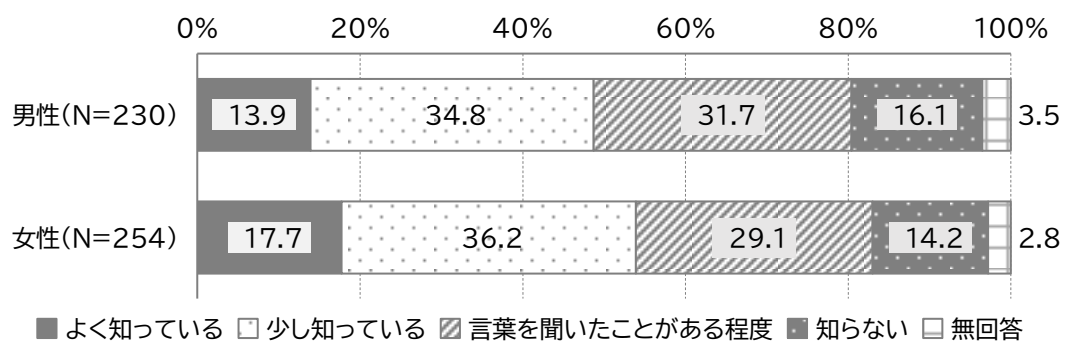
■性別

①～⑤のすべての項目において、「よく知っている」の割合は女性の方が多くなっている。
「①ドメスティック・バイオレンス」について「よく知っている」と回答した人の割合は、男性 28.7%、女性 43.7%となっており、性別による差がみられる。

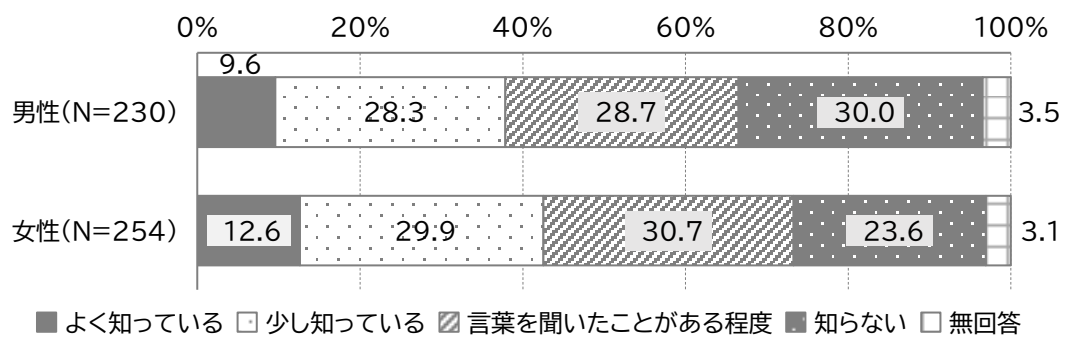
①ドメスティック・バイオレンス



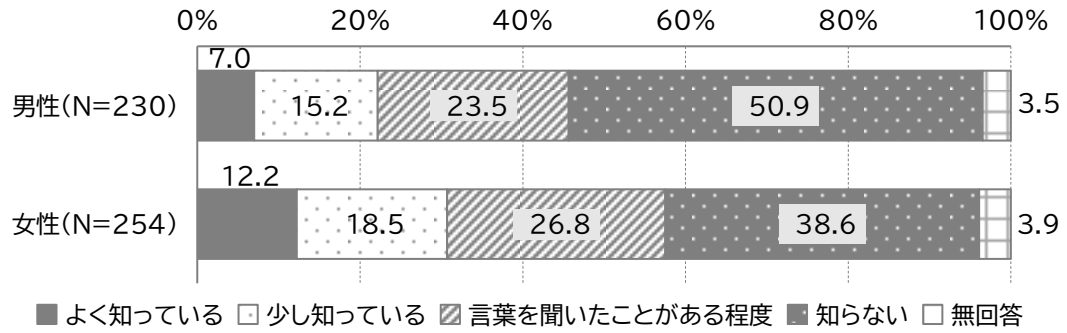
②DV防止法



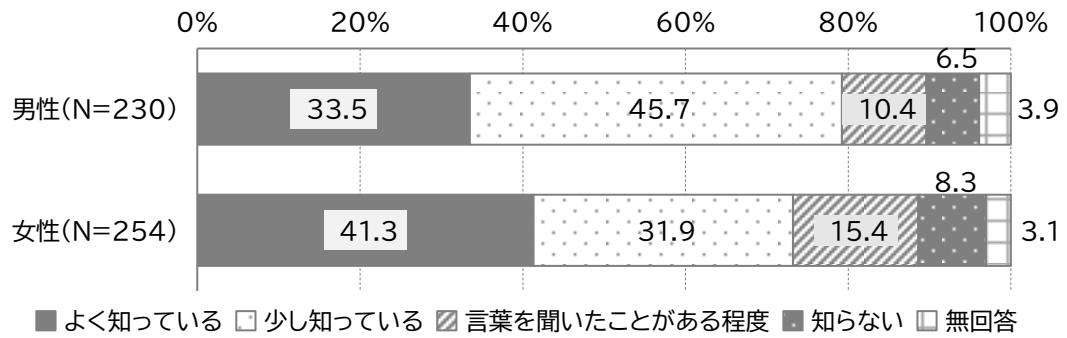
③DVに関する通報の呼びかけ



④デートDV



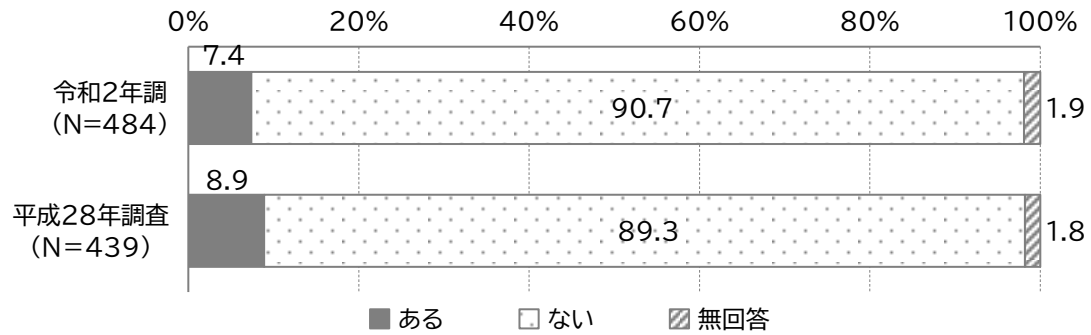
⑤セクシュアル・ハラスメント



問27 あなたはこれまでに、配偶者（パートナー）や恋人等から暴力を受けた経験がありますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「ある」が7.4%、「ない」が90.7%となっている。

前回調査と比べると、大きな変化はみられない。



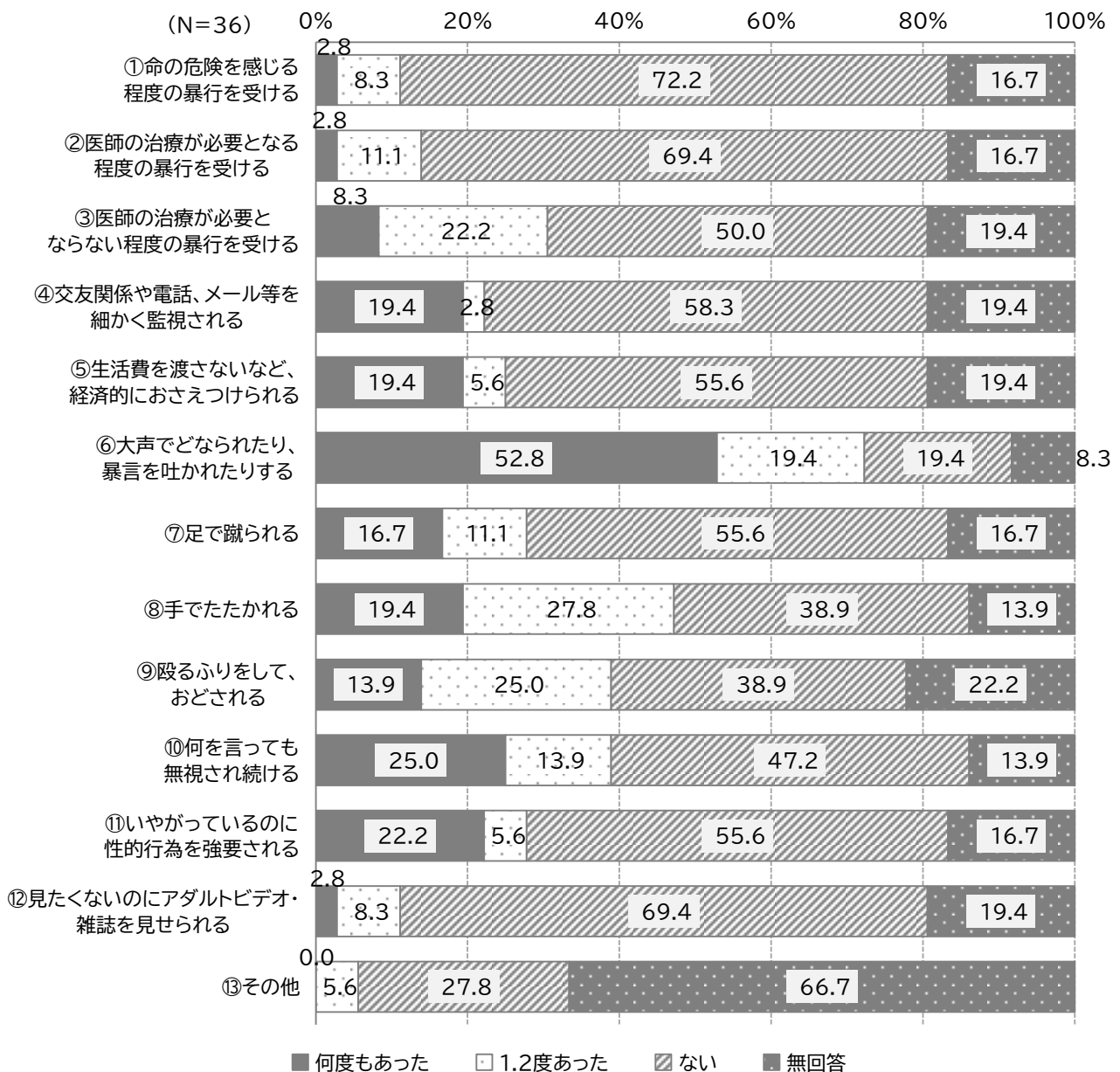
問27-2 問27「1 ある」と答えた方にお聞きます。その暴力はどのようなものでしたか。これまでの状況に関して①～⑬のそれぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。また、現在の状況に関しても同様に、あてはまるものに1つ○をつけてください。

<これまで>

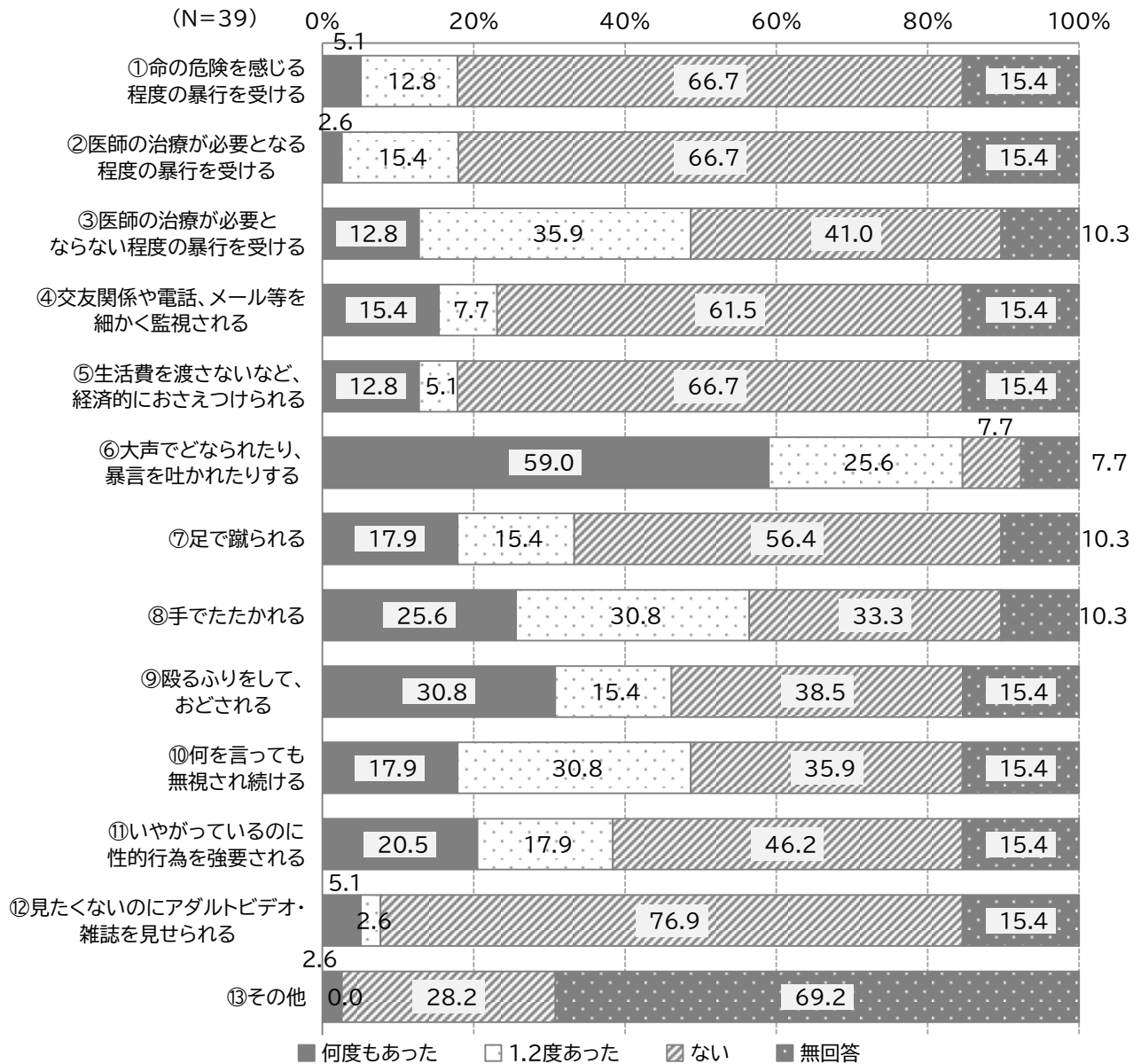
「何度もあった」「1、2度あった」の合計は、「⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれたりする」で72.2%と最も多くなっている。また、「⑧手でたたかれる」では、47.2%となっており、この2つの項目で特に割合が高くなっている。

前回調査では、「⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれたりする」「⑧手でたたかれる」に加えて、「③医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける」についても、「何度もあった」「1、2度あった」の合計が多くなっている。

【今回調査】



【前回調査】



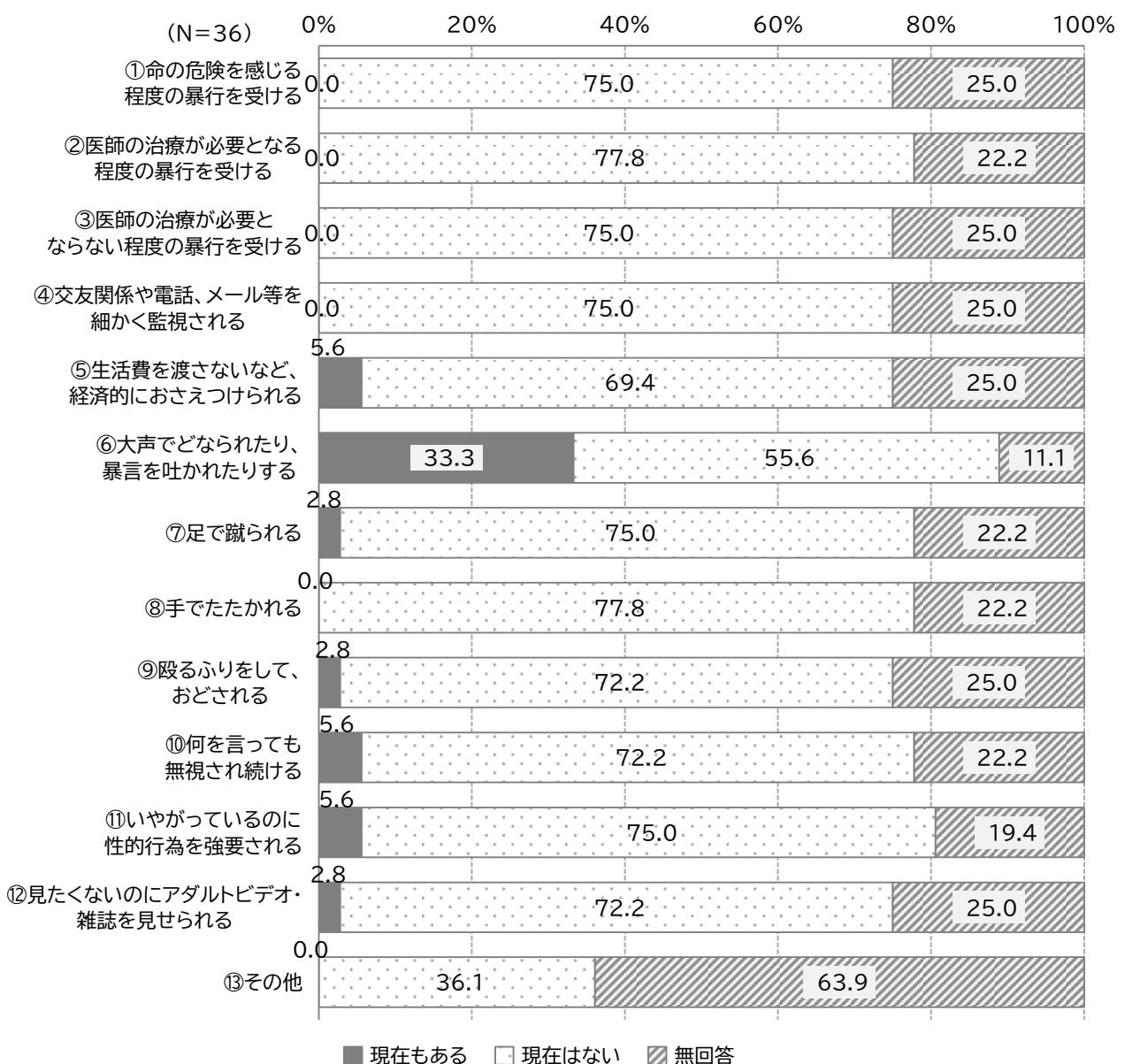
問27-2 問27「1 ある」と答えた方にお聞きます。その暴力はどのようなものでしたか。これまでの状況に関して①～⑬のそれぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。また、現在の状況に関しても同様に、あてはまるものに1つ○をつけてください。

<現在>

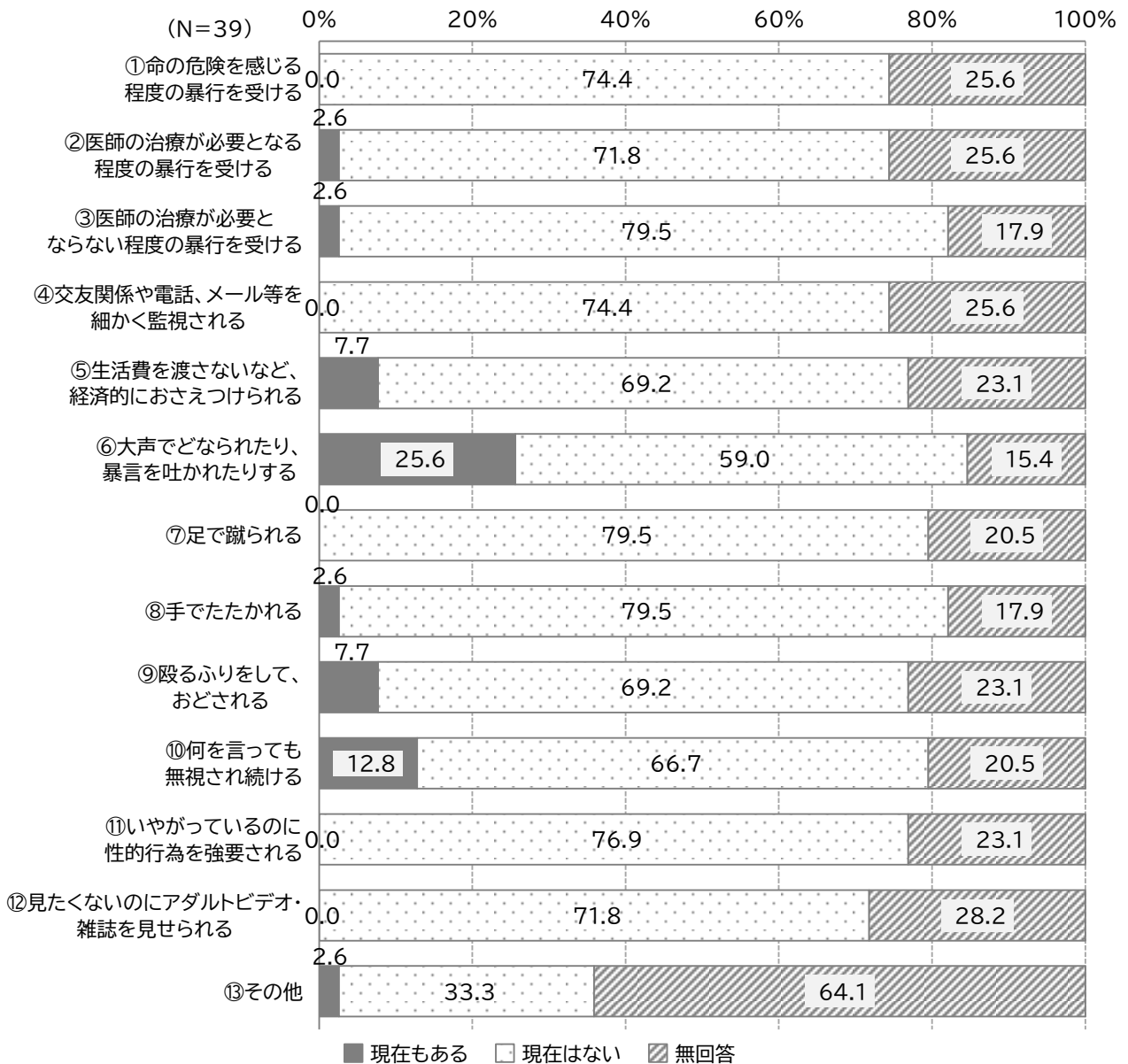
「⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれる」で「現在もある」の割合が高く、33.3%となっている。

「⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれる」における「現在もある」の割合は、前回調査よりも7.7ポイントの増加がみられる。

【今回調査】

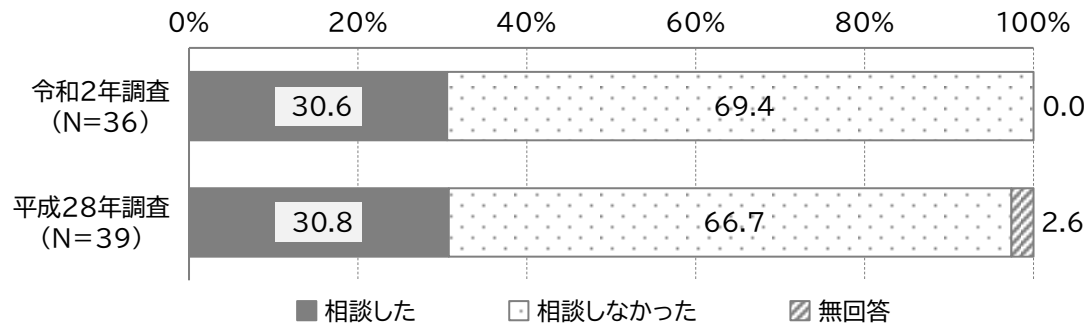


【前回調査】



問27-3 問27で「1 ある」と答えた方にお聞きします。暴力を受けたとき誰かに相談しましたか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

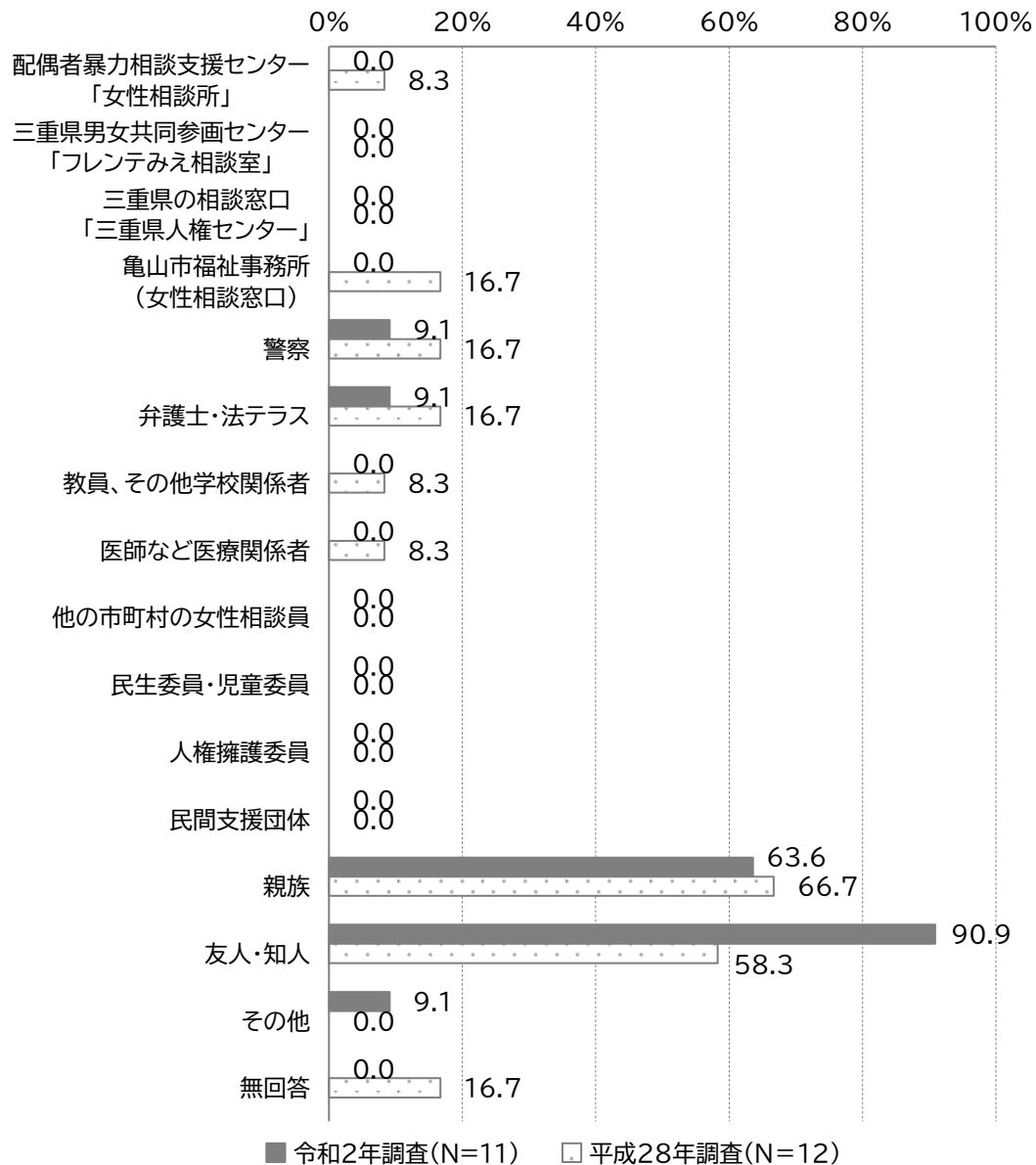
「相談した」が30.6%、「相談しなかった」が69.4%となっている。
 前回調査と比べると、大きな変化はみられない。



問27-4 問27-3で「1 相談した」と答えた方にお聞きます。どのような所および人に相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「友人・知人」が90.9%と最も多く、次いで「親族」が63.6%、「警察」「弁護士・法テラス」が9.1%となっている。

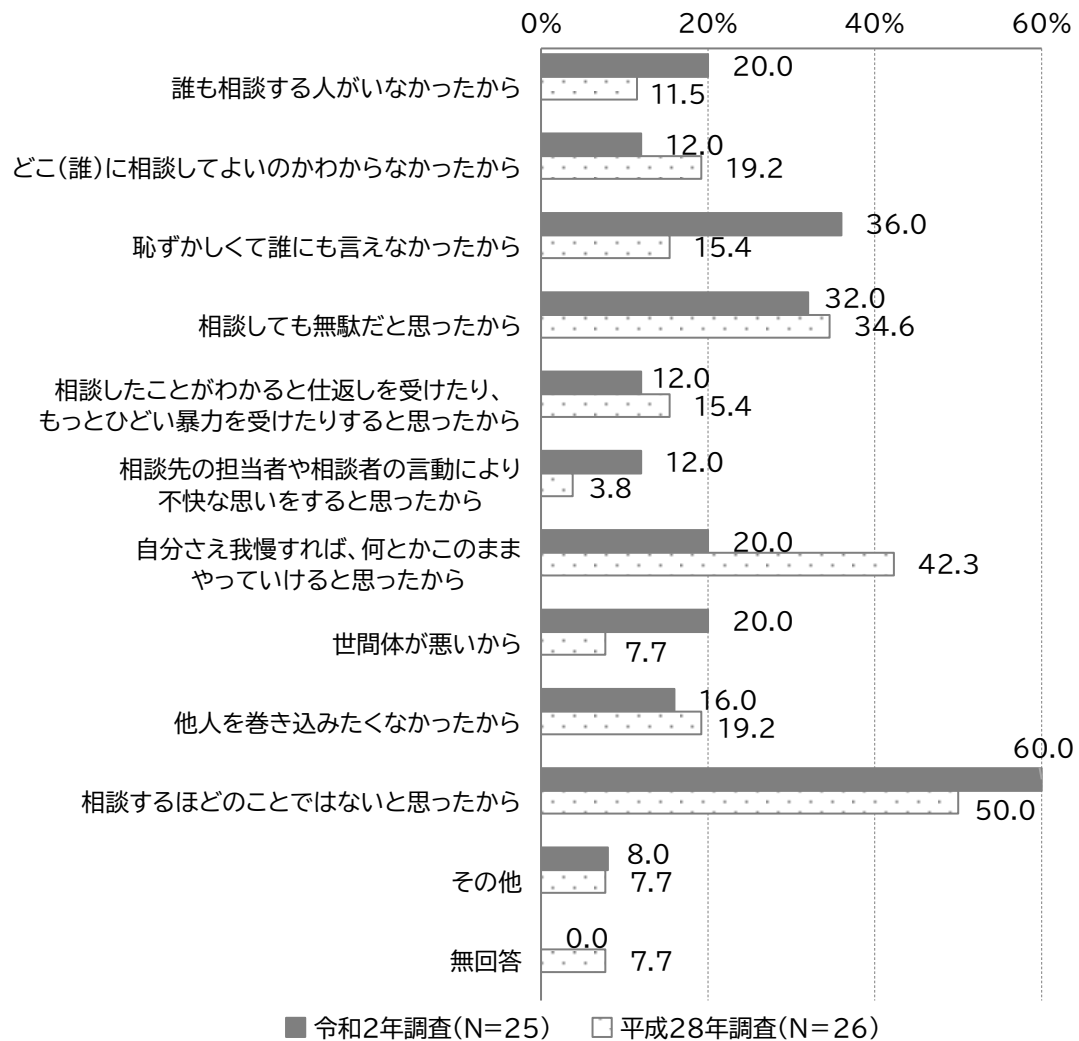
前回調査と比べると、「友人・知人」と回答した人の割合は大幅に増加している。



問27-5 問27-3で「2 相談しなかった」と答えた方にお聞きます。どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「相談するほどのことではないと思ったから」が60.0%と最も多く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が36.0%、「相談しても無駄だと思ったから」が32.0%となっている。

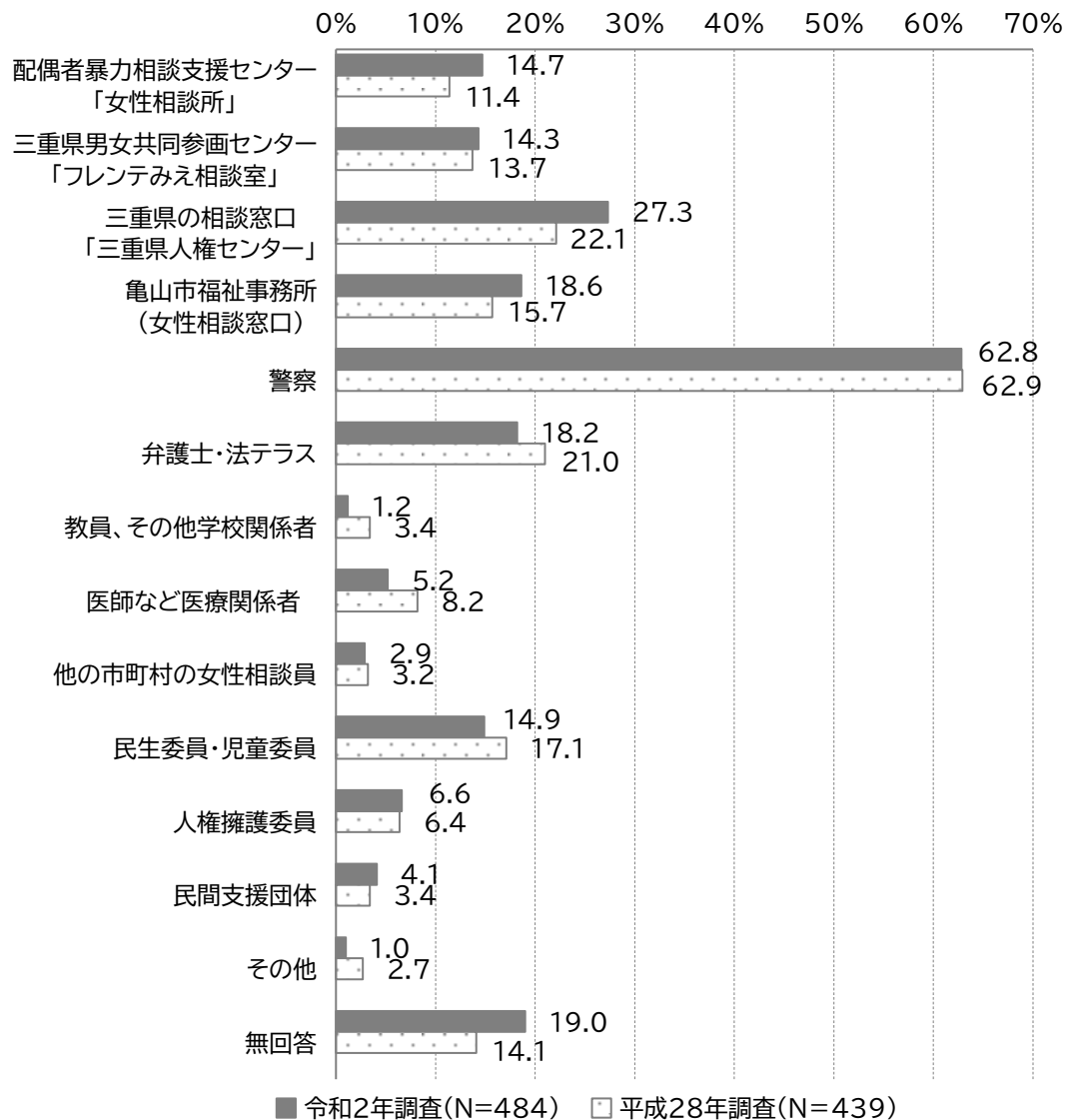
前回調査と比べると、「相談するほどのことではないと思ったから」については、10ポイント増加している。



問28 配偶者やパートナーから暴力を受けたときに相談できる機関や関係者などの窓口のなかで、そのような相談ができることを知っていたものについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

「警察」が62.8%と最も多く、次いで「三重県の相談窓口「三重県人権センター」」が27.3%、「亀山市福祉事務所（女性相談窓口）」が18.6%となっている。

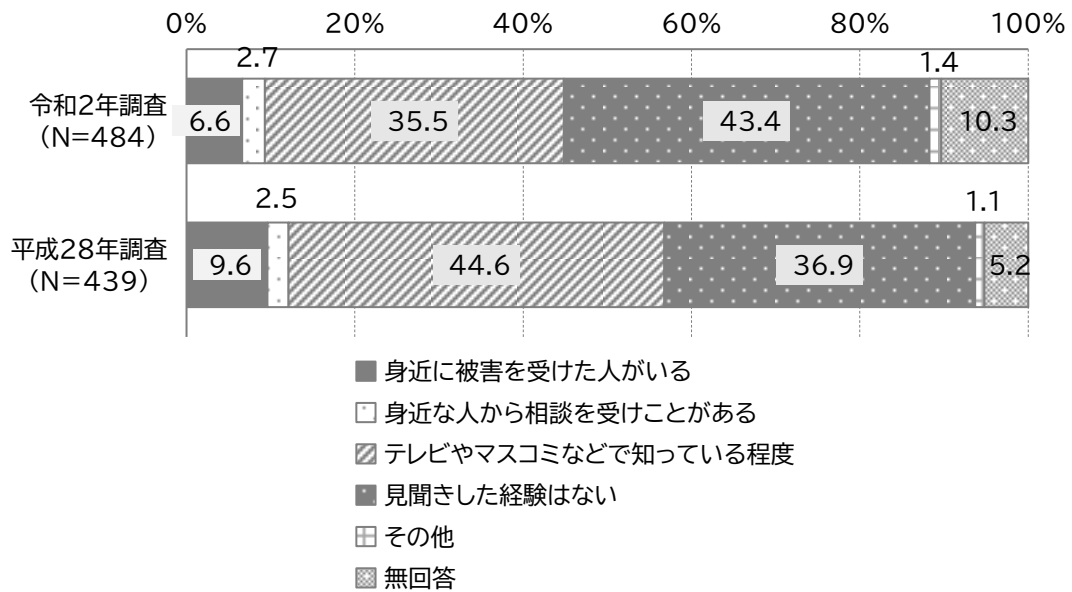
前回調査と比べると、「三重県の相談窓口『三重県人権センター』」については、5.2ポイント増加している。



問29 あなたは、配偶者（パートナー）や恋人等からの暴力（DVおよびデートDV）を見聞きした経験はありますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「見聞きした経験はない」が43.4%と最も多く、次いで「テレビやマスコミなどで知っている程度」が35.5%、「身近に被害を受けた人がある」が6.6%となっている。

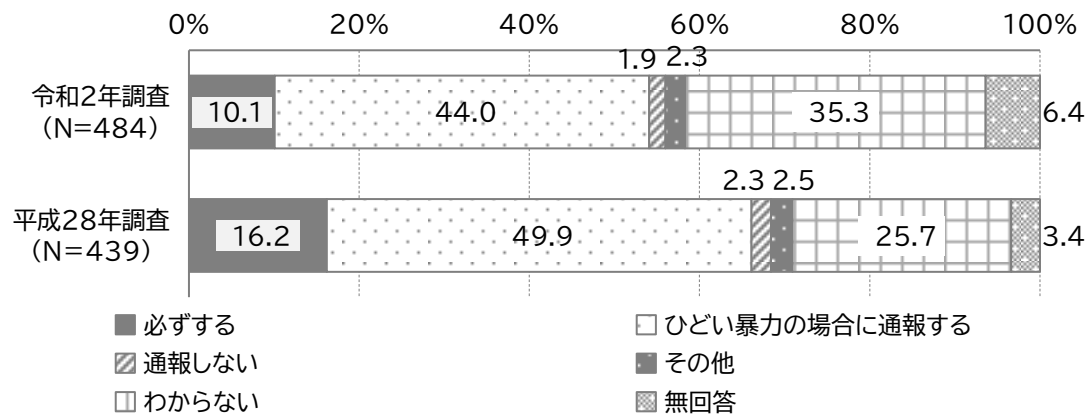
前回調査と比べると、「見聞きした経験はない」は、6.5ポイント増加しているのに対し、「テレビやマスコミなどで知っている程度」は9.1ポイント減少している。



問30 あなたは、DVおよびデートDVを受けている人を発見したとき、通報しますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「ひどい暴力の場合に通報する」が44.0%と最も多く、次いで「わからない」が35.3%、「必ずする」が10.1%となっている。

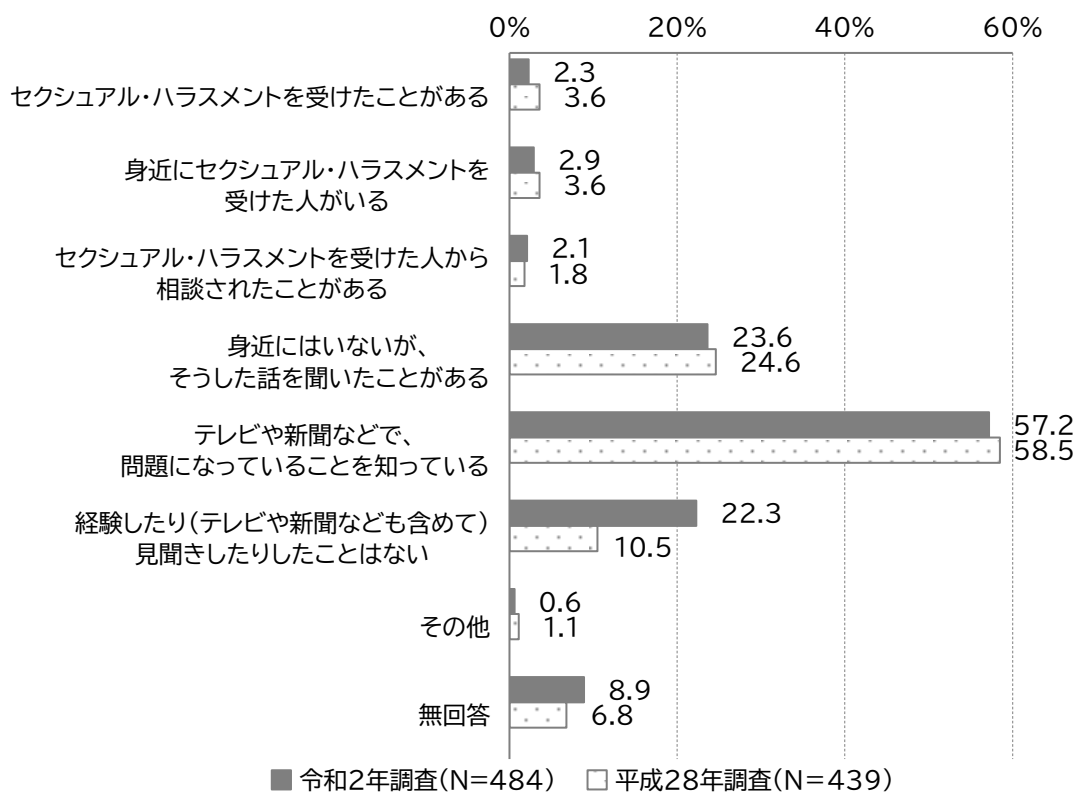
前回調査と比べると、「ひどい暴力の場合に通報する」は5.9ポイント、「必ずする」は6.1ポイント減少している。



問3 1 最近5年間程度のうちで、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」が57.2%と最も多く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」が23.6%、「経験したり（テレビや新聞なども含めて）見聞きしたりしたことはない」が22.3%となっている。

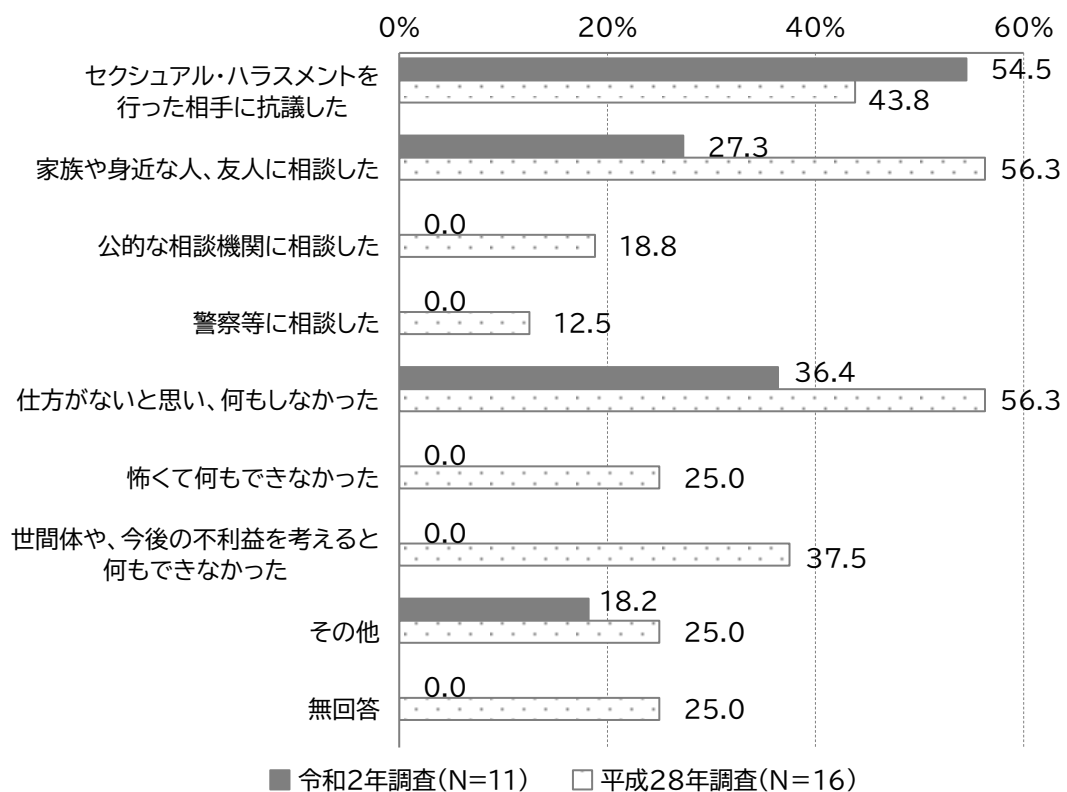
前回調査と比べると、「経験したり（テレビや新聞なども含めて）見聞きしたりしたことはない」について、11.8ポイント増加している。



問31-2 問31で「1 セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」と答えた方にお聞
 きます。あなたは、セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後、
 どのような対応をしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した」が54.5%と最も多く、次いで「仕
 方がないと思い、何もしなかった」が36.4%、「家族や身近な人、友人に相談した」が27.3%
 となっている。

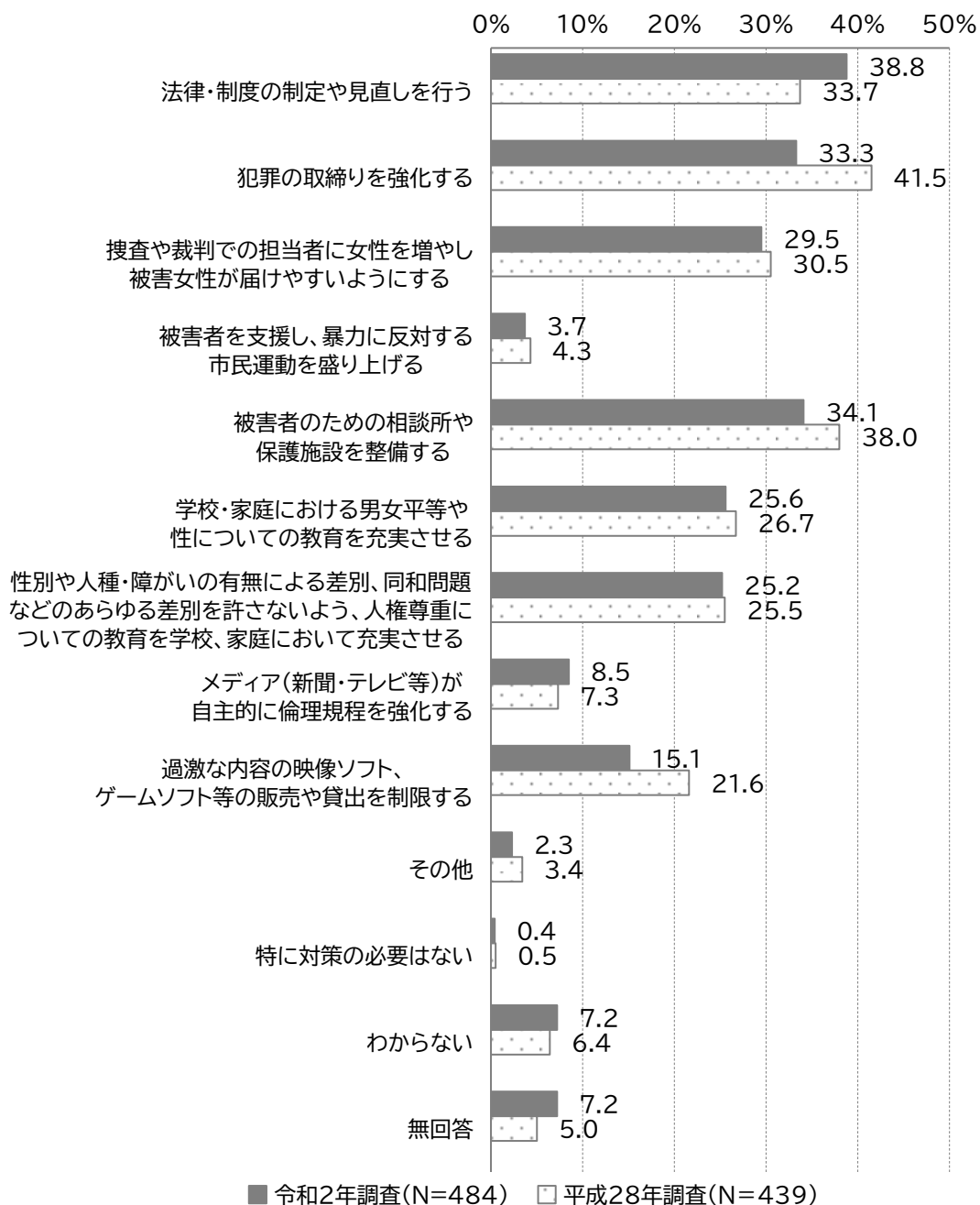
前回調査と比べると、家族や身近な人、友人に相談した」「仕方がないと思い、何もしなかつ
 た」「セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した」については、割合が増加している。



問3 2 近年において、性犯罪や売買春（いわゆる「援助交際」を含む）、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント等についての関心が高まっていますが、このようなことをなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。（最大3つまで）

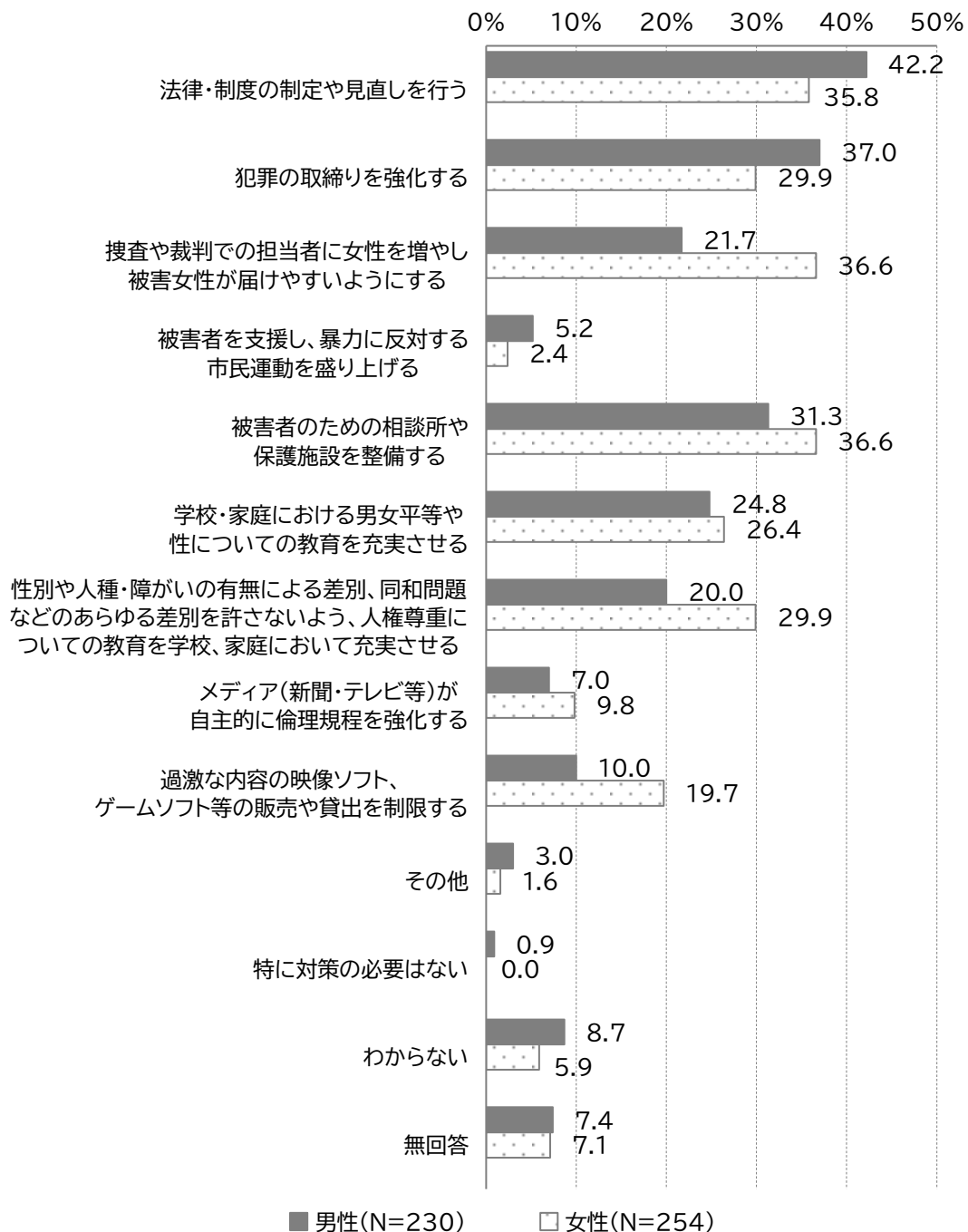
「法律・制度の制定や見直しを行う」が38.8%と最も多く、次いで「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が34.1%、「犯罪の取締りを強化する」が33.3%となっている。

上位となっている項目は前回調査と同様となっているが、「法律・制度の制定や見直しを行う」は5.1ポイントが増加しているのに対し、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が3.9ポイント、「犯罪の取締りを強化する」が8.2ポイント減少している。



■性別

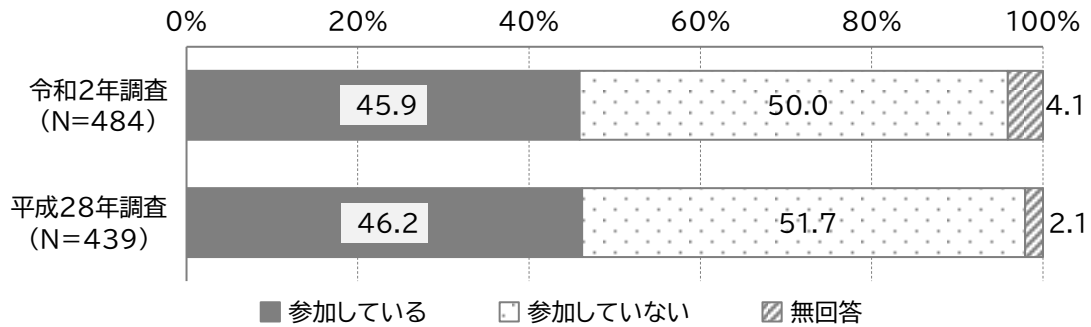
男性では「法律・制度の制定や見直しを行う」が42.2%と最も多くなっている。女性では「捜査や裁判での担当者に女性を増やし被害女性が届けやすいようにする」「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が36.6%と最も多くなっている。「捜査や裁判での担当者に女性を増やし被害女性が届けやすいようにする」については、男性21.7%、女性では36.6%と性別による差がみられる。



11. 社会参加について

問33 あなたは現在、地域における社会活動に参加していますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

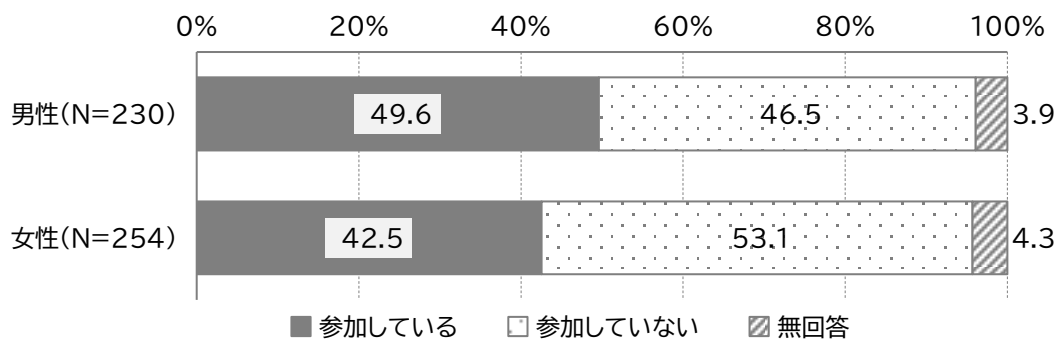
「参加している」が45.9%、「参加していない」が50.0%となっている。
前回調査と比べると、大きな変化はみられない。



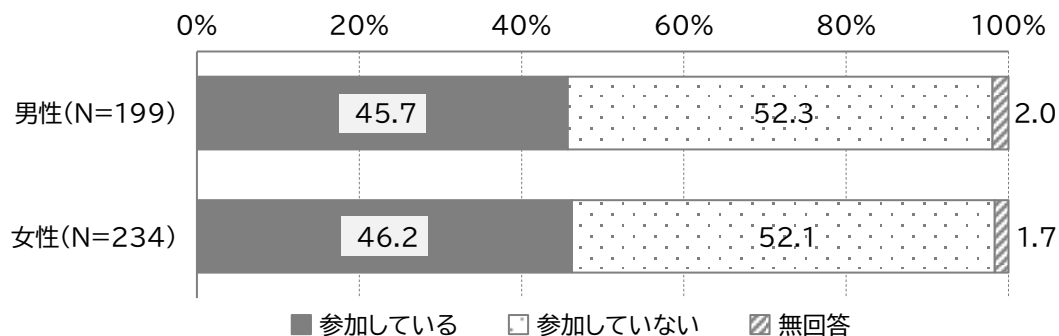
■性別

「参加している」について、男性 49.6%、女性 42.5%と 7.1 ポイントの差がみられる。
前回調査よりも、「参加している」と回答した男性の割合が多くなっている

【今回調査】

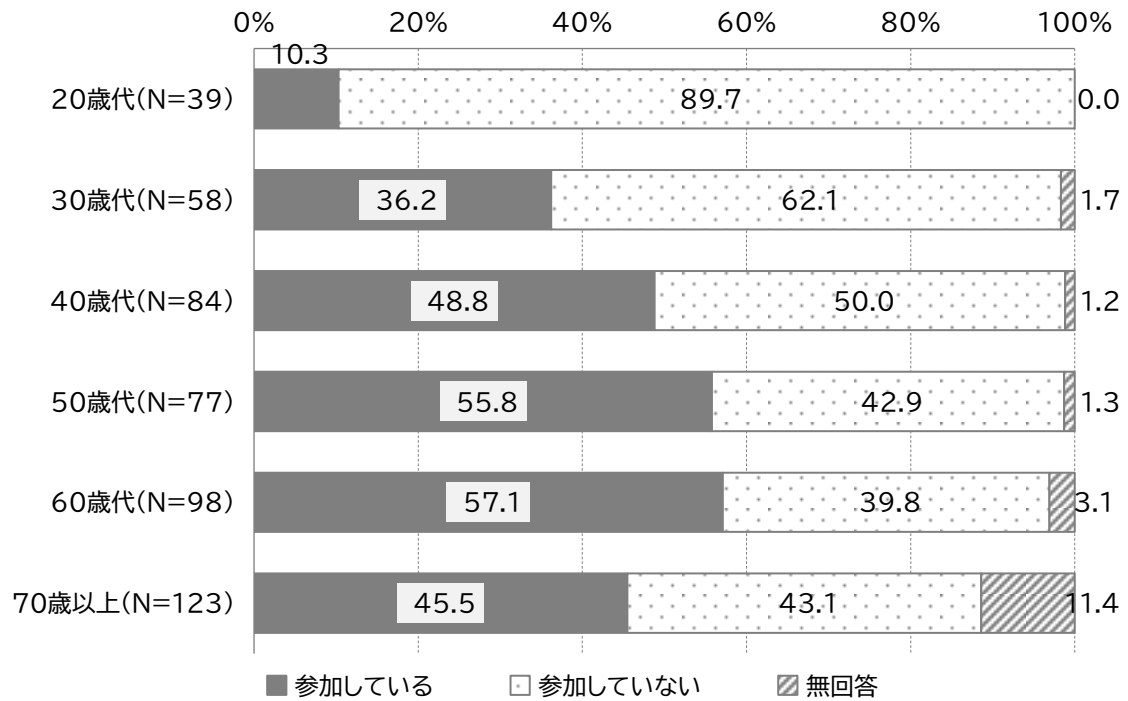


【前回調査】



■年齢別

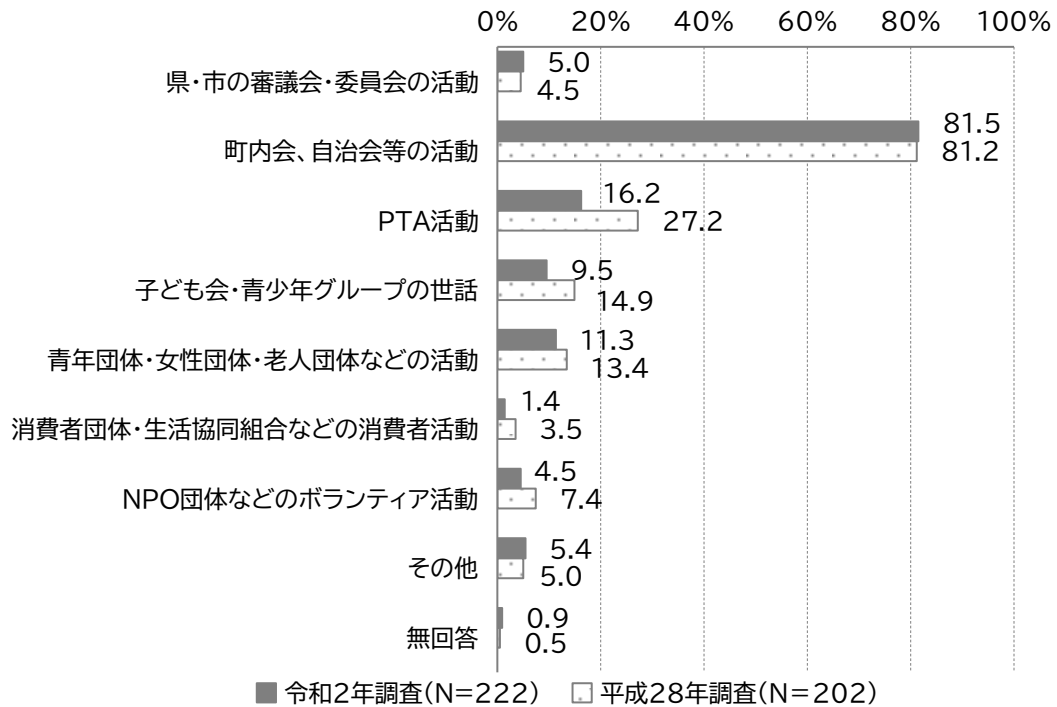
「参加している」人の割合は、20 歳代で 10.3%と最も低く、60 歳代までは、年齢層が上がるとつれて割合が増加している。



問33-2 問33で「1 参加している」と答えた方にお聞きます。あなたが参加している社会活動はどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

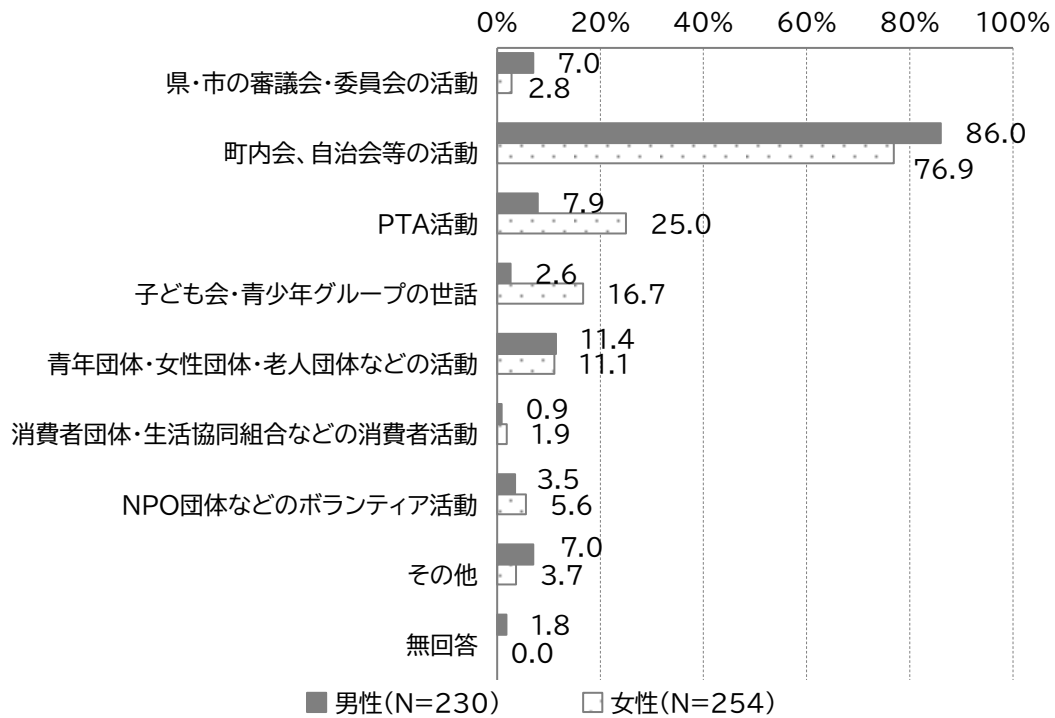
「町内会、自治会等の活動」が81.5%と最も多く、次いで「PTA活動」が16.2%、「青年団体・女性団体・老人団体などの活動」が11.3%となっている。

前回調査と比べると、「PTA活動」は11ポイント、「子ども会・青少年グループの世話」は5.4ポイント減少している。



■性別

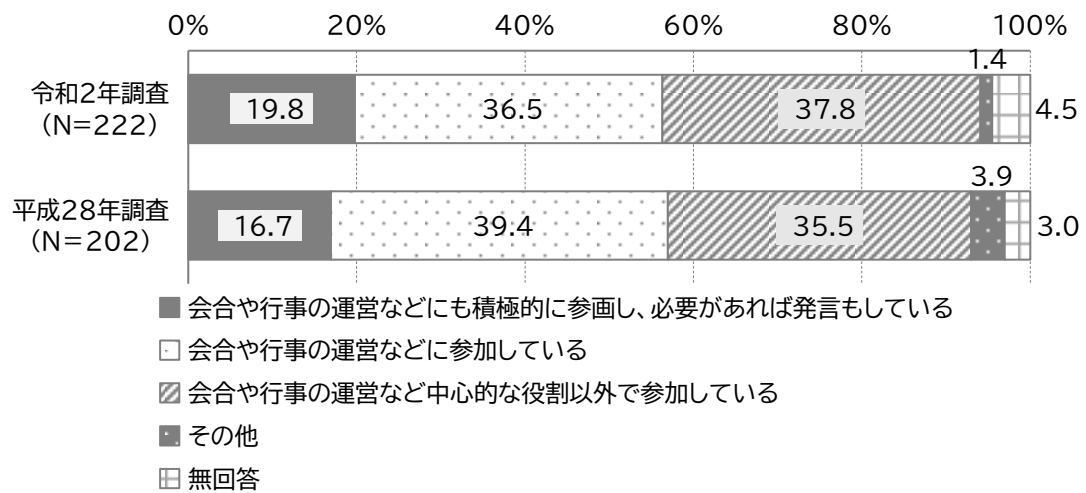
男性、女性ともに「町内会、自治会等の活動」が最も多く、男性で86.0%、女性で76.9%となっている。次いで、男性では「青年団体・女性団体・老人団体などの活動」が11.4%、女性では「PTA活動」が25.0%となっている。「PTA活動」については、男性で7.9%となっており、性別による差がみられる。



問33-3 問33で「1 参加している」と答えた方にお聞きします。あなたはどのように社会活動に参画していますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「会合や行事の運営など中心的な役割以外で参加している」が37.8%と最も多く、次いで「会合や行事の運営などに参加している」が36.5%、「会合や行事の運営などにも積極的に参画し、必要があれば発言もしている」が19.8%となっている。

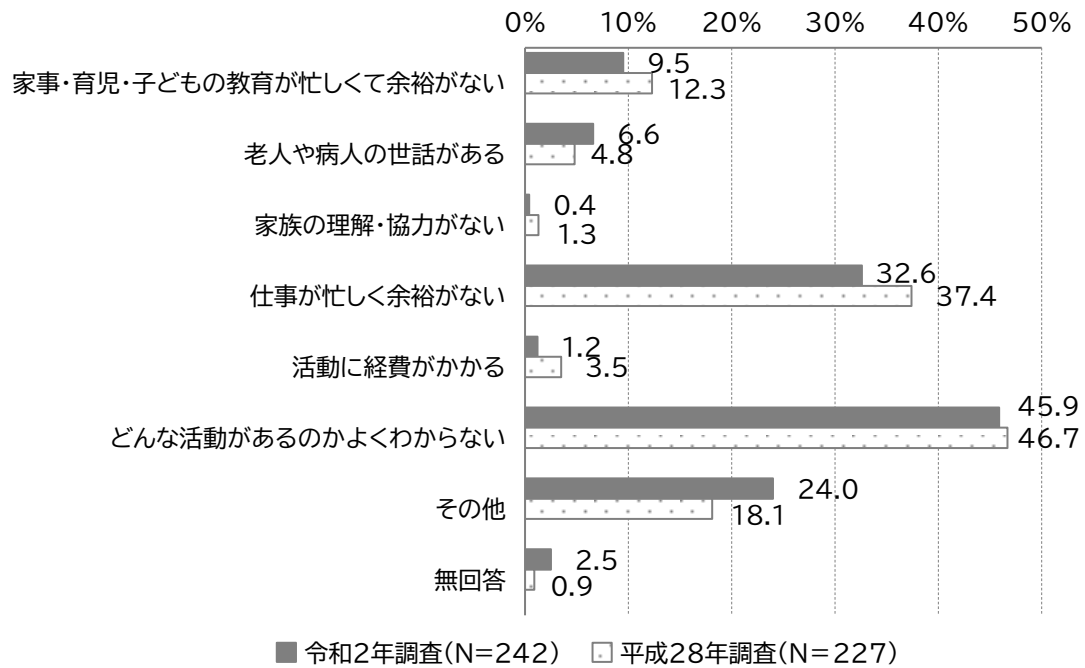
前回調査と比べると、大きな変化はみられない。



問33-4 問33で「2 参加していない」と答えた方にお聞きます。社会活動に参加していない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「どんな活動があるのかよくわからない」が45.9%と最も多く、次いで「仕事が忙しく余裕がない」が32.6%、「家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない」が9.5%となっている。

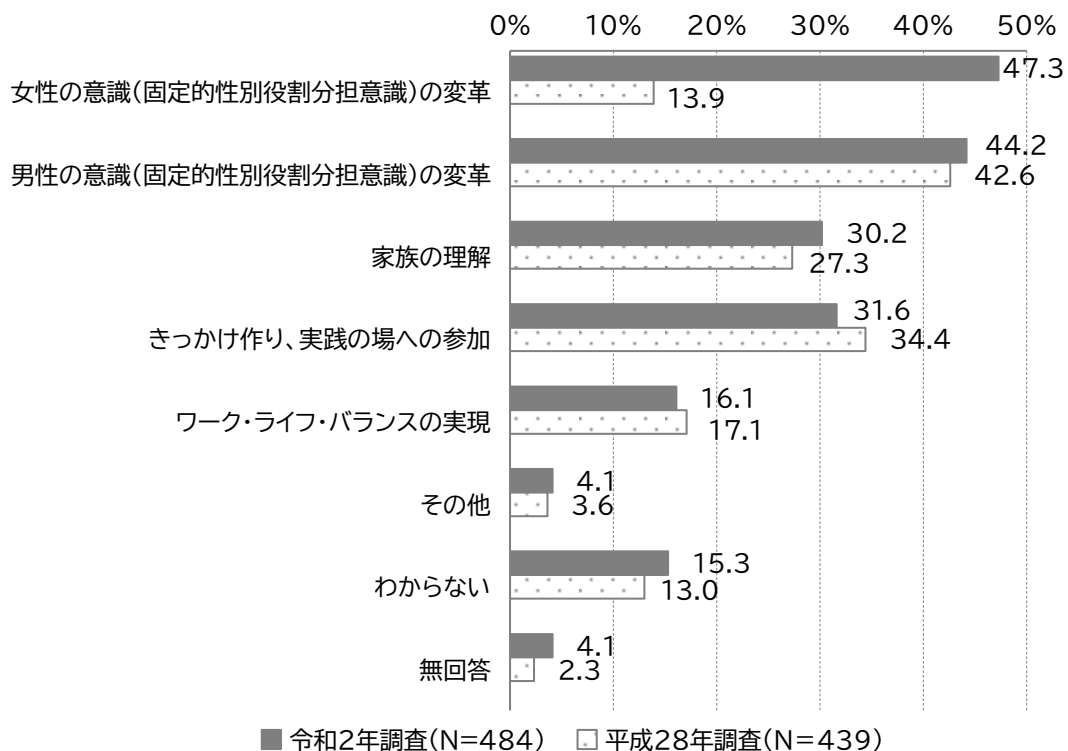
上位となっている項目は前回調査と同様であるが、いずれの項目においても割合が減少している。



問34 亀山市の全247自治会の中で、女性の自治会長の割合は5%未満と低いのが現状ですが、あなたは自治会や地域団体など、地域社会において女性が活躍していくために必要なことは何だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「女性の意識（固定的性別役割分担意識）の変革」が47.3%と最も多く、次いで「男性の意識（固定的性別役割分担意識）の変革」が44.2%、「きっかけ作り、実践の場への参加」が31.6%となっている。

前回調査と比べると、「女性の意識（固定的性別役割分担意識）の変革」は、33.4ポイントの大幅な増加がみられる。

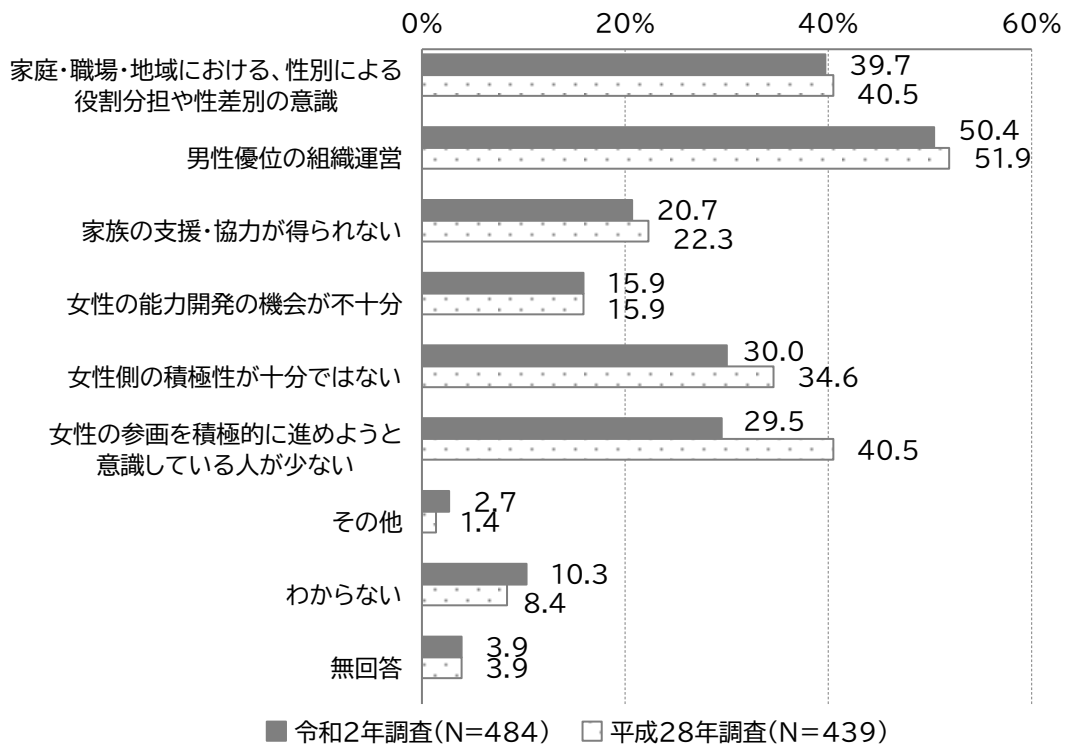


12. 男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて

問35 政治や行政における、政策の企画や方針決定の過程への女性の参画は、徐々に改善はされているものの、依然として少ないのが現状です。あなたは、このような女性の参画が少ない状況は何が原因だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(最大3つまで)

「男性優位の組織運営」が50.4%と最も多く、次いで「家庭・職場・地域における、性別による役割分担や性差別の意識」が39.7%、「女性側の積極性が十分ではない」が30.0%となっている。

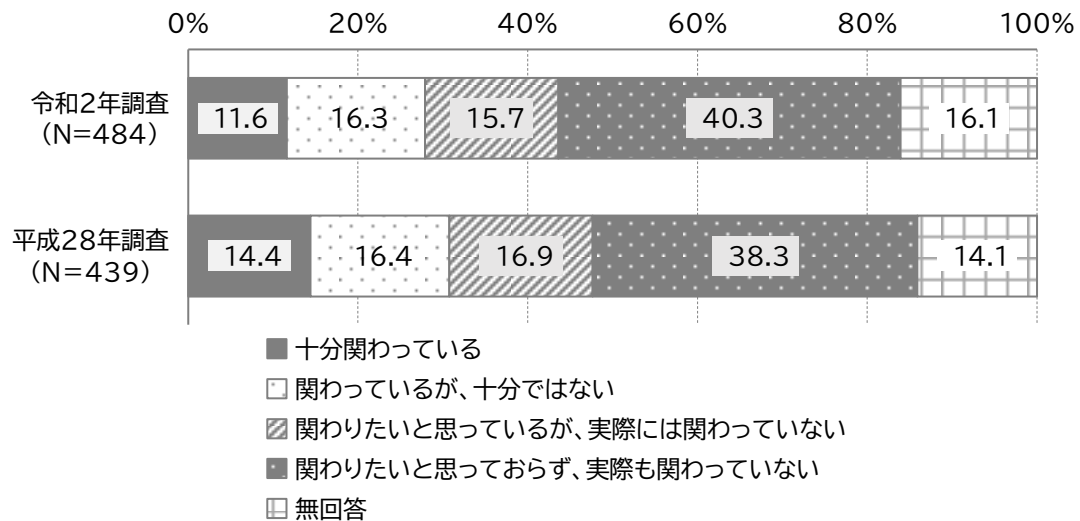
上位となっている項目は前回調査と同様であるが、いずれの項目においても割合が減少している。



問36 あなたは職場などの組織における重要な方針の決定過程に関わっていますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

「関わりたいと思っておらず、実際も関わっていない」が40.3%と最も多く、次いで「関わっているが、十分ではない」が16.3%、「関わりたいと思っているが、実際には関わっていない」が15.7%となっている。

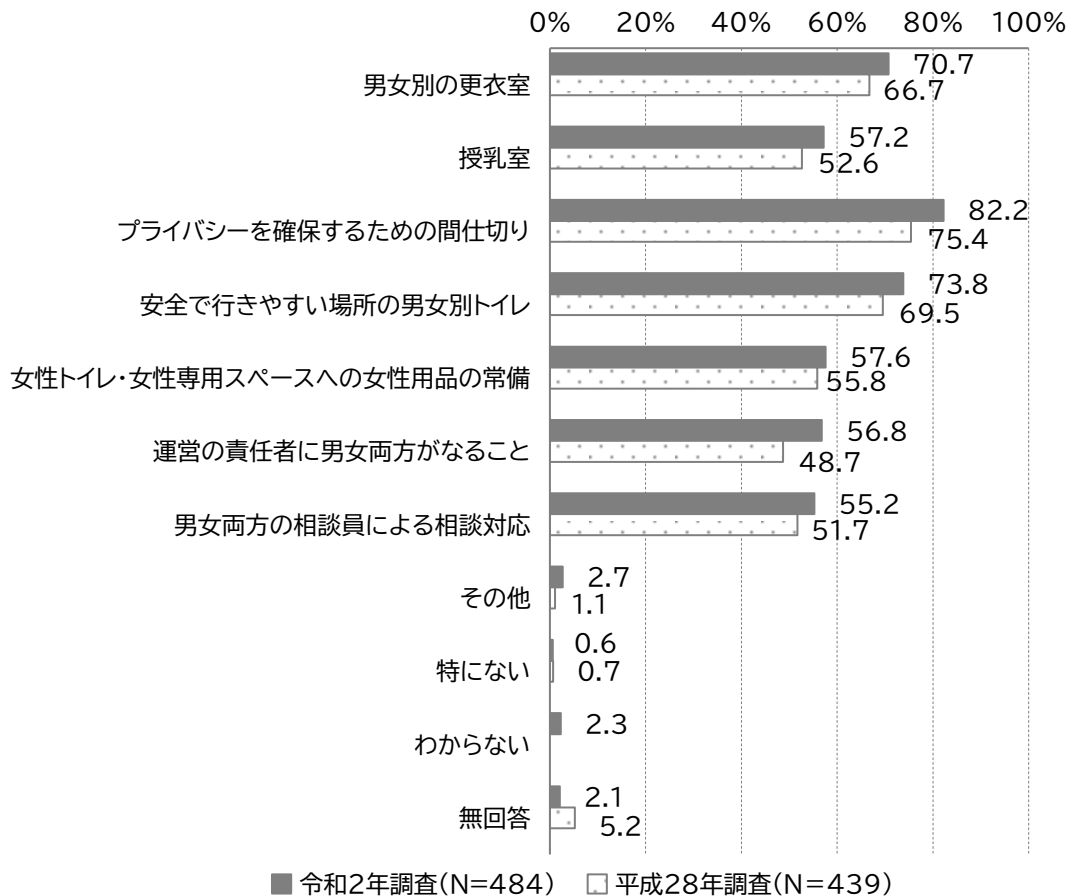
前回調査と比べると、大きな変化みられない。



問37 災害時の避難所運営における男女共同参画についてお聞きします。あなたは、自然災害が起きたとき、避難所にはどのようなことが必要だと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「プライバシーを確保するための間仕切り」が82.2%と最も多く、次いで「安全で行きやすい場所の男女別トイレ」が73.8%、「男女別の更衣室」が70.7%となっている。

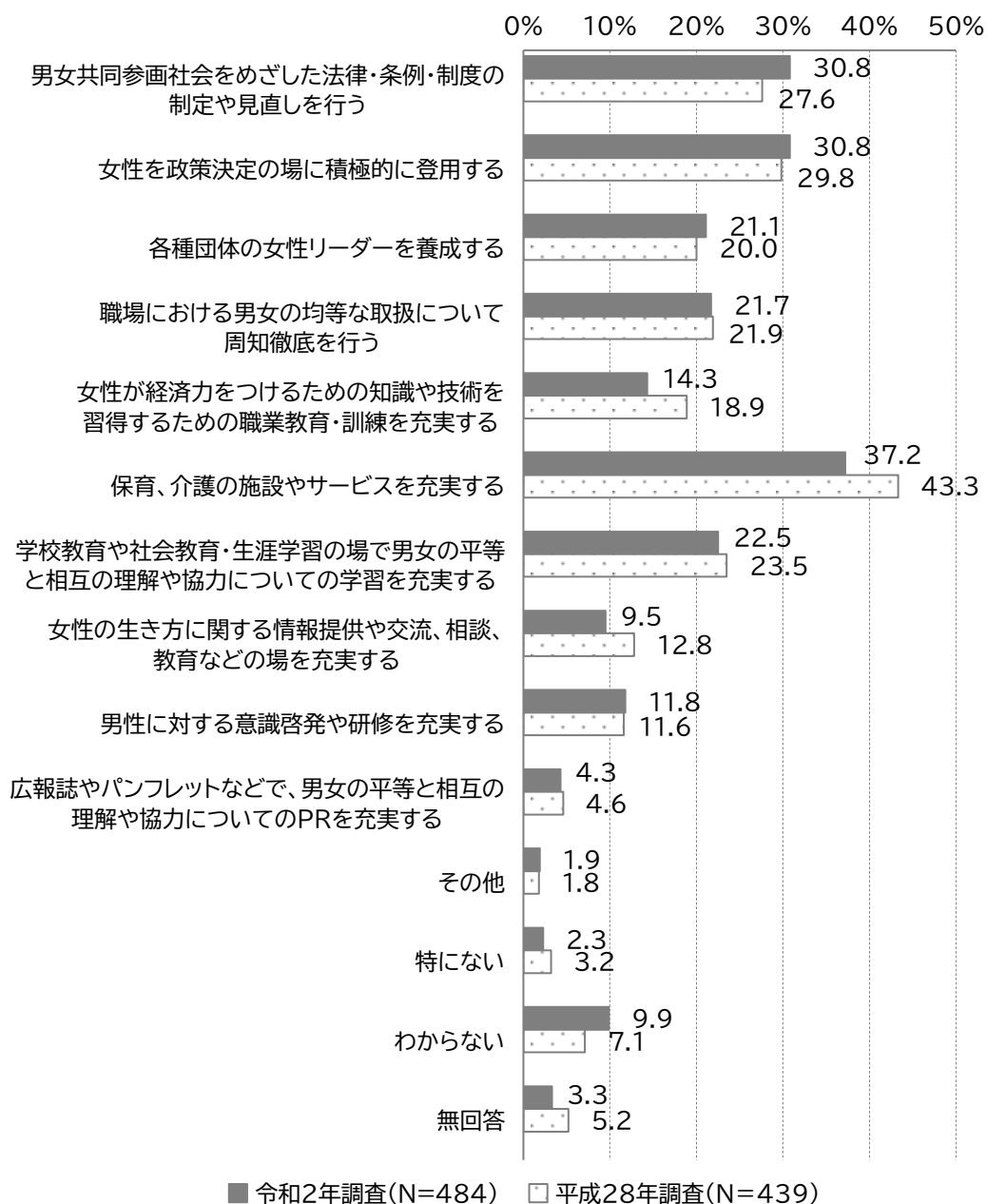
上位となっている項目は前回調査と同様であり、いずれの項目においても割合が増加している。



問38 男女共同参画社会を実現するために、今後、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(最大3つまで)

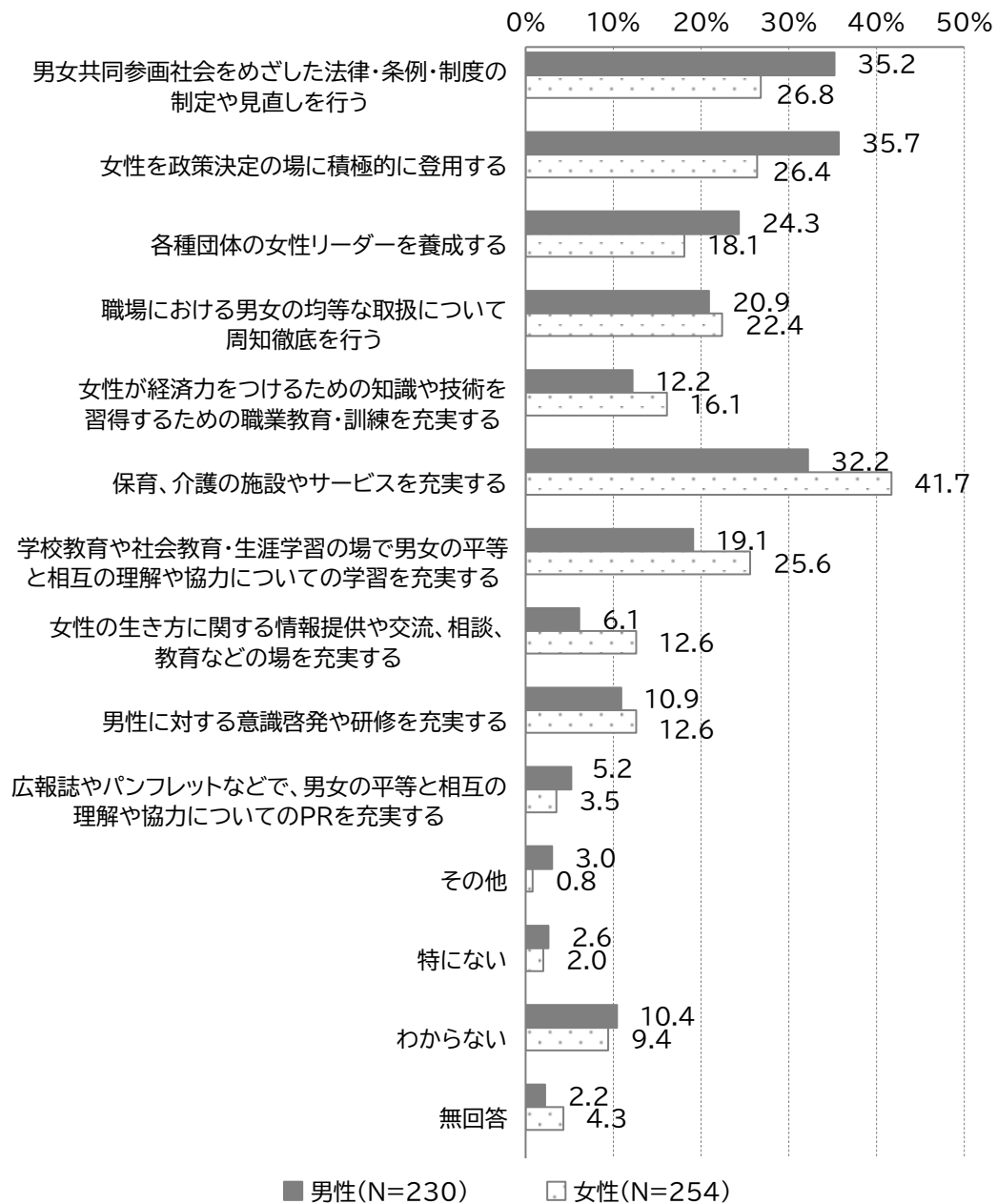
「保育、介護の施設やサービスを充実する」が37.2%と最も多く、次いで「男女共同参画社会を目指した法律・条例・制度の制定や見直しを行う」「女性を政策決定の場に積極的に登用する」が30.8%、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する」が22.5%となっている。

前回調査と比べると、「保育、介護の施設やサービスを充実する」については、6.1ポイント減少している。一方で、「男女共同参画社会を目指した法律・条例・制度の制定や見直しを行う」「女性を政策決定の場に積極的に登用する」については増加している。



【性別】

男性では「女性を政策決定の場に積極的に登用する」が35.7%、女性では「保育、介護の施設やサービスを充実する」が41.7%と最も多くなっている。それぞれの項目において、性別による差は9ポイント以上となっている。



13. 自由回答・その他の回答

【自由回答】

<男女共同参画に対する意識の変革や理解について：5件>

- 少しでも平等に近づけるのであれば、男女共に意識の持ちようを変えていく必要があるのではないかと思います。
- 権利があっても、実行するには周囲（職場、家族）の雰囲気や理解が重要であると感じています。

<高齢者・年長者における男女共同参画への理解：4件>

- 年長者が特に男女平等への意識が低い。
- 亀山市のような古い町では、まだまだ男性の比重が重く、男女平等と言うような事はむずかしいと思います。高齢者が多いこの町では、考え方が変わる時が来るのは、10年ぐらい先になれば、できるかも知れません。

<教育の充実：2件>

- 学校教育における男女共同参画の扱いはどうでしょうか？男女共同参画社会は目指すべきと思いますが、日本人的な考えからすると難しいと思う。
- 大学の理系学部を見ると、女性の割合が非常に低く、高校以前にキャリアイメージができていれば、こう言った道への選択肢も広がるのではないかと思います次第です。

<制度などの充実：2件>

- 個々の意識を変える事は言うほど簡単ではなく、時間がかかる為、まずは法律や制度から変える必要があると思う。

<災害時における男女共同参画の視点：1件>

- 災害が発生し避難所が開設されれば必ず男女共同参画での運用が必要です。男性重視の考え方では絶対に運用できません。女性特有の問題・育児・高齢者対策を含めて、運用の主体は女性と思われますので、役割分担を自前に訓練などを通じて経験しておく必要があります。

<意見や感想：31件>

- まだ昔の男は仕事、女性は家事という考えは残っているが、何十年かすれば徐々になくなっていくと思います。自分も家事育児には参加しているので、すぐに大きな変化を期待せず、少しずつ変えていくのが良いと思います。
- 社会が多様化し、考え方も様々で、何事も理想はあってもなかなか実現が難しいです。性別・障害に関係なく、お互いの特性を尊重し思いやる気持を持つ事が、いつの時代も人間の基本にあると良いのではないかと思います。

【その他の回答】

問3 あなたが現在生活しているご家庭の家族構成をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 4世代(5件)
- 母子家庭(5件)
- 夫婦とおば(1件)
- 兄、弟(1件)

問5 あなたの職業をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 農業(2件)
- 家事手伝い(2件)
- 会社役員(1件)
- 病気療養中(1件)
- 寺院住職(1件)
- 派遣作業員(1件)
- 看護師(1件)
- シルバー人材センター(1件)
- 個人事業主(1件)
- 施設管理人(1件)
- 年金生活(1件)

問6-2 問6で「1 同居している人がいる(配偶者・パートナー等と生活している)」と答え
た方にお聞きします。あなたの配偶者(パートナー)の職業は何ですか。あてはまるも
のに1つ○をつけてください。

- 寺院住職(2件)
- 看護師(2件)
- 配偶者はいない(2件)
- 会社役員
- 年金生活
- 建築関係
- 母親
- 農業

問10-2 なぜそう思いますか。同感する人、同感しない人それぞれ、あてはまるものすべてに○をつけてください。

【「1 同感する」「2 どちらかといえば同感する」と答えた方】

- 向き不向きがある。(1件)
- 現在がそうだから。(1件)

【「3 どちらかといえば同感しない」「4 同感しない」と答えた方】

- 主夫希望の為。(1件)
- 男が家庭でも良いと思う。(1件)
- 男も女も関係ないから。(1件)
- 協力し合うべき。(1件)
- 同じ人間だから。(1件)
- TPOによる。(1件)

問13-2 問13で「2 受診していない」と答えた方にお聞きします。なぜ、受診しなかったのですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

<定期的に医師に見てもらっている：9件>

- 月1回担当医に見てもらっている。
- 定期的に医者にかかっている。
- 病院で定期的に受診している、検査もしているため。

<その他：7件>

- 2年に1度受診。
- 健康の手引きを紛失。
- 日程が合わなかったから。

問14-2 問14で「1 はい」と答えた方にお聞きします。その方の世話は誰がしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(※介護を受ける人からみた続柄でお答えください。)

- 今年2月までは私がしていました。(1件)
- 8/6 現在入院中。(1件)
- 孫(1件)

問15-2 問15で「1 している」と答えた方にお聞きします。あなたが働いているのはどのような理由からですか。あてはまるものに○をつけてください。(最大2つまで)

- 費用の為。(2件)
- 夫と長い時間いるのが苦痛である為。(1件)
- 子育ても終わり、家庭に居る必要も無いと思うから。(1件)
- 健康の為。(1件)
- 配偶者の補助。(1件)
- 家にいるだけなのは時間がもったいない気がするから。(1件)
- 労働時間が少ないために働ける(1件)

問15-4 問15-3で「2 女性の方が優遇されている」「3 男性の方が優遇されている」と答えた方にお聞きします。あなたが働いているところで、男女が平等だと思わないのはどのようなことですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

<仕事面：5件>

- 男の仕事がづらい。
- 同じ仕事をしてない。汗だくな仕事は男性。
- 男性の視点から見ると、責任の大きさ、女性には優しく接する等の不平等さを感じます。
但し、昇進、賃金面では女性是不利に思えます。
- 女性だからと、やらない・やらせない仕事(きたない仕事・体力がいるもの)があるため。
- 仕事相手や他職種から男性の方が頼りにされている様に感じる。

<風習や考え方：2件>

- お寺の世界が男性社会。(昔からのしきたりによるところが大きい。)
- 社長の意義。

問15-5 問15で「2 していない」と答えた方にお聞きします。今後適当な仕事があれば働きたいですか。働きたい仕事の形を、あてはまるものに1つ○をつけてください。

<年齢に関して：3件>

- この年では働く所がない。
- 年齢的に無理と思う。

<体力に関して：2件>

- 年令的に自分の健康を維持するだけで精一杯。
- 退職後、屋敷と畑の管理だけで体力がない。

<その他：4件>

- 今まで働いて来てやめて親の介護をしたのでもう辛いです。
- 報償を伴わないボランティア活動。

問１６ 女性が職業をもつことについてあなたはどのように思いますか。あてはまるものに１つ○をつけてください。

<個人の考え方次第、個人の自由：１９件>

- どうすればよいか人それぞれ一概には言えない。
- 性別によらず、人それぞれだと思う。
- 個人の考え方による。
- 人それぞれの価値観と環境があり、決めつけるものではない。

<その他：５件>

- 家庭の状況による。（２件）
- 一般論としては何も思うことはない。本人の希望が通らないのであれば問題と思う。
- 現状、女性も働かざるを得ないと思う。
- 子育てでやめる。その後は自由。

問１８ 女性が働き続けていくうえで、大きな障がいになっているのは何だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。（最大３つまで）

<制度やシステム：６件>

- 日本の社会が働きやすいようなシステムになっていない。
- ケースバイケースに対応するのが制度として限界があること。
- 保育園が土・日・祝休みなこと（自分の休みと合わないこと）。

<意識の低さ：２件>

- 一部の女性はまだ意識が低い。
- 制度に対する管理者の意識の低さ。

<その他：４件>

- 分りません。（２件）
- 嫌がらせを受ける。
- 家の事情によると思う。

問２１ あなた自身やあなたの周囲で、職場におけるマタニティ・ハラスメントを経験した人はいいますか。それは、どのようなマタニティ・ハラスメントでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 対象者なし。（３件）
- 経験した人がいない。（３件）
- 嫌みや悪口などを言われた。（２件）
- 現在の状況は解らない。（１件）
- その他（１件）

問22 あなた自身やあなたの周囲で、職場におけるパタニティ・ハラスメントを経験した人はいですか。それは、どのようなパタニティ・ハラスメントでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 対象者なし。(3件)
- 嫌みや悪口などを言われた。(2件)
- 経験した人がいない。(2件)
- 仕事の変更。(1件)
- 時代が違いすぎてパタニティにふれていない。(1件)

問24 どのようにすれば、自分が希望する時間の取り方ができると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

<各自の意識や能力：4件>

- 希望ばかりではなく、各自のグレードアップ。
- 自分の能力が上がれば。

<給与の増加：3件>

- 残業が減り休暇が増え給与が増えれば。

<現状で問題はない：3件>

- 自分の時間を取れている。

<制度に関すること：2件>

- 制度の確立と国のバックアップ。
- テレワーク勤務をしたら。

<その他：5件>

- 残業すれば勤勉という風習が良くない。
- 嫌がらせがなければ。
- 今はあてはまる物がない。

問25 長時間労働が顕著であったり、休みが取りにくかったりといった実情がありますが、これらの原因は何にあると思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<人員不足：4件>

- 労働者不足。
- 正規職員数が適切でない(少なすぎる)こと。

<制度等に関すること：3件>

- 法、制度上の罰則が弱い。
- 日本的働き方。
- 政治

<その他：6件>

- 会議が長い。
- いくらでも休みが取れる。
- パワハラ。上司の無茶な命令。労働者を駒としか思わない。

問27-2 問27「1 ある」と答えた方にお聞きます。その暴力はどのようなものでしたか。これまでの状況に関して①～③のそれぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。また、現在の状況に関しても同様に、あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 物を壊す。壁など。(1件)
- 髪引っ張る。(1件)

問27-4 問27-3で「1 相談した」と答えた方にお聞きます。どのような所および人に相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 警察勤務の知人。(1件)

問27-5 問27-3で「2 相談しなかった」と答えた方にお聞きます。どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 別件で裁判中に話したが流された。(1件)
- 相手の心も考えて冷静に自分自身になる。(1件)

問28 配偶者やパートナーから暴力を受けたときに相談できる機関や関係者などの窓口のなかで、そのような相談ができることを知っていたものについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 特に知らなかった。(1件)
- 会社の顧問弁護士。(1件)
- お店のトイレ等で見たことがあります、こういった団体だったか覚えていません。(1件)

問29 あなたは、配偶者（パートナー）や恋人等からの暴力（DVおよびデートDV）を見聞きした経験はありますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 聞いたことがある。（2件）
- 分りません。（1件）
- 仕事上で。（1件）

問30 あなたは、DVおよびデートDVを受けている人を発見したとき、通報しますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

<状況によって判断する：4件>

- 状況による。
- 被害者の気持ちによる。
- けんかをしていたら通報する。

<相手との関係を考慮した上で判断する：3件>

- 知り合いが受けていたら通報する。
- 友人・知人・隣人ならする。
- その人との関係による。

<その他：4件>

- 相談員に連絡を入れる。
- 本人と話し合った上で通報する。
- 通報したいと思うが、実際にできるか不安。また報復されたら怖い。

問31 最近5年間程度のうちで、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 5年以上前となった。（1件）

問31-2 問31で「1 セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」と答えた方にお聞きます。あなたは、セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 上司に相談した。（1件）
- バカバカしいので無視した（1件）。

問32 近年において、性犯罪や売買春（いわゆる「援助交際」を含む）、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント等についての関心が高まっていますが、このようなことをなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。（最大3つまで）

<教育に関すること：4件>

- 幼少期より適切な性教育を行っていく。自己肯定感を高める育児、教育を行っていく。
- 多様化している現在だが、学校に道德の時間がなくなったのは非常に残念！賛否はともかくアナログの人間としては道德の時間の復活を願う。
- 成長の過程応じた自分自身や他の人を大切にする教育を専門家に道德として受ける。特に小学校・中学校の時代に受ける。特に戦中の同年代の体験や、写真は心に響くと思います。
- 学習を継続できる仕組み作り。

<相談窓口や環境に関すること：3件>

- セクハラに対して職場での発生が多数を占めると思われるため、企業は相談窓口の設置を義務付ける。
- 職場の場合、声を上げやすい環境作りに取り組む。

<法律や制度に関すること：2件>

- DVは人間の性格による部分が大きいと思うので、指導で無くなる事はないと思う。法での厳罰化、相談のしやすさが重要だと思う。
- 売買春や痴漢冤罪（故意的なでっち上げ）については未成年だとしても女性側についても厳しく罰してほしい。

<その他：3件>

- どうあがいても不可能だと思う。
- 職場内セクハラの明確な基準（これはダメ、これはOKなど）。人によって基準が違うのはむずかしい。
- 性犯罪者の治療。

問33-2 問33で「1 参加している」と答えた方にお聞きます。あなたが参加している社会活動はどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。【その他】

- 消防団(3件)
- 町内行事(1件)
- 市のボランティア活動。(1件)
- 組合(1件)
- グランドゴルフ(1件)
- 訪問演奏(1件)

- 地域、町づくり(1件)
- スポーツ少年団(1件)

問33-3 問33で「1 参加している」と答えた方にお聞きます。あなたはどのように社会活動に参画していますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 必要に応じて参加している。(2件)
- 駅舎利用メンバー(1件)

問33-4 問33で「2 参加していない」と答えた方にお聞きます。社会活動に参加していない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

<体力や年齢に関して：10件>

- 高齢者になったから腰痛の持病がある。活発に動けない。
- 自身が病気である。
- 自分自身の体力に自信がない。
- 年寄だから。

<必要性がない：8件>

- 今の生活で必要がない。
- 特に今は世代交代しておらず、参加の必要性を感じていない。

<時間の余裕がない：6件>

- 学校の勉強があって時間がない。
- 自分の事でせいいっぱい。
- 自分の時間が無くなるから。

<家族など別の人による参加：6件>

- 配偶者が参加している。
- すべて主人をたよっている。
- 子供が参加している。

<情報や参加の機会がない：3件>

- 町内会や自治会についての案内等がなく、活動しているのかそもそも定かではないため参加しようがない。
- 直近に活動の話を聞かない。

<その他：4件>

- 亀山に移住して1年程度でよく知らない。(2件)
- なるべく自由が良い。

問34 亀山市の全247自治会の中で、女性の自治会長の割合は5%未満と低いのが現状ですが、あなたは自治会や地域団体など、地域社会において女性が活躍していくために必要なことは何だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

<女性の登用に関して：6件>

- 活躍したい女性を認めて優先させる事。
- まずは女性を副会長にする。
- 会長を出来る能力があるかないか。
- 女性の人生の中での社会的な経験の乏しさ。
- 亀山市は男社会そのもの。

<世代における意識の違い：4件>

- 高齢者の男女における人権意識改革。
- 地域社会での女性の活躍は難しいと思う。地域では、まだまだ高齢者が主となっていて女性の活躍を認めていない。
- 男女の問題でなく、もともとの地元の方が自治会にかかわると思うので、長男（男系）が後を継ぐという考え方の多い亀山市では、仕方がないというか、地域性であり性別の問題ではない。

<その他：8件>

- 活躍の意味がよくわからない。
- 特に男女にこだわる必要はないと思う。
- 男性が行っているのを、わざわざやる必要がない、いやなものを。
- 個人的にはあまり参加したくない！参加したい人がすれば良いと思う！
- 男でもやりたくない人は多い。

問35 政治や行政における、政策の企画や方針決定の過程への女性の参画は、徐々に改善はされているものの、依然として少ないのが現状です。あなたは、このような女性の参画が少ない状況は何が原因だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。（最大3つまで）

- 女性任用の枠が少ない。男性/女性の組織（人員）を平等に決める。（2件）
- 制度などの問題があるため。（2件）
- 積極的な参画がを望まない人もいる。（2件）
- 男性が育休を取る事等について、キャリアのハンデ（出世など）となる風潮が強い。（1件）
- 興味がもてる内容のものが少ない。（1件）
- 仕事、家事、育児でそんなヒマない。（1件）
- 数値目標ありきの取り組みで中身がないから。（企業に丸投げ。）（1件）
- その他（1件）

問37 災害時の避難所運営における男女共同参画についてお聞きします。あなたは、自然災害が起きたとき、避難所にはどのようなことが必要だと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

<子どもを考慮したこと：3件>

- 女性並びに子ども専用のスペース。
- 小さい子どもと親が過ごせる部屋を作ってほしい。
- 子どもが遊べるスペース。

<設備に関すること：3件>

- ひと家族ごとの更衣室やシャワールーム。
- 男性専用の授乳室。女性専用と同じ男性専用の設備。

<感染症の対策：2件>

- コロナ対策等衛生面。

<その他：5件>

- 緊急時は最低限で良い。
- 情報伝達

問38 男女共同参画社会を実現するために、今後、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(最大3つまで)

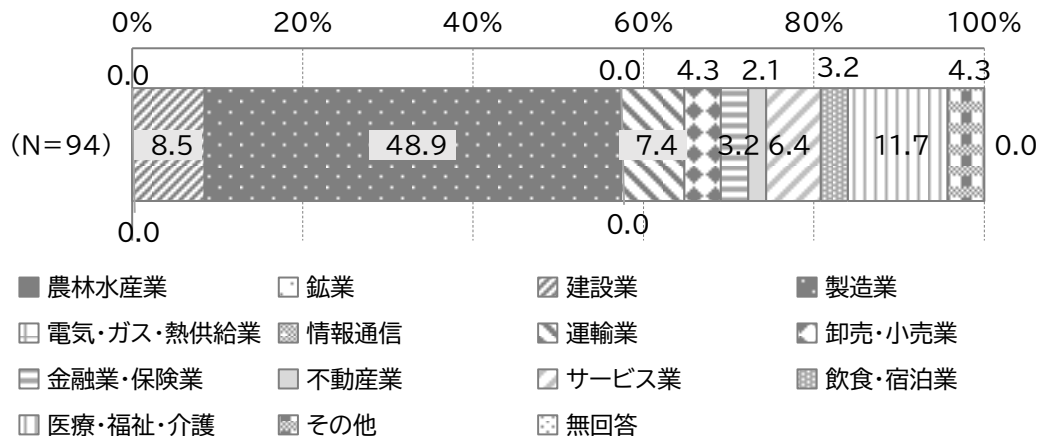
- なんでも男女平等。女性優先、男性優先などをやめる。(2件)
- 男性/女性ではなく、1人の人間として考える事。(1件)
- 女性が働き、男が専業主夫になれば出来ると思う。(1件)
- 職場では男女平等はかなり広がりをみせている。地域では高齢者が存在する限り難しい。力を入れていくというより世代交代を待つのが一番だと思う。(1件)
- 男女共同参画社会とは何かがよくわからない。何を実現しようとしているのか。(1件)
- 日本的な働き方を直す。(1件)
- 若い女性がリーダーになる。若い人の方が発言できる。横にながされない。(1件)

第3章 企業アンケート調査結果

1. 事業者の概要・状況について

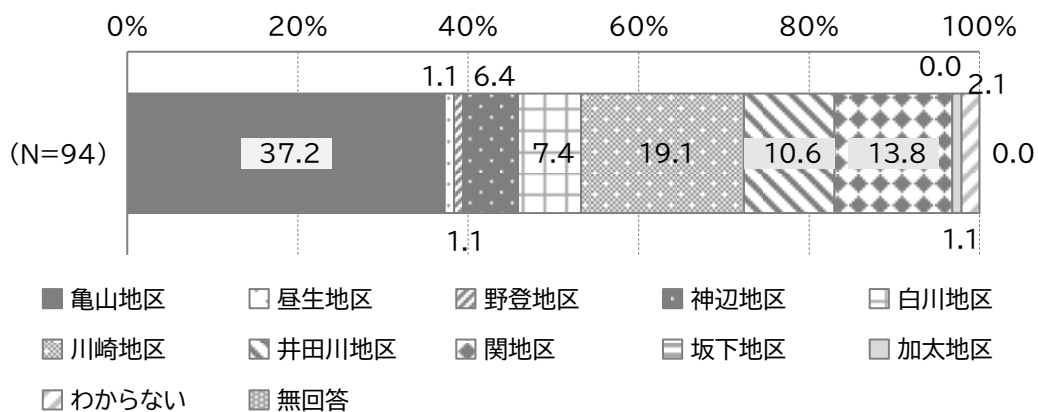
問1 貴事業所の主たる業種を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「製造業」が48.9%と最も多く、次いで「医療・福祉・介護」が11.7%、「建設業」が8.5%となっている。



問2 貴事業所が、亀山市内で立地している地域を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

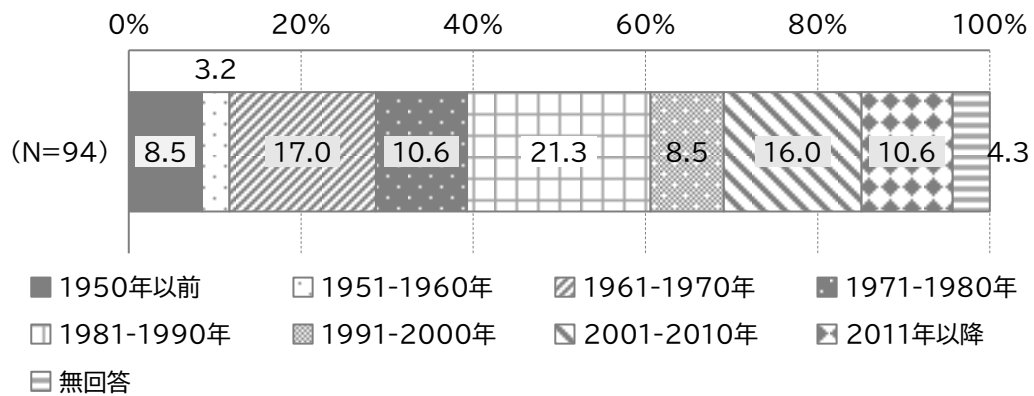
「亀山地区」が37.2%と最も多く、次いで「川崎地区」が19.1%、「関地区」が13.8%となっている。



問3 貴事業所が亀山市で事業活動を開始した時期を教えてください。年月の数字を記入してください。

【年】

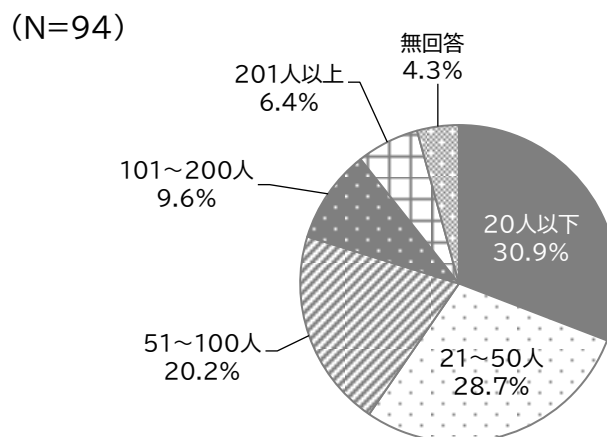
「1981-1990年」が21.3%と最も多く、次いで「1961-1970年」が17.0%、「2001-2010年」が16.0%となっている。



問4 貴事業所における雇用形態別及び性別ごとの総従業員数を教えてください。下表に数を記入してください。

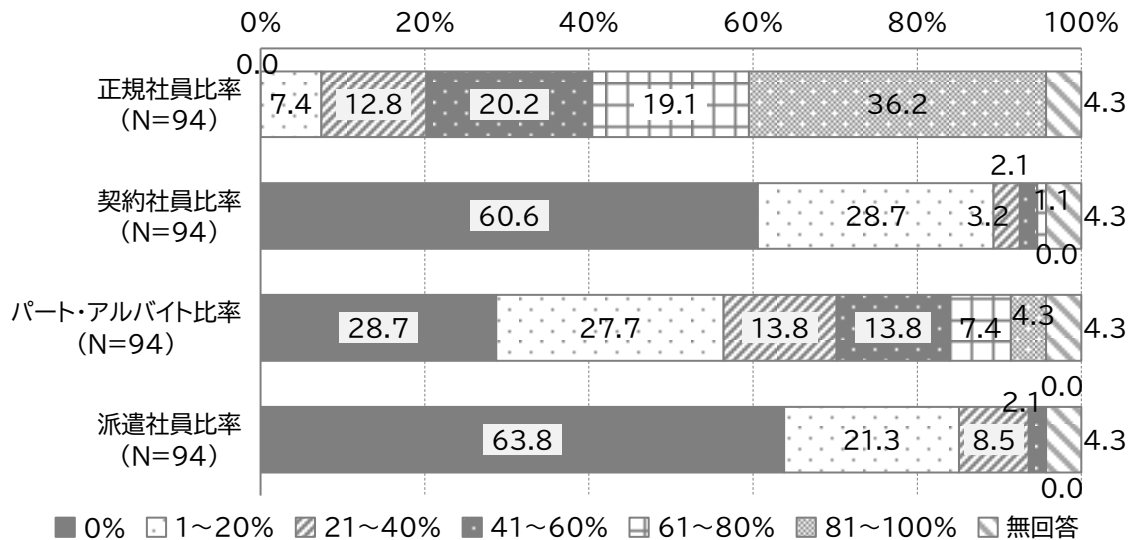
【総従業員数】

「20人以下」が30.9%と最も多く、次いで「21～50人」が28.7%、「51～100人」が20.2%となっている。



【雇用形態別】

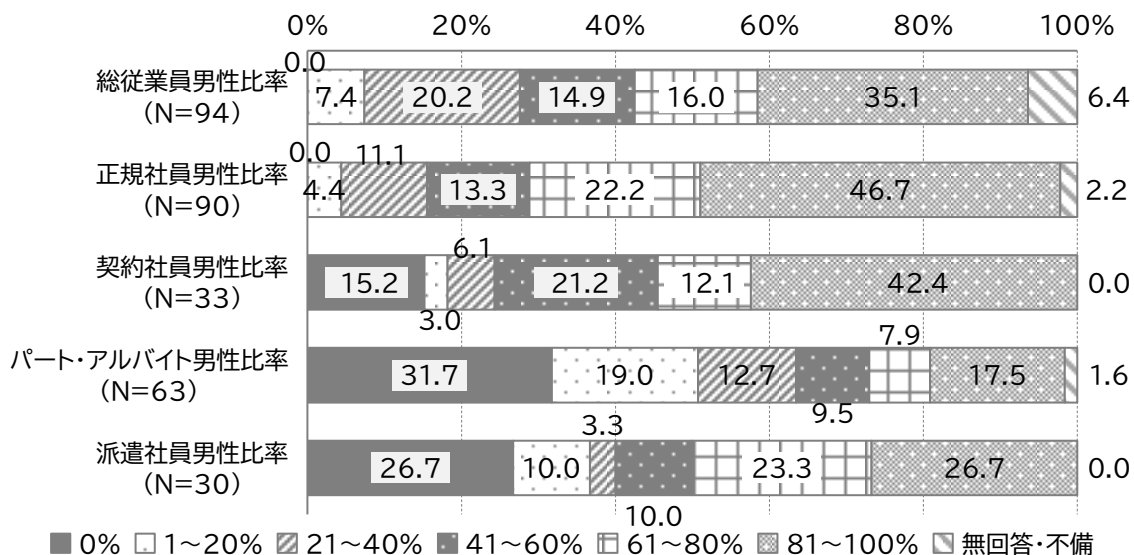
「正規社員比率」では「81～100%」が36.2%を占め、最も多くなっている。「契約社員比率」、「パート・アルバイト比率」、「派遣社員比率」では「0%」が最も多くなっている。「契約社員比率」、「派遣社員比率」については、それぞれ60%を超えており、「パート・アルバイト比率」については、28.7%となっている。



【雇用形態別にみた男性比率】

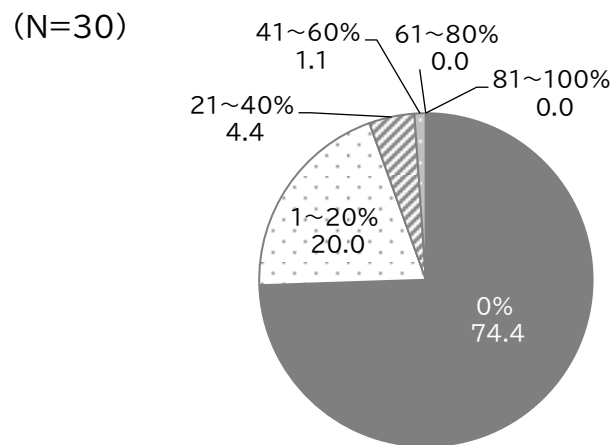
「総従業員男性比率」では、「81～100%」が35.1%と最も多くなっている。

雇用形態別に男性の比率をみると、「正規社員男性比率」「契約社員男性比率」では、「81～100%」が最も多くなっており、それぞれ40%を超えている。「パート・アルバイト男性比率」では、「0%」が31.7%と最も多くなっている。「派遣社員男性比率」では、「0%」と「81～100%」が26.7%と最も多くなっている



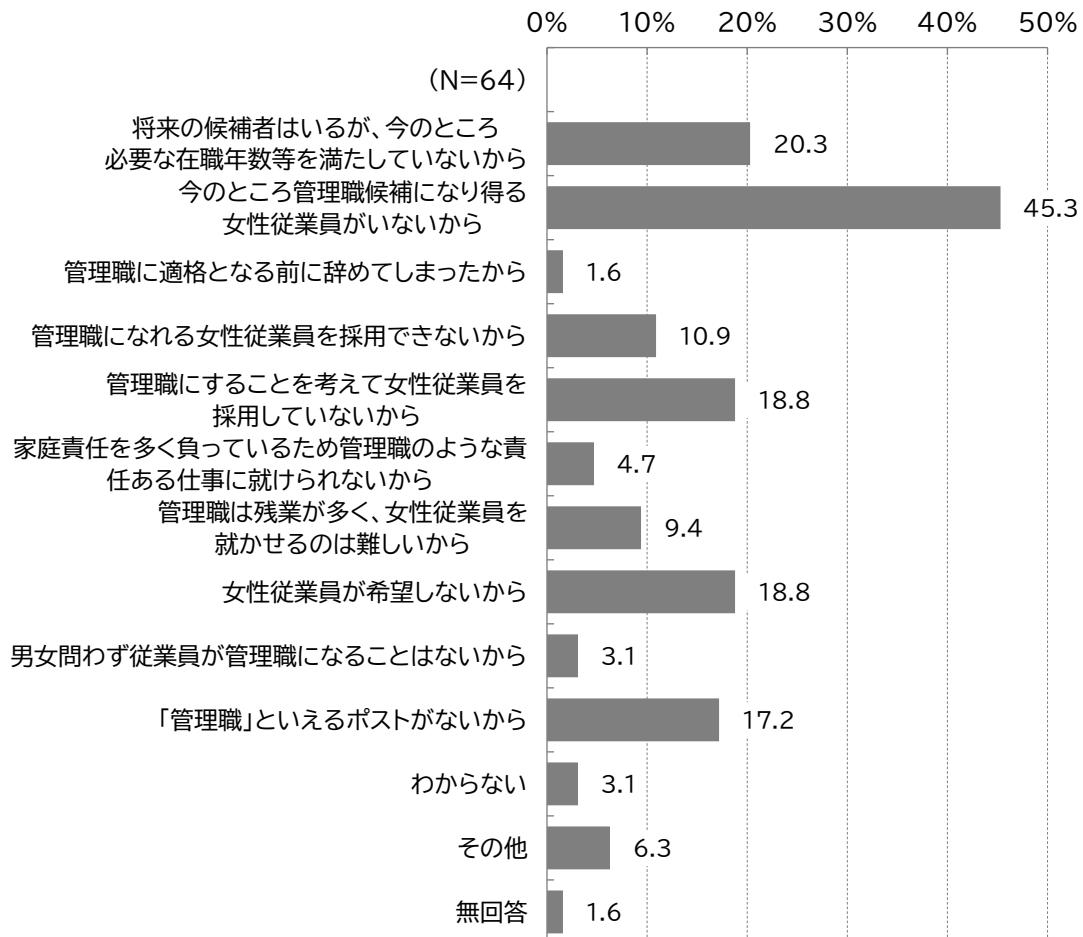
【正規社員のうち管理職に女性がいる比率】

「0%」が74.4%と最も多く、次いで「1～20%」が20.0%、「21～40%」が4.4%となっている。



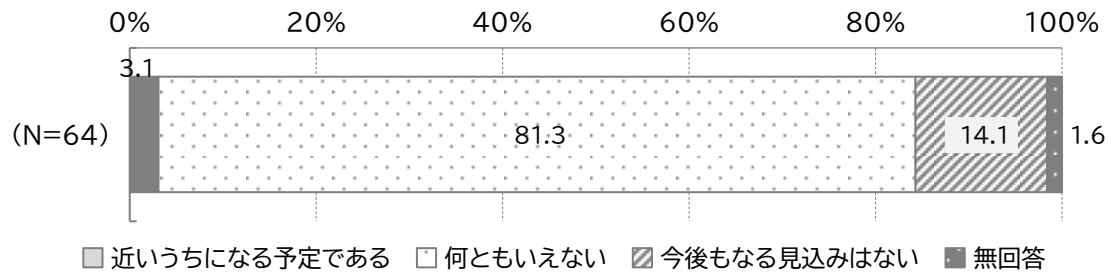
問4－2 女性管理職がない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「今のところ管理職候補になり得る女性従業員がいないから」が45.3%と最も多く、次いで「将来の候補者はいるが、今のところ必要な在職年数等を満たしていないから」が20.3%、「管理職にすることを考えて女性従業員を採用していないから」「女性従業員が希望しないから」が18.8%となっている。



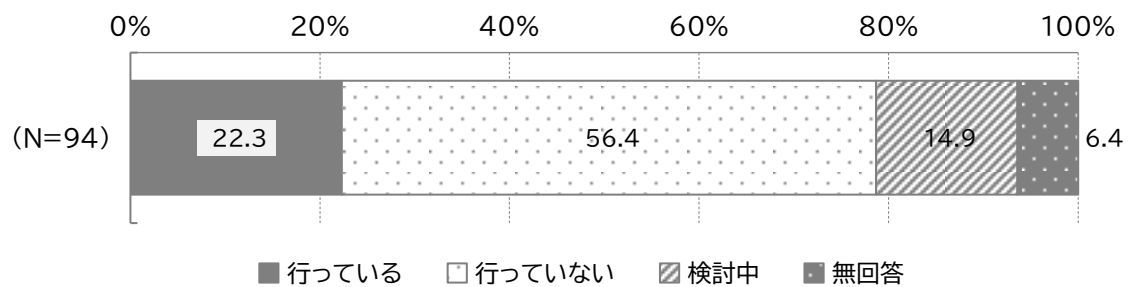
問4-3 今後女性が管理職になることがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「何ともいえない」が81.3%と最も多く、次いで「今後もある見込みはない」が14.1%、「近いうちになる予定である」が3.1%となっている。



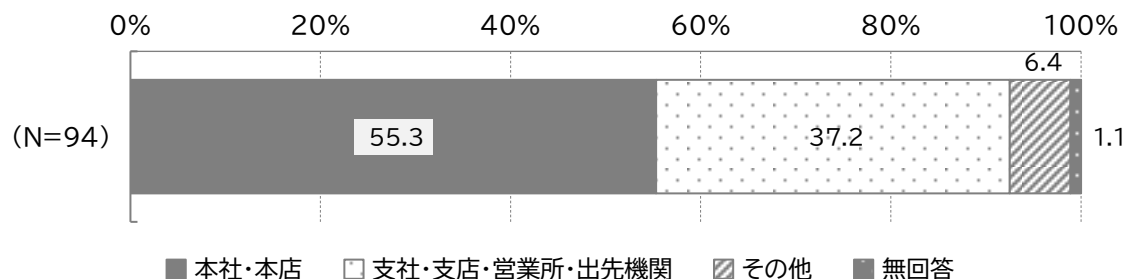
問5 女性が管理職になるための教育が行われていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「行っていない」が56.4%と最も多く、次いで「行っている」が22.3%、「検討中」が14.9%となっている。



問6 貴事業所の形態を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

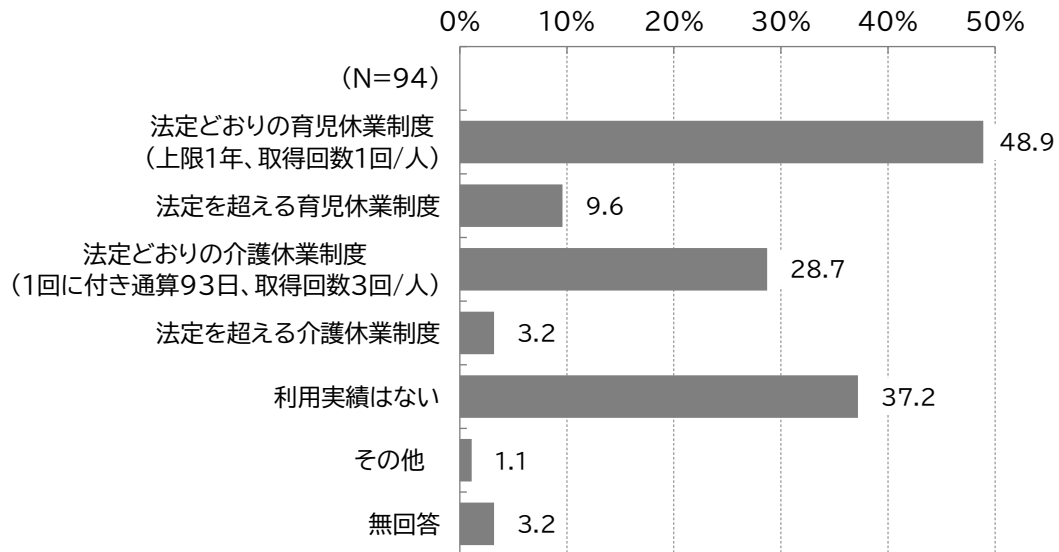
「本社・本店」が55.3%、「支社・支店・営業所・出先機関」が37.2%となっている。



2. 事業所における育児・介護に関する取り組み等の状況について

問7 貴事業所における、正規社員の育児・介護休業制度の利用実績がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「法定どおりの育児休業制度（上限1年、取得回数1回/人）」が48.9%と最も多く、次いで「利用実績はない」が37.2%、「法定どおりの介護休業制度（1回につき通算93日、取得回数3回/人）」が28.7%となっている。



問8 問7で5以外に○を付けた方にお聞きします。過去3年間の正規社員の育児・介護休業制度の利用対象者数及び実績を教えてください。下表に数字を記入してください。実績のなかった欄は「0人」を記入してください。

【育児休業制度】

利用対象者(太枠実線)のうち利用しなかった(太枠点線)という割合は、いずれの年度においても女性より男性で割合が多くなっている。

育児休業制度 平成29年度	利用対象者				利用実績			
	男性		女性		男性		女性	
	%	件	%	件	%	件	%	件
0人	49.2	29	35.6	21	60.0	6	10.5	2
1～5人	16.9	10	30.5	18	30.0	3	78.9	15
6～10人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	10.5	2
11～15人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
16～20人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
21人以上	0.0	0	1.7	1	0.0	0	0.0	0
無回答	33.9	20	32.2	19	10.0	1	0.0	0

育児休業制度 平成30年度	利用対象者				利用実績			
	男性		女性		男性		女性	
	%	件	%	件	%	件	%	件
0人	52.5	31	40.7	24	95.0	38	11.1	2
1～5人	13.6	8	27.1	16	0.0	0	77.8	14
6～10人	1.7	1	1.7	1	0.0	0	0.0	0
11～15人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
16～20人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
21人以上	0.0	0	1.7	1	0.0	0	0.0	0
無回答	32.2	19	28.8	17	5.0	2	11.1	2

育児休業制度 令和元年度	利用対象者				利用実績			
	男性		女性		男性		女性	
	%	件	%	件	%	件	%	件
0人	55.9	33	40.7	24	54.5	6	8.7	2
1～5人	16.9	10	32.2	19	36.4	4	78.3	18
6～10人	0.0	0	3.4	2	0.0	0	4.3	1
11～15人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
16～20人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
21人以上	1.7	1	3.4	2	9.1	1	4.3	1
無回答	25.4	15	20.3	12	0.0	0	4.3	1

【介護休業制度】

育児休業制度に比べて、利用対象者は少ない状況となっている。利用対象者(太枠実線)のうち利用しなかった(太枠点線)という割合は、いずれの年度においても女性より男性で割合が多くなっている。

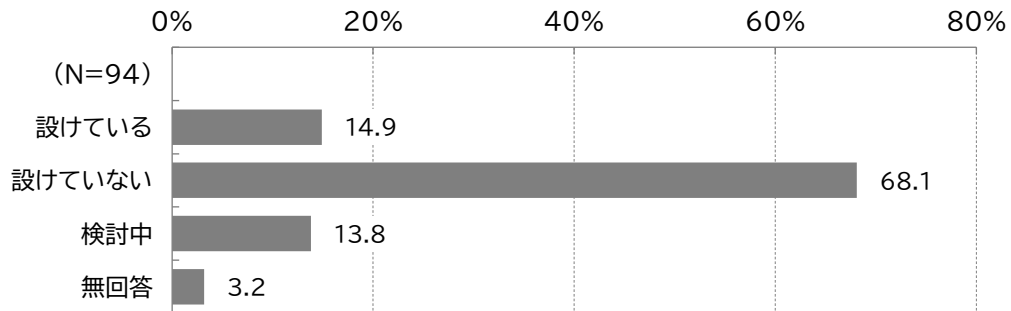
介護休業制度 平成 29 年度	利用対象者				利用実績			
	男性		女性		男性		女性	
	%	件	%	件	%	件	%	件
0人	59.3	35	57.6	34	100.0	1	50.0	1
1～5人	1.7	1	1.7	1	0.0	0	50.0	1
6～10人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
11～15人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
16～20人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
21人以上	0.0	0	1.7	1	0.0	0	0.0	0
無回答	39.0	23	39.0	23	0.0	0	0.0	0

介護休業制度 平成 30 年度	利用対象者				利用実績			
	男性		女性		男性		女性	
	%	件	%	件	%	件	%	件
0人	57.6	34	57.6	34	100.0	2	50.0	1
1～5人	3.4	2	1.7	1	0.0	0	50.0	1
6～10人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
11～15人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
16～20人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
21人以上	0.0	0	1.7	1	0.0	0	0.0	0
無回答	39.0	23	39.0	23	0.0	0	0.0	0

介護休業制度 令和元年度	利用対象者				利用実績			
	男性		女性		男性		女性	
	%	件	%	件	%	件	%	件
0人	66.1	39	59.3	35	100.0	1	60.0	3
1～5人	1.7	1	6.8	4	0.0	0	40.0	2
6～10人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
11～15人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
16～20人	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
21人以上	0.0	0	1.7	1	0.0	0	0.0	0
無回答	32.2	19	32.2	19	0.0	0	0.0	0

問9 育児休業、介護休業による長期休暇後職場復帰した時に、早期現役復帰のための訓練制度や対策案を設けていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

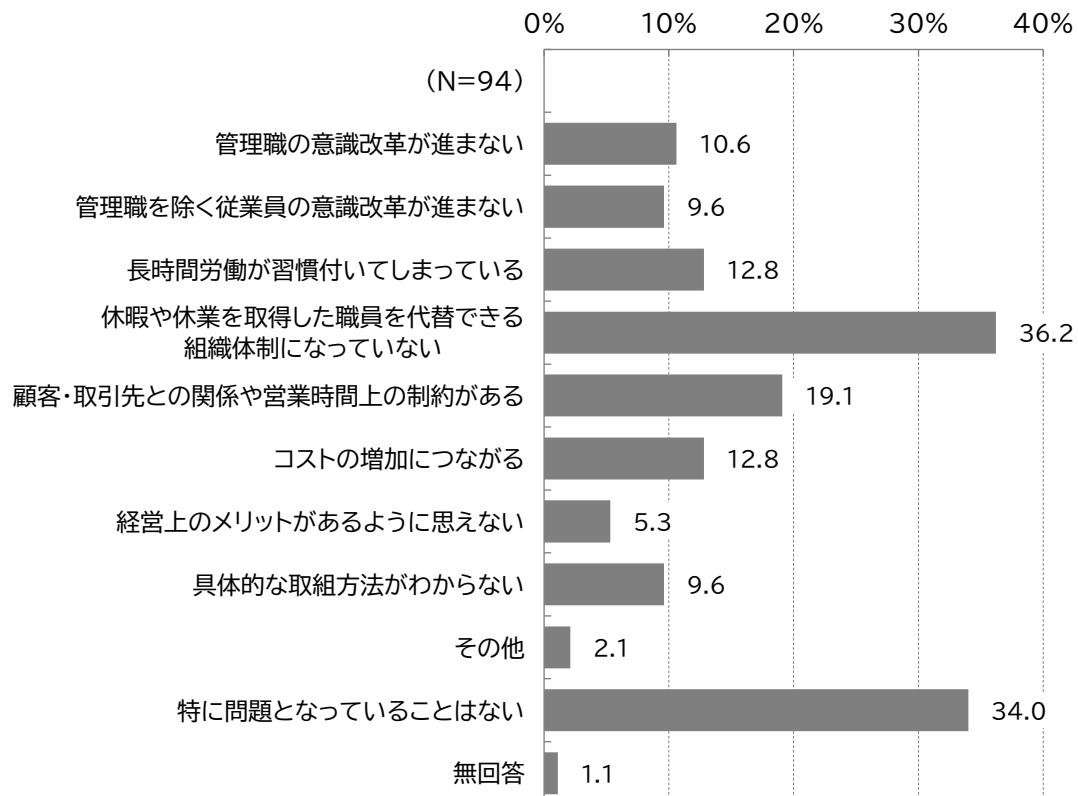
「設けていない」が68.1%と最も多く、次いで「設けている」が14.9%、「検討中」が13.8%となっている。



3. ワーク・ライフ・バランスの推進などについて

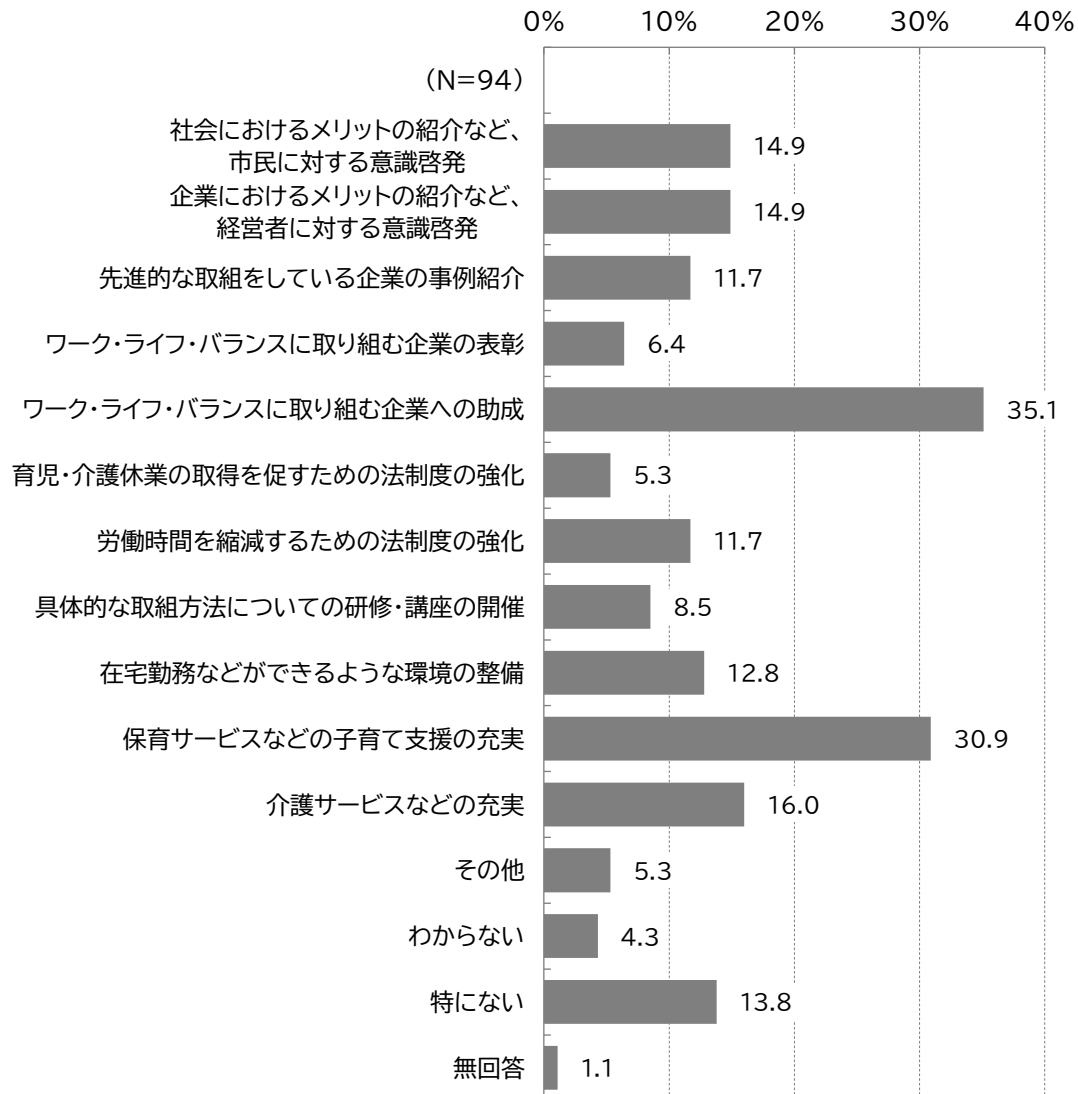
問10 貴事業所において、ワーク・ライフ・バランスを促進する上で、問題となっていることはどんなことですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「休暇や休業を取得した職員を代替できる組織体制になっていない」が36.2%と最も多く、次いで「特に問題となっていることはない」が34.0%、「顧客・取引先との関係や営業時間上の制約がある」が19.1%となっている。



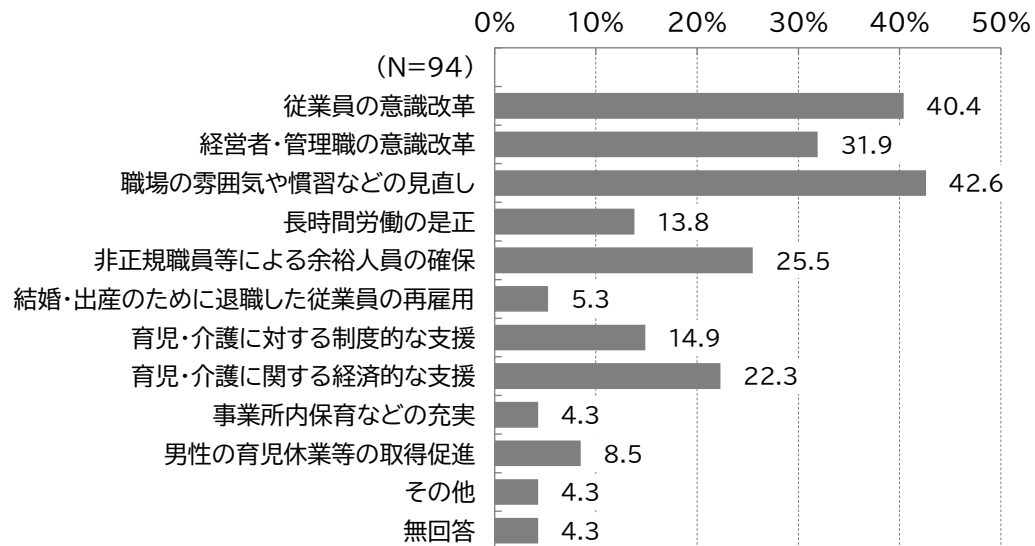
問11 ワーク・ライフ・バランスを実現するため、市、県、国などに期待することは何ですか。
あてはまるものに○をつけてください。(最大3つ)

「ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成」が35.1%と最も多く、次いで「保育サービスなどの子育て支援の充実」が30.9%、「介護サービスなどの充実」が16.0%となっている。



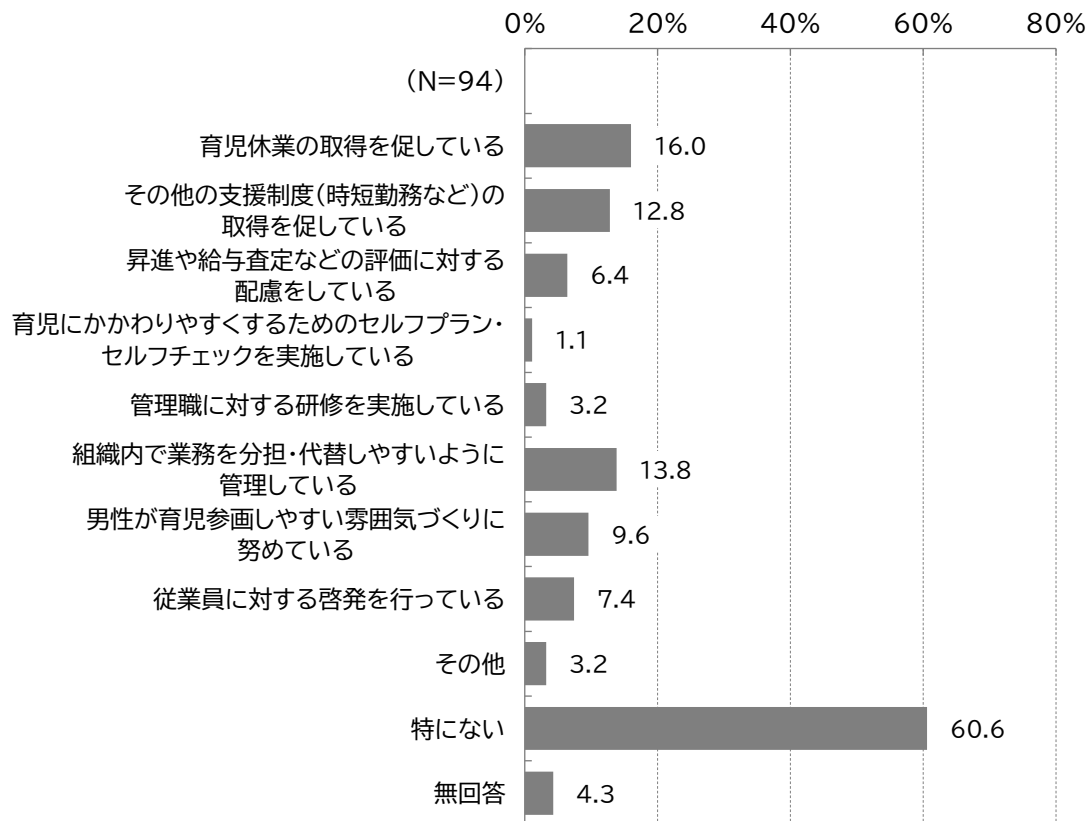
問12 貴事業所において、従業員のワーク・ライフ・バランスを推進するために、今後どのようなことが重要だとお考えになりますか。主にあてはまるものに○をつけてください。(最大3つ)

「職場の雰囲気や慣習などの見直し」が42.6%と最も多く、次いで「従業員の意識改革」が40.4%、「経営者・管理職の意識改革」が31.9%となっている。



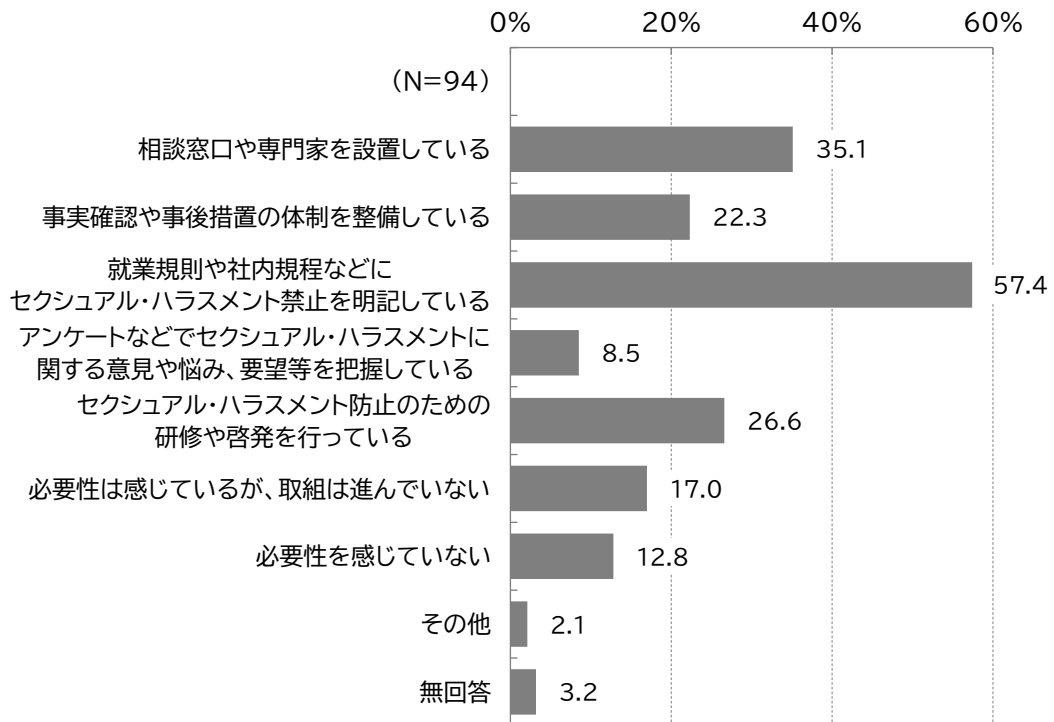
問 1 3 貴事業所において、男性の育児参画を促進するために実施していることはありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

「特にない」が60.6%と最も多く、次いで「育児休業の取得を促している」が16.0%、「組織内で業務を分担・代替しやすいように管理している」が13.8%となっている。



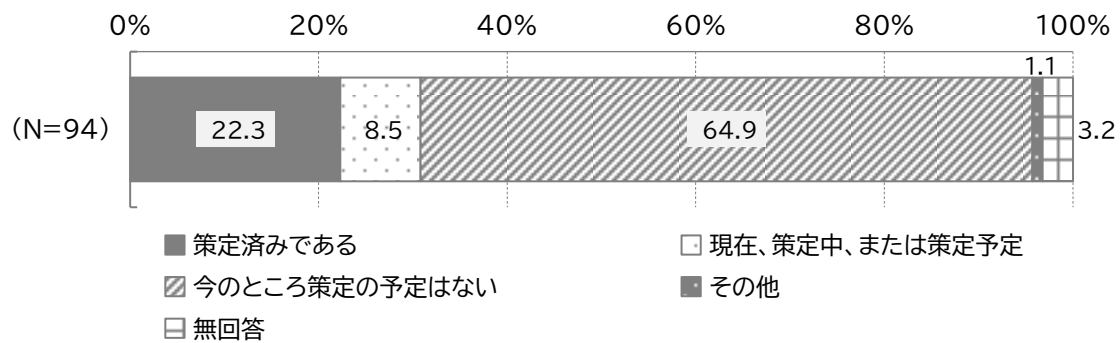
問14 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントについて、どのような対策を実施していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「就業規則や社内規程などにセクシュアル・ハラスメント禁止を明記している」が57.4%と最も多く、次いで「相談窓口や専門家を設置している」が35.1%、「セクシュアル・ハラスメント防止のための研修や啓発を行っている」が26.6%となっている。



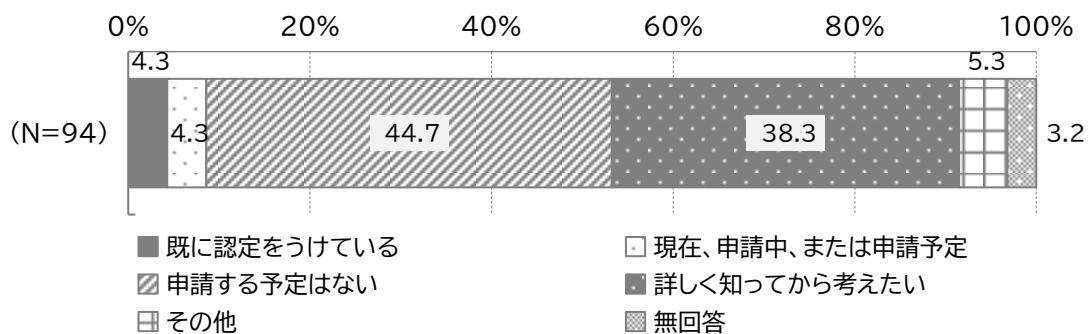
問15 「次世代育成支援対策推進法」に基づき、国や自治体のほか企業等は従業員の子育てを支援するための「一般事業主行動計画」を策定することが義務づけられています（従業員101人以上の事業所は策定義務、100人以下の事業所は努力義務）。貴事業所での策定状況について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

「今のところ策定の予定はない」が64.9%と最も多く、次いで「策定済みである」が22.3%、「現在、策定中、または策定予定」が8.5%となっている。



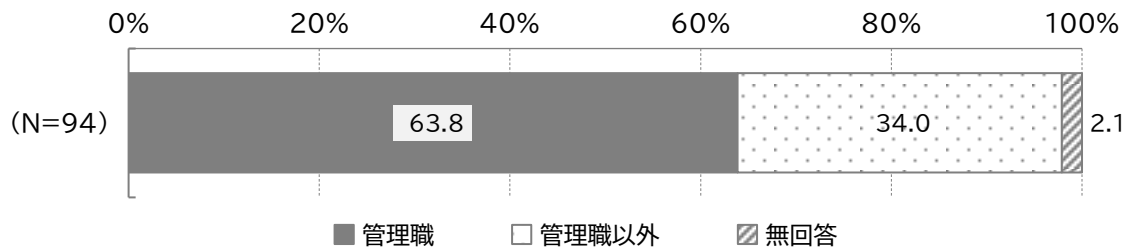
問16 貴事業所はこの「くるみん認定」「プラチナくるみん認定」についてどのようにお考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「申請する予定はない」が44.7%と最も多く、次いで「詳しく知ってから考えたい」が38.3%、「既に認定を受けている」「現在、申請中、または申請予定」が4.3%となっている。



問 17 貴事業所における貴方様の職位を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。また、「1 管理職」と答えた方は（ ）に役職をお書きください。

「管理職」が63.8%と、「管理職以外」が34.0%となっている。



4. その他の回答

問1 貴事業所の主たる業種を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 派遣(1件)
- 設備エンジニアリング(1件)

問6 貴事業所の形態を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 工場(1件)
- 事業部(1件)

問7 貴事業所における、正規社員の育児・介護休業制度の利用実績がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

【法定を超える育児休業制度の具体的な内容】

- 1年6カ月(2件)
- 子供が2歳になるまで。(3件)
- 最長3年の育児休業取得。(1件)
- 育児休業の延長。(1件)
- 組合員の請求する期間(1件)

【法定を超える介護休業制度の具体的な内容】

- 期間：通算1年(2件)
- 正社員は通算2年(分割取得可)、各種休暇制度。(1年)

問10 貴事業所において、ワーク・ライフ・バランスを促進する上で、問題となっていることはどんなことですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 小規模企業において、人材・経営資金等全ての面で余裕が無い。(1年)
- 収入減になる為率先して残業、居残りが発生する風土。(1年)

問11 ワーク・ライフ・バランスを実現するため、市、県、国などに期待することは何ですか。あてはまるものに○をつけてください。(最大3つ)

- 脱時間給、柔軟な働き方、裁量労働制の法整備。(1年)
- 中小企業では人員の確保が出来ない。(1年)
- 公共工事における、ゆとりある工期設定。(1年)
- 補助金・補助人員、法律で会社ばかりしめても意味がないことに、いい加減気付いて欲しい。(1年)
- 企業コスト増に対する減税、補助金はいらぬ。(1年)

問12 貴事業所において、従業員のワーク・ライフ・バランスを推進するために、今後どのようなことが重要だとお考えになりますか。主にあてはまるものに○をつけてください。(最大3つ)

- 余裕人員確保に対する助成。(1年)
- 定時帰社社員への評価と報酬の増加。(1年)
- 営業時間の短縮。(1年)

問13 貴事業所において、男性の育児参画を促進するために実施していることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 小規模企業であるから、人材・経営資金等全ての面で難しい。(1年)
- 対象者がいない。(1年)
- 育児のための休暇について奨励している。(1年)

問14 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントについて、どのような対策を実施していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- セクハラは全くない。(1年)
- 相談者を指定している。(1年)

問15 「次世代育成支援対策推進法」に基づき、国や自治体のほか企業等は従業員の子育てを支援するための「一般事業主行動計画」を策定することが義務づけられています(従業員101人以上の事業所は策定義務、100人以下の事業所は努力義務)。貴事業所での策定状況について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 小規模企業手当、人材・経営資金等全ての面で余裕が無い。(1年)
- 具体的に検討したが認定のハードルが高い。(1年)
- 知らない。(1年)

問17 貴事業所における貴方様の職位を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。また、「1 管理職」と答えた方は()に役職をお書きください。

- | | | |
|---------------|----------|--------|
| ●代表取締役社長(15件) | ●事務長(4件) | |
| ●部長(8件) | ●工場長(4件) | |
| ●課長(7件) | ●次長(2件) | |
| ●役員(5件) | ●所長(2件) | など他10件 |

1. 市民アンケート調査票

あなたご自身のことについてお聞きます

問1 あなたの性別をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。
(戸籍上の区分ではなく、性自認(自分が認識している性)によりお答えください。)

- 1 男性 2 女性 3 その他

問2 あなたの年齢をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 1 20 歳未満 2 20 歳代 3 30 歳代 4 40 歳代
5 50 歳代 6 60 歳代 7 70 歳以上

問3 あなたが現在生活しているご家庭の家族構成をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 1 単身世帯 (あなただけ)
2 1 世代世帯 (夫婦だけ)
3 2 世代世帯 (夫婦と子、夫婦と親、親と子など)
4 3 世代世帯 (祖父母と夫婦と子、親と子と孫など)
5 その他 ()

問4 あなたのお住まいの地区をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 1 亀川地区 2 星生地区 3 野登地区
4 神辺地区 5 白川地区 6 川崎地区
7 井山川地区 8 閑地区 9 坂下地区
10 加太地区 11 わからない (町名)

問5 あなたの職業をお答えください。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 1 会社員・公務員等
2 パートタイマー・アルバイト
3 自営業 (農林水産業、商工業等)
4 家事専業・家事手伝い
5 学生
6 無職
7 その他 ()

亀山市の男女共同参画に関する 市民アンケート調査

— あなたのご意見をお聞かせください —

平素は、市行政に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、亀山市では男女共同参画社会の実現に向け、平成20年に「亀山市男女が生き生き輝く条例」を制定し、平成29年3月には、「第3次亀山市男女共同参画基本計画」を策定しました。これに基づき、市と市民、事業者、各種活動団体、教育に携わる者が協働して、総合的かつ計画的に様々な施策を展開しています。

今回、「第3次亀山市男女共同参画基本計画」の計画期間の終了に伴い、新たに「第4次亀山市男女共同参画基本計画」を策定することとなりました。新たな計画を策定するにあたり、現在の男女共同参画の進捗状況を確認するとともに、市民の皆さんの男女共同参画に関する意識や生活についてご意見を伺い、計画策定の基礎資料とさせていただきますと存じます。

この調査は、無作為に抽出した満18歳以上の市民約1,200人の皆様にご協力をお願いしております。ご回答につきましては、無記名でご返信いただきますので、個人が特定又は判別されることはございません。また、調査結果は全体として集計しますので、個人の情報もれることはありません。率直なご意見を記入いただきますようお願い申し上げます。

令和2年8月

亀山市長 櫻井 義之

《調査票のご記入にあたってのお願い》

1. ご回答にあたっては、**あて名のご本人がお答えください。**
 2. ご回答は、質問をよく読んで、あなたの状況や考え方に最も近い番号を選んで○印をつけてください。「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが、なるべく具体的にその内容をご記入ください。
 3. ご回答は、鉛筆、ボールペンなどではっきりとご記入ください。
 4. ご記入いただきました調査票(この用紙)は、**8月25日(火)**までに、同封の返信用封筒に入れて、お名前を書かずに郵便ポストにご投函ください。(切手不要)
- 【この調査についての問合せ先】

亀山市生活文化部文化スポーツ課文化共生グループ 電話 96-1223 (直通)
メール bunkakyosei@city.kameyamie.jp

家庭生活について

問6 あなたには同居している人がいますか。あてはまるものに1つOをつけてください。

- 1 同居している人がある（配偶者・パートナー等と生活している）
- 2 以前は同居していたが、現在は同居していない
（現在、配偶者・パートナー等とは生活していない）
- 3 同居している人はいない
（配偶者・パートナー等とは生活したことはない）

問6-2及び問7に
お答えください。

問6-2 問6で「同居している人がある（配偶者・パートナー等と生活している）」と答えた方にお聞きます。あなたの配偶者（パートナー）の職業は何ですか。あてはまるものに1つをつけてください。

- 1 会社員・公務員等
- 2 パートタイマー・アルバイト
- 3 自営業（農林水産業、商工業等）
- 4 家事専業・家事手伝い
- 5 学生
- 6 無職
- 7 その他（ ）

家庭生活について

問7 問6で「1 同居している人がいいる(配偶者・パートナー等と生活している)」と答えられた方にお聞きします。あなたの家庭では、①～⑬の家庭生活について、パートナーの間でどのように行っていますか。①～⑬のそれぞれについて、あてはまるものに1つQをつけてください。

行っている状況	ほとんど自分がしている	自分（パートナ）も手伝う	平等に分担している	中心だが自分も手伝う	配偶者が自分も手伝う	ほとんど配偶者がしている	配偶・同居人など、自分がしている外や	その他
家庭生活の内容								
①食事の支度	1	2	3	4	5	6		7
②食事の後片付け	1	2	3	4	5	6		7
③家の掃除	1	2	3	4	5	6		7
④入浴の準備、風呂場の掃除	1	2	3	4	5	6		7
⑤日常の買い物	1	2	3	4	5	6		7
⑥日常の家計管理	1	2	3	4	5	6		7
⑦日常のゴミ捨て	1	2	3	4	5	6		7
⑧洗濯	1	2	3	4	5	6		7
⑨高額な商品の購入決定	1	2	3	4	5	6		7
⑩生活費の確保	1	2	3	4	5	6		7
⑪PTAや地域の行事参加	1	2	3	4	5	6		7
⑫親戚とのつきあい	1	2	3	4	5	6		7
⑬近所とのつきあい	1	2	3	4	5	6		7

男女共同参画社会について

「男女共同参画社会」とは、
「男女が性別にかかわらず、個性と能力を十分発揮する機会が確保されることにより、自らの意思によって社会の様々な分野における活動に参画し、共に責任を担う社会」のことです。

問8 あなたは、「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。あてはまるものに1つをつけてください。

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、意味は知らなかった
- 3 知らなかった

男女平等について

問9 あなたは、次の分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。①～⑧のそれぞれについて、あてはまるものに1つをつけてください。

あなたの ご意見 分野	優男 遇性 さの て方 い る が	優男 遇性 さの て方 い る が	平 等 で あ い る が	優女 ど 性 ら か の と い え る が	優女 遇性 さの て方 い る が	わ か ら な い
①家庭のなかで	1	2	3	4	5	6
②職場のなかで	1	2	3	4	5	6
③学校のなかで	1	2	3	4	5	6
④地域のなかで	1	2	3	4	5	6
⑤社会通念や風潮で	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑦政治(政策決定)の場で	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体で	1	2	3	4	5	6

問10 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどの思いますか。あてはまるものに1つをつけてください。

- 1 同感する
- 2 どちらかといえば同感する
- 3 どちらかといえば同感しない
- 4 同感しない
- 5 わからない

問10-2 なぜそう思いますか。同感する人、同感しない人それぞれ、あてはまるものをすべてに○をつけてください。

「1 同感する」「2 どちらかといえば同感する」と答えた方

- 1 日本の伝統・美徳だと思ふから
- 2 役割分担をした方が効率がよいと思うから
- 3 子どもの成長にとってよいと思うから
- 4 個人的にそうありたいと思うから
- 5 その他 () 6 理由を考えたことはない

「3 どちらかといえば同感しない」「4 同感しない」と答えた方

- 1 男女平等に反すると思ふから
- 2 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思ふから
- 3 男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとってよいと思ふから
- 4 少子高齢化に伴う労働力の減少に対応するため
- 5 一方的な考え方を押しつけるのはよくないと思ふから
- 6 その他 () 7 理由を考えたことはない

子育てについて

問11 子育てについて、あなたのご意見にもっとも近いものはどれですか。
①～⑦のそれぞれについて、あてはまるものに1〇をつけてください。

あなたのご意見 子育てについて	そ う 思 う	そ ぞ う ら か 思 い え う	そ ぞ う ら か 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	5
②子どもの世話の大部分は、父親にもできる	1	2	3	4	5
③必要があれば、子育て支援サービスを受けて子育てをしてもよい	1	2	3	4	5
④男の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑤女の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑥男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑦女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5

問12 あなたは、子育てに関する地域活動に参加したことがありますか。あてはまるものに1〇をつけてください。

- 1 参加したことがある 2 参加したことはない

※「子育てに関する地域活動」の例…

子ども見守り活動、PTAや子ども会などの役員の活動、スポーツ少年団などの指導活動、放課後子ども教室の活動、教育協議会の活動など

健康・介護について

問13 あなたは、令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）の1年間で、健康診断を受診しましたか。あてはまるものに1〇をつけてください。

- 1 受診した (問14へ進む)
2 受診していません

問13-2へ

問13から

問13-2 問13で「2 受診していない」と答えた方にお聞きします。なぜ、受診しなかったのですか。あてはまるものに1〇をつけてください。

- 1 受診する機会がなかったから 2 健康には、自信があるから
3 忙しくて受ける暇がなかったから 4 経済的にゆとりがないから
5 健康診断は好まないから 6 その他 ()

問14 あなたの家庭に、常時介護の必要な方はいますか。あてはまるものに1〇をつけてください。

- 1 はい
2 いいえ (問15へ進む)

問14-2 問14で「1 はい」と答えた方にお聞きします。その方の世話は誰がしていますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(※介護を受ける人からみた関係でお答えください)

- 1 配偶者 (パートナー) 2 息子
3 娘 4 子ども全員
5 息子の配偶者 (パートナー) 6 娘の配偶者 (パートナー)
7 親 8 ホームヘルパー (在宅サービス)
9 介護施設、老人ホーム等 10 近所や地域の人
11 その他 ()

就労について

問15 あなたは現在、収入を得る仕事（産前・産後休暇、育児・介護休業、私傷病休暇中なども含む）をしていますか。あてはまるものに1〇をつけてください。

- 1 している
2 していない (問15-5へ進む)

問15-2 問15で「1 している」と答えた方にお聞きします。あなたが働いているのはどのような理由からですか。あてはまるものに〇をつけてください。(最大2つまで)

- 1 主たる収入として生計を維持するため
2 従たる収入として家計の足しにするため
3 教育資金を得るため
4 将来に備えて貯蓄するため
5 自分で自由に使えるお金を得るため
6 生きたいを得るため
7 能力・技能・資格を活かすため
8 社会に貢献するため
9 働くのが当然だから
10 その他 (具体的に：)

問15-3 問15で「1 している」と答えた方にお聞きします。あなたの働いてい
るところでは、男性と女性とが平等だと思いますか、あてはまるものに1つ
Oをつけてください。

- 1 平等である (問16へ進む)
2 女性の方が優遇されている
3 男性の方が優遇されている



問15-4 問15-3で「2 女性の方が優遇されている」「3 男性の方が優遇さ
れている」と答えた方にお聞きします。あなたが働いているところで、男
女が平等だと思わないのはどのようなことですか。あてはまるものすべ
てにOをつけてください。

- 1 賃金 2 昇進、昇格 3 能力評価
4 採用時の条件 5 補助的な仕事しかやらせてもらえない
6 定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
7 結婚したり子どもが生まれたりと、勤め続けにくい雰囲気がある
8 教育訓練を受ける機会に差がある
9 その他 () 10 わからない (問16へ進む)

問15-5 問15で「2 していない」と答えた方にお聞きします。今後適当な仕事
があれば働きたいですか。働きたい仕事の形を、あてはまるものに1つO
をつけてください。

- 1 常勤の仕事 (正規従業員) 2 パートタイム、アルバイト、非常勤など
3 派遣の仕事 4 自営業、家族従業員など個人で働きたい
5 在宅で働きたい (内職やインターネット等を活用して)
6 その他 ()
7 働きたいとは思わない

問16 女性が職業をもつことについてあなたはどのように思いますか。あてはまるものに1つO
をつけてください。

- 1 結婚して子どもが生まれた後も、職業をもち続ける方がいい
2 結婚するまでは職業をもつが、その後はもたない方がいい
3 結婚して子どもができるまでは職業をもつが、その後はもたない方がいい
4 結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を
もつ方がいい
5 職業は一生もたない方がいい
6 その他 ()
7 わからない

問17 あなたは、現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか、あてはまるものに1
つOをつけてください。

- 1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない

問18 女性が働き続けていくうえで、大きな障がいになっているのは何だと思いますか。
あてはまるものにOをつけてください。(最大3つまで)

- 1 家族の協力や理解が得にくいこと
2 家事や育児との両立が難しいこと
3 老人や病人の介護・看護があること
4 企業が女性に責任ある仕事を任せないこと
5 企業が結婚・出産した女性の雇用をきこう傾向があること
6 育児休業制度などの条件が整っていないこと
7 女性自身の就労に対する意識が低いこと
8 その他 ()
9 特に障がいはないと思う

問19 あなたは、次の制度の内容についてご存知ですか。また実際に取得したことがあり
ますか。あてはまるものに1つOをつけてください。

	内容を知っているか				取得したことがあるか	
	よく 知っ てい る	少し 知っ てい る	こ こ ろ を 知 る 程 度 な い	知 ら な い	が取 得し たこ と	が取 得し たこ と な い
①育児休業制度	1	2	3	4	1	2
②介護休業制度	1	2	3	4	1	2
						3

※育児休業制度——男女を問わず労働者が原則1歳に満たない子どもを養育するため、
一定期間休業できる制度。
※介護休業制度——労働者が高齢者等の介護のため、一定期間休業できる制度。

マタニティハラスメント・パタニティハラスメントについて

問20 あなたは、次の言葉をどの程度知っていますか。AとBのそれぞれについて、あ
てはまるものに1つOをつけてください。

	認知状況			
	知 よ く 知 っ て い る	少 し 知 っ て い る	程 度 な い 知 ら な い	知 ら な い
A マタニティ・ハラスメント	1	2	3	4
B パタニティ・ハラスメント	1	2	3	4

※マタニティ・ハラスメント——妊娠・出産・育児休業等を理由とする女性社員への不利益な取扱い。
※パタニティ・ハラスメント——男性社員が育児休業や短時間勤務制度等を利用して育児参画しようと
することを妨げる行為。

問21 あなた自身やあなたの周囲で、職場におけるマタニティ・ハラスメントを経験した人はいいますか。それは、どのようなマタニティ・ハラスメントでしたか。あてはまるものをすべてに○をつけてください。

- 1 子育てのための休暇・休業、短時間勤務などの制度利用を認めてもらえなかった
- 2 妊娠中や産休明けに、心ない言葉を言われた
- 3 妊娠・出産がきっかけで、解雇や契約打ち切り、自主退職への誘導をされた
- 4 妊娠を相談できず職場文化がなかった
- 5 妊娠中や産休明けに、残業や重労働を強いられた
- 6 妊娠中や産休明けに、嫌がらせをされた
- 7 妊娠・出産がきっかけで、望まない異動をさせられた
- 8 妊娠・出産がきっかけで、雇用形態を変更された
- 9 自身や周囲でマタニティ・ハラスメントはない
- 10 その他（具体的に：)
- 11 わからない

問22 あなた自身やあなたの周囲で、職場におけるパタニティ・ハラスメントを経験した人はいいますか。それは、どのようなパタニティ・ハラスメントでしたか。あてはまるものをすべてに○をつけてください。

- 1 休暇・休業、短時間勤務などの制度利用を認めてもらえなかった
- 2 休暇・休業などを申請したら、上司に「育児は母親の役割」、「出世できない」、「キャリアに傷がつく」など言われた
- 3 子育てのための制度を利用したら嫌がらせをされた
- 4 自身や周囲でパタニティ・ハラスメントはない
- 5 その他（具体的に：)
- 6 わからない

ワーク・ライフ・バランスについて

問23 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、ご存知ですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- 1 よく知っている 2 少し知っている
- 3 言葉を聞いたことがある程度 4 知らない

※ ワーク・ライフ・バランスとは仕事と生活の調和を図ることです。
亀山市男女共同参画を推進する条例「亀山市男女が生き生き働く条例」第3条では、男女共同参画を推進するための基本理念の1つとして、「男女がお互いに協力し合い、家事、育児、介護等の家庭生活と仕事、地域活動等の社会生活との両立に努めること」と定めています。

問24 どのようにすれば、自分が希望する時間の取り方ができると思いますか。あてはまるものをすべてに○をつけてください。

- 1 職場の雰囲気が変われば（帰宅のしやすさなど）
- 2 仕事の量が少なくなれば
- 3 仕事のやり方が変われば（効率化など）
- 4 配偶者（パートナー）が家事・育児・介護に参加してくれれば
- 5 育児休業や短時間勤務など、仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されれば
- 6 保育所など仕事と家事・育児・介護を両立するための施設が整備されれば
- 7 育児休業や短時間勤務といった制度の利用がキャリアにハンデとならなければ
- 8 その他（)
- 9 わからない

問25 長時間労働が顕著であったり、休みが取りにくかったりといった実情があります。これらの原因は何にあると思いますか。次の中からあてはまるものをすべてに○をつけてください。

- 1 職場の雰囲気（帰宅のしにくさ）
- 2 職場の雰囲気の中で、家事や育児に携わることに対する職場の理解がない
- 3 仕事の量の多さ 4 非効率な仕事のやり方
- 5 育児休業時間や短時間勤務制度などの両立支援制度の利用がキャリアにおけるハンデとなること
- 6 労働者自身の意識 7 その他（)
- 8 わからない

ドメスティック・バイオレンスなどについて

問26 あなたは、次の言葉および法律の内容についてご存知ですか。①～⑥のそれぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。

	よく知っている	少し知っている	言葉を聞いたことがある程度	知らない
① ドメスティック・バイオレンス	1	2	3	4
② DV防止法	1	2	3	4
③ DVに関する通報の呼びかけ	1	2	3	4
④ デートDV	1	2	3	4
⑤ セクシュアル・ハラスメント	1	2	3	4

※ドメスティック・バイオレンス——(domestic violence) 配偶者であった者、恋人及び同棲関係にある者に対する身体的、性的、精神的、経済的又は社会的暴力をいいます。略して、DVとも言われています。

DV防止法——DVの防止及び被害者の保護を図ることを目的として2001（平成13）年に制定。その後の法改正により、DVとする暴力の範囲や保護命令制度の対象が拡大された。正式名称「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」。

通報の呼びかけ——DV防止法では、配偶者からの暴力を受けている人を見つけた場合は配偶者暴力相談支援センター等へ通報するように呼びかけています。

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z

デートDV—中学・高校生や大学生などの若い世代間で、恋人などの親しい関係で起こる大
人のDVと同じような身体的、性的、精神的、経済的又は社会的暴力をいいます。

シユアル・ハラスメント——(sexual harassment) 性的な言動により、他の者に不快感もしくは精神的苦痛を与えること又は相手方の生活環境を害することを行います。

問27 あなたはこれまでに、配偶者（パートナー）や恋人等から暴力を受けた経験がありますか。あてはまるものに1つをつけてください。

1 ある 2 ない (問28へ進む)

問27-2 問27「1 ある」と答えた方にお聞きします。その暴力はどのようなものでしたか。これまでの状況に関して①～③のそれぞれについて、**あてはまるものに1・2をつけてください**。また、現在の状況に関して**も同様に、あてはまるものに1・2をつけてください**。

	これまで		現在		
	何 度 あ つ た	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	な い	現 在 は な い 現 在 も あ る	
①命の危険を感じる程度の暴行を受ける	1	2	3	1	2
②医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける	1	2	3	1	2
③医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける	1	2	3	1	2
④交友関係や電話、メール等を細かく監視される	1	2	3	1	2
⑤生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる	1	2	3	1	2
⑥大声でどなられたり、暴言を吐かれたりする	1	2	3	1	2
⑦足で蹴られる	1	2	3	1	2
⑧手でたたかれる	1	2	3	1	2
⑨殴るふりをして、おどされる	1	2	3	1	2
⑩何を言っても無視され続ける	1	2	3	1	2
⑪いやがっているのに性的行為を強要される	1	2	3	1	2
⑫たたくのにアダルトビデオ・雑誌を見せられる	1	2	3	1	2
⑬その他（					

-13-

問27-3 問27で「1 ある」と答えた方にお聞きます。暴力を受けたとき誰かに相談しましたが、あてはまるものに1つをつけてください。

1 相談した

問27-4 問27-3で「1 相談した」と答えた方にお聞きます。どのような所
および人に相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてくださ
い。

- 1 配偶者暴力相談支援センター「女性相談所」
- 2 三重県男女共同参画センター「フレンドみえ相談室」
- 3 三重県の相談窓口「三重県人権センター」
- 4 亀山市福祉事務所（女性相談窓口）
- 5 警察
- 6 弁護士・法テラス
- 7 教員、その他学校関係者
- 8 医師など医療関係者
- 9 他の市町村の女性相談員
- 10 民生委員・児童委員
- 11 人権擁護委員
- 12 民間支援団体
- 13 親族
- 14 友人・知人
- 15 その他（ ）

(問28へ進む)

問27-5 問27-3で「2 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 誰も相談する人がいかなかったから
- 2 どこ（誰）に相談してよいかわがなかったから
- 3 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 4 相談しても無駄だと思ったから
- 5 相談したことがわがたと仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりする
と思ったから
- 6 相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをと思ったから
- 7 自分さえ我慢すれば、何とかのままやっていけると思ったから
- 8 世間体が悪いから
- 9 他人を巻き込みたくなかったから
- 10 相談するほどのことではないと思ったから
- 11 その他（ ）

-14-

132

問28 配偶者やパートナーから暴力を受けたときに相談できる機関や関係者などの窓口のなかで、そのような相談ができることを知っていたものについて、あてはまるものをすべてに○をつけてください。

- 1 配偶者暴力相談支援センター「女性相談所」
- 2 三重県男女共同参画センター「フレンドみえ相談室」
- 3 三重県の相談窓口「三重県人権センター」
- 4 亀山市福祉事務所（女性相談窓口）
- 5 警察
- 6 弁護士・法テラス
- 7 教員、その他学校関係者
- 8 医師など医療関係者
- 9 他の市町村の女性相談員
- 10 民生委員・児童委員
- 11 人権擁護委員
- 12 民間支援団体
- 13 その他（ ）

問29 あなたは、配偶者（パートナー）や恋人等からの暴力（DV およびデートDV）を見聞きした経験はありますか。あてはまるものに1○をつけてください。

- 1 身近に被害を受けた人がいる
- 2 身近な人から相談を受けたことがある
- 3 テレビやマスコミなどで知っている程度
- 4 見聞きした経験はない
- 5 その他（ ）

問30 あなたは、DV およびデートDVを受けている人を発見したとき、通報しますか。あてはまるものに1○をつけてください。

- 1 必ずする
- 2 ひどい暴力の場合に通報する
- 3 通報しない
- 4 その他（ ）
- 5 わからない

問31 最近5年間程度のうちで、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある
 - 2 身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がいる
 - 3 セクシュアル・ハラスメントを受けた人から相談されたことがある
 - 4 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
 - 5 テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている
 - 6 経験したり（テレビや新聞なども含めて）見聞きしたりしたことはない
 - 7 その他（ ）
- 問32へ進む

問31-2 問31で「1 セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」と答えた方にお聞きします。あなたは、セクシュアル・ハラスメントを受けたとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 セクシュアル・ハラスメントを行った相手に抗議した
- 2 家族や身近な人、友人に相談した
- 3 公的な相談機関に相談した
- 4 警察等に相談した
- 5 仕方がないと思い、何もしなかった
- 6 怖くて何もできなかった
- 7 世間体や、今後の不利益を考えると何もできなかった
- 8 その他（ ）

問32 近年において、性犯罪や売買春（いわゆる「援助交際」を含む）、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント等についての関心が高まっていますが、このようなことをなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。（最大3つまで）

- 1 法律・制度の制定や見直しを行う
- 2 犯罪の取締りを強化する
- 3 捜査や裁判での担当者に女性を増やし被害女性が届けやすいようにする
- 4 被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
- 5 被害者のための相談所や保護施設を整備する
- 6 学校・家庭における男女平等や性についての教育を充実させる
- 7 性別や人種・障がいの有無による差別、同和問題などのあらゆる差別を許さないよう、人権尊重についての教育を学校、家庭において充実させる
- 8 メディア（新聞・テレビ等）が自主的に倫理規程を強化する
- 9 過激な内容の映像ソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する
- 10 その他（ ）
- 11 特に対策の必要はない
- 12 わからない

社会参加について

問33 あなたは現在、地域における社会活動に参加していますか。あてはまるものに1つQをつけてください。

- 1 参加している 2 参加していない

問33-2 問33で「1 参加している」と答えた方にお聞きします。あなたが参加している社会活動はどのようなものですか。あてはまるものすべてにQをつけてください。

- 1 県・市の審議会・委員会の活動
- 2 町内会、自治会等の活動
- 3 PTA活動
- 4 子ども会・青少年グループの世話
- 5 青年団体・女性団体・老人団体などの活動
- 6 消費者団体・生活協同組合などの消費者活動
- 7 NPO団体などのボランティア活動
- 8 その他 ()

問33-3 問33で「1 参加している」と答えた方にお聞きします。あなたはどのように社会活動に参加していますか。あてはまるものに1つQをつけてください。

- 1 会合や行事の運営などにも積極的に参画し、必要があれば発言もしている
- 2 会合や行事の運営などに参加している
- 3 会合や行事の運営など为中心的な役割以外で参加している
- 4 その他 ()

問33-4 問33で「2 参加していない」と答えた方にお聞きします。社会活動に参加していない理由は何ですか。あてはまるものすべてにQをつけてください。

- 1 家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない
- 2 老人や病人の世話がある
- 3 家族の理解・協力がでない
- 4 仕事に忙しくて余裕がない
- 5 活動に経費がかかる
- 6 どんな活動があるのかよくわからない
- 7 その他 ()

問34 亀山市の全247自治会の中で、女性の自治会長の割合は5%未満と低いのが現状ですが、あなたは自治会や地域団体など、地域社会において女性が活躍していくために必要なことは何だと思えますか。あてはまるものすべてにQをつけてください。

- 1 女性の意識（固定的性別役割分担意識）の変革
- 2 男性の意識（固定的性別役割分担意識）の変革
- 3 家族の理解
- 4 きっかけ作り、実践の場への参加
- 5 ワーク・ライフ・バランスの実現
- 6 その他 ()
- 7 わからない

※固定的性別役割分担意識——例えば「男は仕事、女は家庭」、「男性は主要業務、女性は補助業務」というように、性別を理由として役割を固定的に考えることを言います。この固定的性別役割分担意識が、男女共同参画社会の形成を阻害する大きな要因の一つとなっています。

男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて

問35 政治や行政における、政策の企画や方針決定の過程への女性の参画は、徐々に改善はされているものの、依然として少ないのが現状です。あなたは、このような女性の参画が少ない状況は何が原因だと思いますか。あてはまるものにQをつけてください。（最大3つまで）

- 1 家庭・職場・地域における、性別による役割分担や性差別の意識
- 2 男性優位の組織運営
- 3 家族の支援・協力が得られない
- 4 女性の能力開発の機会が不十分
- 5 女性側の積極性が十分ではない
- 6 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない
- 7 その他 ()
- 8 わからない

問36 あなたは職場などの組織における重要な方針の決定過程に関わっていますが、あてはまるものに1つQをつけてください。

- 1 十分関わっている
- 2 関わっているが、十分ではない
- 3 関わりたいと思っているが、実際には関わっていない
- 4 関わりたいと思っておらず、実際も関わっていない

問37 災害時の避難所運営における男女共同参画についてお聞きます。あなたは、自然災害が起きたとき、避難所にはどのようなことが必要だと考えますか。**あてはまるものすべてにQをつけてください。**

- 1 男女別の更衣室
- 2 授乳室
- 3 プライバシーを確保するための間仕切り
- 4 安全で行きやすい場所の男女別トイレ
- 5 女性トイレ・女性専用スペースへの女性用品の常備
- 6 運営の責任者に男女両方がなること
- 7 男女両方の相談員による相談対応
- 8 その他 ()
- 9 特にない (「特にない」を選択した場合は他の項目の選択は不可)
- 10 わからない

問38 男女共同参画社会を実現するために、今後、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。**あてはまるものにQをつけてください。(最大3つまで)**

- 1 男女共同参画社会をめざした法律・条例・制度の制定や見直しを行う
- 2 女性を政策決定の場に積極的に登用する
- 3 各種団体の女性リーダーを養成する
- 4 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う
- 5 女性が経済力をつけるための知識や技術を習得するための職業教育・訓練を充実する
- 6 保育、介護の施設やサービスを充実する
- 7 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
- 8 女性の生き方に関する情報提供や交流、相談、教育などの場を充実する
- 9 男性に対する意識啓発や研修を充実する
- 10 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてのPRを充実する
- 11 その他 ()
- 12 特にない (「特にない」を選択した場合は他の項目の選択は不可)
- 13 わからない

最後に

男女共同参画に関することについてのご意見・ご要望等がありましたら、どんなことでも結構ですので、ご自由に記入してください。

アンケートは以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

2. 団体アンケート調査票

亀山市の男女共同参画に関する 企業アンケート調査

— ご意見をお聞かせください —

平素は、市行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、亀山市では男女共同参画社会の実現に向け、平成29年に「第3次亀山市男女共同参画基本計画」を策定しました。市と市民、事業者、各種活動団体、教育に携わる者が協働して、総合的かつ計画的に様々な施策を展開しています。
今回、「第3次亀山市男女共同参画基本計画」の計画期間の終了に伴い、新たに「第4次亀山市男女共同参画基本計画」を策定することとなりました。新たな計画を策定するにあたり、現在の男女共同参画の進捗状況を確認するとともに、企業の皆さんの男女共同参画に関する意識や生活についてご意見を伺い、計画策定の基礎資料とさせていただきます。

この調査は、市内の事業所を抽出し、ご協力をお願いしております。ご回答につきましては、無記名でご返信いただきますので、事業所が特定又は判別されることはございません。お忙しいところ、誠に恐縮ですが、このアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年8月

亀山市長 櫻井 義之

《調査票のご記入にあたってのお願い》

1. ご回答は、質問をよく読んで、あなたの所属する団体の状況およびあなたのお考えにもっとも近い番号を選んで〇印をつけてください。「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが、なるべく具体的にその内容をご記入ください。
2. ご回答は、鉛筆、ボールペンなどではっきりとご記入ください。
3. ご記入いただきました調査票(この用紙)は、**8月25日(火)**までに、同封の返信用封筒に入れて、お名前を書かずに郵便ポストにご投函ください。(切手不要)
【この調査についての問合せ先】

亀山市生活文化部文化スポーツ課文化共生グループ 電話 96-1223(直通)
メール bunkakyosei@city.kameyama.mie.jp

- 1 -

事業者の概要・状況について

問1 貴事業所の主たる業種を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 農林水産業 2 鉱業 3 建設業 4 製造業 5 電気・ガス・熱供給業
6 情報通信 7 運輸業 8 卸売・小売業 9 金融業・保険業 10 不動産業
11 サービス業 12 飲食・宿泊業 13 医療・福祉・介護 14 その他 ()

問2 貴事業所が、亀山市内で立地している地域を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 亀山地区 2 屋生地区 3 野登地区 4 神辺地区 5 白川地区
6 川崎地区 7 井田川地区 8 関地区 9 坂下地区 10 加太地区
11 わからない(町名)

問3 貴事業所が亀山市で事業活動を開始した時期を教えてください。年月の数字を記入してください。

西暦 年 月

問4 貴事業所における雇用形態別及び性別ごとの総従業員数を教えてください。下表に数を記入してください。(基準日は、原則令和7年4月1日で記入してください。もし、貴事業所で従業員の把握の時期が決まっていれば、そちらの基準日で記入してください。) 時点: 令和2年 月 日現在

① 総従業員数	総数	
	男性	女性
	人	人
② 正規社員数 うち管理職	人	人
	人	人
	人	人
③ 非正規社員数 (フルタイム)	人	人
	人	人
	人	人
パート・ アルバイト	人	人
	人	人
	人	人
派遣社員	人	人
	人	人
	人	人

- 2 -

問 4-2 女性管理職がいらない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけて
ください。

- 1 将来の候補者はいるが、今のところ必要なる職年数等を満たしていないから
- 2
- 3 今のところ管理職候補になり得る女性従業員がいないから
- 4 管理職に選ばれる前に辞めてしまったから
- 5 管理職に選ばれる女性従業員を採用できないから
- 6 管理職にすることを考えて女性従業員を採用していないから
- 7 家庭責任を多く負っているため管理職のような責任ある仕事に就けられないから
- 8 管理職は残業が多く、女性従業員を就かせるのは難しいから
- 9 女性従業員が希望しないから
- 10 男女問わず従業員が管理職になることはないから
- 11 「管理職」というポストがないから
- 12 わからない
- 13 その他（具体的に： ）

問4-3 今後女性が管理職になることがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 近いうちになる予定である 2 何ともいえない 3 今後もなる見込みはない

1 行っている 2 行っていない 3 検討中

1 本社・本店 2 支社・支店・営業所・出先機関 3 その他()

問7 貴事業所における、正規社員の育児・介護休業制度の利用実績がありますか。あればまるものすべてに○をつけてください。

- 1 法定どおりの育児休業制度（上限1年、取得回数1回/人）
- 2 法定を超える育児休業制度
（具体的に）
- 3 法定どおりの介護休業制度（1回につき通算3日、取得回数3回/人）
- 4 法定を超える介護休業制度
（具体的に）
- 5 利用実績はない
- 6 その他（ ）

問8 問7で5以外に○を付けた方にお聞きします。過去3年間の正規社員の育児・介護休業制度の利用対象者数及び実績を教えてください。下表に数字を記入してください。実績のなかった欄は「0人」を記入してください。

(育児休業制度)

貴事業所の年度の期間 (月 ～ 月)		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
利用対象者数	男性	人	人	人
	女性	人	人	人
利用実績	男性		人	人
	女性	人	人	人

(介護休業制度)

買事業所の年度の期間 (月 ～ 月)		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
利用対象者数	男性	人	人	人
	女性	人	人	人
利用実績	男性			人
	女性	人	人	人

問9 育児休業、介護休業による長期休暇後職場復帰した時に、早期現役復帰のための訓練制度や対策を認めていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 設けている 2 設けていない 3 検討中

5

ワーク・ライフ・バランスの推進などについて

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に、家事・育児、近隣との付き合いなどの生活も営みしに欠かすことができないものであり、現実の充実があってこそ、人生の生きがい、喜びは倍増します。しかしながら、現実の社会には、安定した仕事に就けず、経済的に自立することができず、仕事に追いつかれ、心身の疲弊から健康を害しかねない、仕事と子育てや老親の介護との両立に悩むなど、仕事と生活の間で問題を抱える人が多く見られます。これらが、働く人びとの将来への不安や働き方が実感できない大きな要因となっており、社会の活力の低下や少子化・人口減少という現象にまで繋がっていると言えます。それを解決する取組が、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現です。仕事と生活の調和の実現は、国民の皆さん一人ひとりが望む生き方ができる社会の実現にとつて必要不可欠です。（内閣府ホームページ引用）

問10 貴事業所において、ワーク・ライフ・バランスを促進する上で、問題となっていることはどんなことですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 管理職の意識改革が進まない
- 2 管理職を除く従業員の意識改革が進まない
- 3 長時間労働が習慣付いてしまっている
- 4 休暇や休業を取得した職員を代替できる組織体制になっていない
- 5 顧客・取引先との関係や営業時間上の制約がある
- 6 コストの増加につながる
- 7 経営上のメリットがあるように思えない
- 8 具体的な取組方法がわからない
- 9 その他（ ）
- 10 特に問題となっていることはない

-6-

問1 1 ワーク・ライフ・バランスを実現するため、市、県、国などに期待することは何ですか。あてはまるものに○をつけてください。(最大3つ)

1	社会におけるメリットの紹介など、市民に対する意識啓発
2	企業におけるメリットの紹介など、経営者に対する意識啓発
3	先進的な取組をしている企業の事例紹介
4	ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業の表彰
5	ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成
6	育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化
7	労働時間を縮減するための法制度の強化
8	具体的な取組方法についての研修・講座の開催
9	在宅勤務などができるような環境の整備
10	保育サービスなどの子育て支援の充実
11	介護サービスなどの充実
12	その他 ()
13	わからない
14	特にない

問1 2 貴事業所において、従業員のワーク・ライフ・バランスを推進するために、今後どのようなことが重要だとお考えになりますか。主にあてはまるものに○をつけてください。(最大3つ)

1	従業員の意識改革
2	経営者・管理職の意識改革
3	職場の雰囲気や慣習などの見直し
4	長時間労働の是正
5	非正規職員等による余裕人員の確保
6	結婚・出産のために退職した従業員の再雇用
7	育児・介護に対する制度的な支援
8	育児・介護に関する経済的な支援
9	事業所内保育などの充実
10	男性の育児休業等の取得促進
11	その他 ()

問1 3 貴事業所において、男性の育児参画を促進するために実施していることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	育児休業の取得を促している
2	その他の支援制度(時短勤務など)の取得を促している
3	昇進や給与査定などの評価に対する配慮をしている
4	育児にかかわりやすくするためのセルフプラン・セルフチェックを実施している
5	管理職に対する研修を実施している
6	組織内で業務を分担・代替しやすいように管理している
7	男性が育児参画しやすい雰囲気づくりに努めている
8	従業員に対する啓発を行っている
9	その他 ()
10	特にない

問1 4 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントについて、どのような対策を実施していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	相談窓口や専門家を設置している
2	事実確認や事後措置の体制を整備している
3	就業規則や社内規程などにセクシュアル・ハラスメント禁止を明記している
4	アンケートなどでセクシュアル・ハラスメントに関する意見や悩み、要望等を把握している
5	セクシュアル・ハラスメント防止のための研修や啓発を行っている
6	必要性は感じていないが、取組は進んでいない
7	必要性を感じていない
8	その他 ()

問 15 「次世代育成支援対策推進法」に基づき、国や自治体のほか企業等は従業員の子育てを支援するための「一般事業主行動計画」を策定することが義務づけられています（従業員101人以上の事業所は策定義務、100人以下の事業所は努力義務）。貴事業所での策定状況について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 策定済みである	2 現在、策定中、または策定予定
3 今のところ策定の予定はない	
4 その他（ ）	

問 16 貴事業所はこの「くるみん認定」「プラチナくるみん認定」についてどのような考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

くるみんマーク・プラチナくるみんマークとは

「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定を受けた証です。次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業は、申請を行うことによって「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定（くるみん認定）を受けることができます。この認定を受けた企業の証が、「くるみんマーク」です。さらに、平成 27 年 4 月 1 日より、くるみん認定を既に受け、相当程度両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取組を行っている企業を評価しつつ、継続的な取組を促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。プラチナくるみん認定を受けた企業は、「プラチナくるみんマーク」を広告等に表示し、高い水準の取組を行っている企業であることをアピールできます。

1 既に認定を上げている	2 現在、申請中、または申請予定
3 申請する予定はない	4 詳しく知ってから考えたい
5 その他（ ）	

問 17 貴事業所における貴方様の職位を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。また、1 と答えた方は（ ）に役職をお書きください。

1 管理職（ ）
2 管理職以外

アンケートは以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

